

## 天保九年 幕府巡見使の従者日記（二）

### 立野良道『西海道日記』五・六・七卷

森 弘 子  
宮 崎 克 則

#### 【解題】

『西南学院大学博物館紀要』四号において、「九州へ来た『諸国巡見使』と題し、天保九（一八三八）年に巡見使として九州へ派遣された三人の旗本（曾我又左衛門・大久保勘三郎・近藤勘七郎）のうち、大久保が書いた『順見使西国紀行』を紹介した。本稿の『西海道日記』は、大久保の従者である立野良道（たちの よしみち）が記録したものである。『西海道日記』全七巻のうち、一・二・三・四巻は『西南学院大学博物館紀要』五号に掲載したので、本稿では残りの五・六・七巻を翻刻する。立野良道のご子孫である立野一郎氏（千葉市中央区）の所蔵であり、同氏の許可を得て紹介している。

筆者の立野良道は、寛政四年（二七九二）十月十八日、上総国市原郡引田村（千葉県市原市引田）に生まれた。『市原郡誌』（名著出版、一九七二年）によると、幼少から学問を好み、享和三（一八〇三）年に十二歳で引田村の名主とな

り、文化七（二八一〇）年には出羽の大橋盤谷に従って漢学を修め、同十二年には江戸の清水浜臣に従い和学を研究。文政三（二八二〇）年に地頭の代官となり、天保元（二八三〇）年には平田篤胤に入門して国学を学んだ。そして四十代半ばの天保九年四月、幕府巡見使の大久保勘三郎に従って九州へ行き九月に帰郷する。なぜ大久保の従者となったのかは不明である。そして、弘化三（一八四六）年には江戸の国学者小山田與清に入門して国学を研究、安政三（一八五六）年に代官を辞し、明治二（一八六九）年に神祇官史生となり、日本書紀などの校正を担当した。明治九（一八七六）年七月二十七日没、八十五歳。墓地は引田の蓮蔵院にある。

著書として、上総の地誌に関する『上総志外伝』『上総志総論』『上総志引用書目』『安房志引用書目』『上総志料・安房志料』など多くがある。参考：大室晃『市原人物譚』（名著出版、一九七三年）、『市原市史』中巻（市原市教育委員会、一九八六年）。

### 【凡例】

- 解説にあたり用字は、原史料のとおりとするが、常用漢字のあるものはこれを用いた。
- 異体字・合わせ字は正字に改めた。
- 変体仮名は平仮名に改めた。
- 句読点は解読者による。
- 合字「夕」は「より」、「ホ」は「等」、「而」は「て」、「江」は「え」とした。
- 虫食い等により判読不可能な文字は、□にした。
- ( ) は筆者の注である。

深堀村

鍋島家

六月七日

【表紙】

自長崎
至肥後国水俣陣町

〔西海道日記 五〕

(見返しに「霞関に出て虎門より飯倉へ出」の墨書あり)

七日

朝より快晴、辰上刻頃よりくもりしか、巳中刻より又晴たり、巳より西風吹やます、ゆふくれやみたり、暁七ツ時より船支度して夜明ぬほと舟出ス、曳船艚にてこき行也、鍋島家より曳船多く出されたり、数百艘の舟ともこきつれゆくさま誠二見もの也き、所から一しほ興まさりておほゆ、長崎より三里、左二深堀村、是鍋島家の家老鍋島孫六郎居住也、孫六郎海辺に出て下

硫黄島

野母

天草島

座、深堀ハうしろハ山、前ハ海にて南北に人家長くつらなり、陣屋も見ゆ、右に香焼島、いさ、か入込たる湊あり、人家多し、高き所に寺なども見ゆ、うしろの山のいた、き遠見番所あり、右硫黄島、こうやき島より小し、畑も見へ人家もあり、野母ノモ、のもハ出崎より半道計、こなたせまき入江有てこ、より右へ曲り、海にそひ人家ありと、家数千軒計也と云り、居村の辺山低し、これよりさき出崎の方ハ却て高し、三ツ瀬、野母の沖三里ニあり、右ニ見ゆる也、此ミつせ俗に水瀬といふ、そのよしハ海中に一二間高く岩三ツあるにより三ツ瀬といひしを、此岩間より真水出ていさ、か塩気なし、されば水せと名つくと云り、三里といへと一里計の沖に見ゆ、野母の出さき迄ハ長崎よりハ辰巳さして来し也、野母の出崎を回れば左ノ方家数多く並び見ゆ、野母のうら浜といふ、うら浜より廿丁計はなれ、北より南へ出さきのひくき所をわきつ浦といふ、わきつ浦、家数千軒ありといふ、よき家もあり、此出崎の西東をうらおもておしなべて家あり、人家の中に丸く高く繁れる社地など見ゆ、舟人に問としらず、樺島、廻り凡一里よ、丸き島にて高し、険しき所をも畑に作りたり、人家ハ戌亥に向ひ山下の海辺に家数百軒計あり、売女などもありと、舟人のよく舟かゝりする湊也と、されと湊ハ深くいらす、よきみなどにハあらさるへし、わきつとかは島の間三里計もあらん、其中になかかみとて小き島あり、なかかみと樺島の間を舟行する也、わつか甘間よもあらん、いとせばし、野母のあたりハ風波あしき所にて舟ものりにくしとて、船人至て恐るゝ所也、かは島の瀬戸を出れば天草島近く見ゆ、富岡の辺ハ卯に見ゆ、島ハ南北に長く寅卯辰にかゝりて見ゆ、二三里こき出れば北ノ方に

高木作右衛門

島原温泉嶽よく見ゆ、天草島に着て左へ廻り出崎を右へいり、富岡の湊也、富岡の湊ハ北より入ば西東に長く町続けり、出さき西より北を入江かけくちに松原めぐりよき湊也、町の西ノ方高き所古木の中に陣屋あり、是高木作右衛門殿手代居、上陸場より三十間計行、左へ行、右ニ（二）太神宮あり、石鳥居あり、二丁計行、石垣高くくひ違ひあり、橋をわたり三丁計行、左ニ飛龍権現宮あり、石鳥居あり、御本陣、瑞林寺、禪宗也、石段廿五段、十段、三段上り庭也、本堂西向、南ノ方庫裏也、北ノ隅に洪鐘あり、肥後州天草郡富岡庄飛龍山瑞林寺重鑄洪鐘銘并引とあり、序略ス、銘曰、通身是口 木舌以鳴 殷々山震 浩々夢醒 不分遐邇 豈隔幽明 塵全利全 維徳維宏 寛永七庚寅年閏八月吉祥日 現住笑宗謹誌

六月八日

八日

富岡町

志岐村

朝より快晴、いさ、かくもらす、風もふかす誠ニあつし、辰上刻御出立、富岡町の中程より左へ曲り、町の出はなれ分レ道あり、左へゆき富岡の町の辺いさ、か狭く、陸に続きて出さき、山高く広く龍ノ島と名付しもむべなりと覚ゆ、左海辺並木にて右ニ田畑を見てゆく、志岐村、左右人家あり、土橋あり、十間計、左八幡宮あり、村をはなれ三丁計行、天満宮ノ社あり、少し高し、その宮を左に見て坂を上る、しんじやう坂といふ、此坂より龍ノ島目ノ下に見ゆ、志岐村ノ辺狭く低く、富岡の出崎高く広く木しけり黒く、実ニ龍ノさまともいふへし、遠景眺望よし、みづ茶屋、富岡より一里半、御休あり、十丁計上り行、功德水あり、左右

富岡町

杉の陰ニあり、左ニ石地藏ありて、地藏の傍より清水流れ出る也、いと冷水也、ひんの水ともいふよし、四丁計行、志岐村と本村の境あり、此辺峠也、一丁計行、御立場あり、御休なし、次第に三十丁計下る也、此坂上下すへて二里計人家なし、下れば本村、左右人家あり、新給村、村続き也、此辺川を右に見て行也、川は、十間計、広せ川、一名新給川ともいふ、東向寺と云禪寺あり、山門に額聯などあれば御供にて殊にさはる事ありて書ず、下河内村、平地、田ノ中に居村あり、左右ハ山高し、百姓大八方にて昼食、川を右に見て六七丁行、川を渡り十丁計行く、谷よりなかれ出る小川を土俵を積て渡る、二丁よ行右ニ高き城跡あり、向陽山明德寺といふ禪寺あり、石垣数十段あり、廿間計行、本戸馬場村の人家を過て御本陣に着也、富岡町より志岐村迄廿七丁、志岐村より本村迄二り廿三丁、本村より新休村迄五丁、新休村より下河内村迄十八丁、下河内村より本戸馬場村迄廿四丁、ノ四里廿五丁、本戸馬場村、高、家数三百間余、御本陣城山重兵衛

六月九日

九日

町山口村

朝間晴しか、辰下刻よりくもり、巳下刻より晴て終日くもらず、辰より南風ふく、されとつよからず、いとあつし、辰上刻御本陣を出立、三四丁行左へ曲り十丁計行、町山口村、左右人家四五丁続き、町めきてよき家多し、家数五百軒よありと、村中に川あり、石橋を掛廿間計、舟をの橋といふ、出はなれ海辺ニ出、間なく右へ谷間めきたる田などの所を行、いさゝか坂を上

楠浦村

御乗船場

天草一揆

り又下り、亀川村に至る、此所海辺よりちか道ありと云り、亀川村、左右に家あり、人家二百軒ありと、一丁計行、右ハ田地左ハ川也、十丁計川にそひ行、川を渡り二丁計上る、草すみ峠といふ、御立場あり、右ニ松一本ある所也、四五丁下り田あり、小坂上り右ニ松二三本有て地蔵あり、小橋をわたりいさ、か坂を上りて下り、楠浦村之内たち浦といふ所也、人家所々にあり、小川にそひ上り二丁計、たちのこえ坂といふ、下り三丁計、右ハ塩浜、左ハ山也、三丁計行、御乗船場也、此所ニ細川家の役人まちゐて同家の船にて渡海、廿丁計のわたり也、古ハ天草島の内きれと也、御上陸場、下浦の内せんばと云る所、小家二三十軒あり、一丁計行左、天満宮ノ社あり、いさ、か坂を上りて又下り、右ハ入海也、下浦村の本村也、左右人家多し、下りあいの坂三丁計、廿丁計行きりの木坂下り又上る、人家あり、道のこへ坂上り、三丁下り四丁計也、右ニ海を見て小川をわたり、馬場村、田地中を三丁計行川あり、四五丁行、湯船原村御昼食、二丁計行橋あり、五六丁行川を渡り、下河内村、左右人家有、三四丁行橋あり、御立場あり、四五丁行草すみ峠、四丁計の上り也、湯舟原村より此峠迄左右山にて、谷間田地つ、き也、草すみ峠の上、御休所あり、島原温泉嶽戌亥ノ方、いしま、談合島ともいふ、天草一揆の寄合相談有し島也といふ、丸く平らなる島也、島原に近し、六七丁谷間を下りてより田あり、人家あり、下津村の内也、小川を渡り谷間を下る、右高き所諏方の社有、小川土橋あり、是下津浦の谷間にて海の方に人家多く見ゆ、西に流る、也、川にそひ右へ行、少し上下し田ある谷間二出、是上津浦の谷間にて五六丁下に上津浦の人家見ゆ、右へ坂を上り又下り二丁計行

上津浦村

て御本陣に着、本陣八田ノ中也、本戸馬場村より町山口村迄十三丁、町山口村より亀川村迄十三丁、亀川村より楠浦村迄三十三丁、楠浦村より下浦村迄海上廿丁、下浦村より馬場村迄一里十八丁、馬場村より湯舟原村迄四丁、湯舟原村より河内村迄廿五丁、河内村より下津浦迄一里四丁、下津浦村より上津浦村迄十五丁、メ六里一丁、内渡海廿丁、肥後国天草郡上津浦村、高、人家

六月十日

十日

細川家

見物の多き

朝よりくもらず、辰より快晴いとあつし、辰より東南風吹たれと強からず、辰上刻、上津浦御本陣を出立、波戸場迄八丁計也、上津浦の人家を通り二丁計行御乗船場也、細川家の役人、高木作右衛門殿の手代など出て居る、見物のもの千万人、陸ハいふもさら也、舟に乗て見物するも数十艘也、見物の多き長崎にもまされるやうなり、上津浦より富岡へ海上九里、本戸馬場門三里半、舟をのり出シ天草島の山々浦のさきくゝなど見ゆ、天草島の内大島とて人家多き所、

口ノ津

玉峰寺

左の海辺二見ゆ、肥前の山々見ゆ、巳下刻口ノ津着、口ノ津ハ辰巳より海いりて未申より出崎有て口せまく中ハ丸く広く、人家ハ西より北かけ並ひ立てり、よき湊也、曳船の出精にして勢ひよく速なること、諸国今日に比すべきなし、口ノ津御上陸場より右え行二丁計、御本陣玉峰寺ニ着、石段三段、五段、四十二段也、山門あり、額、江上法窟、正面本堂、右ハ庫裏続き、右ニ鐘楼あり、鐘楼より口ノ津ノ町、入江など目ノ下に見ゆ、肥之前州高来郡島原領口津村太



六月十一日

十一日

月山玉峰禪寺云々、略ス、銘曰、曾聞大法 無如覺鐘 範就懸□ 扣之聲從 耳根頓□ 聞之  
音雍 厥中空虛 厥體無絳 醒衆醒眼 覺幼夢濃 圓通證八 作法界供 善哉功德 檀度壽  
宗 明巖梵宇 家國長年 法運無盡 萬古玉峰 岿 天和歲□壬戌佛歆吉日逆流識  
口津村、肥前国高来郡、高、家数九百軒余、上津浦より口津迄海上六里半、又ハ七里共いふ、  
口ノ津ハ東南より海いりて西ノ方入江をめぐり町つゝき、家並よく辺土にハめつらしき所也

南有馬村

朝より快晴、辰中刻より南風吹たれとあつし、申上刻よりくもりかち也、風ハ夜すからやまず、  
六ツ半時、口ノ津を出はなれ二丁計あり、大屋村、口ノ津の枝村也、橋をわたり五六丁行、橋  
を渡り左右人家あり、この崎といふ、二三丁行、東村、いつれも口ノ津之内也、口ノ津より  
此辺迄西より北かけ海にそひ行也、左へ谷間の田地ある所を通り坂あり、二丁計上り大や坂と  
云、四五丁行、家いさ、かあり、菖蒲田といふ、左ノ山のはらを四五丁行、茶屋の松といふ所  
あり、並木有、天草の諸島かけ眺望いとよし、是南有馬村の内也、ふるその、よし川、家少々  
あり、左貴船の宮あり、石鳥居あり、石灯笼二対あり、海辺を行、南有馬村の内、大江郷、右  
海中にさし出たる森あり、八幡社地也、左右長く続き人家多し、土橋を渡り一丁計行、右海へ  
さし出たる所あり、原古城跡也、今ハ悉く畑になり、大豆・薩摩芋など一面植たり、本丸、二  
ノ丸、三ノ丸などの跡あり、島原合戦記など云るものに、山高く岩峙ち陰き所もあるやうにこ

原古城

板倉内膳正

とく／＼書たれと、今よく見れば、海水より四五丈も高からんかと覚ゆる計也、北ノ方有馬村の方、大木の松一本にて幹よつにわかれ、其下に板倉内膳正殿の墓碑あり、石の高サ七尺計、横四尺計也、高来郡南有馬村

六月十二日

十二日

北有馬村

朝よりくもり、午時しはし日かけ見へしか、又くもり、未時より小雨たひく／＼ふり来てやミ、朝より東風烈しく午よりわきて甚しく、夜すからやます、六ツ半時頃御出立、五丁計行、川あり、土橋十五六間、橋より三丁計ゆき北有馬村、家数千二百軒計ありと、辰巳より戌亥に家長くつ／＼けり、其外にも枝村散在せりと、村中橋有、村を過て海辺迄行、左ノ山の出さき小坂を上り二丁計下る、隈田村、人家八百五十軒、左右家あり、此辺の外にも人家散在したりと、村はつれ土橋あり、海辺を行、西浦田といふ、右二鹿社あり、石鳥居に鹿社とあり、海へ一丁計さし出たり、一丁計上りまなく下り須川、西浦、す川など隈田村の小名、三丁計行又小坂あり、下り左右坂高く天満宮ノ社あり、森かう／＼し、田場を過て川あり、土橋高くかけたり、有家町村、人家六百軒よ、左右人家並つ、き町めきたり、村中より右へ曲り行、二丁計にて有田村、人家五百五十軒、左二専念寺といふ寺あり、鎌川、有田村之内御休あり、こゝより下り小橋三ツ計、人家も所々あり、海辺を行、堂崎村、家数五百七十軒余、左天満宮ノ社あり、土橋あり、左右人家あり、右海中へなり出たる松森あり、いさゝか坂を上り又下り土橋あり、畑中を行、

深江村

くつれ山

寛政四年四月

島原城下

布津村、人家六百八十軒、布津村にいり、畑中を通り道より右へ二丁計行、此所にも人家多くあり、百姓平之丞方御昼食、平之丞宅よりもとの道を二三丁帰り、右へ畑中の道を通る、左右一丈二三尺も高く、きりとふしの如し、三丁計行いさ、か上り古松しけりたる所御休所あり、右二海目ノ下に見ゆ、下り三丁計除しき所あり、橋をわたり又小橋あり、深江村、家数六百八十軒、左右人家あり、よき家多し下り、小川の橋を渡りて上り又下りて行、人家まはらにあり、諏訪の社あり、石鳥居あり、深江村より安徳、中木場の村々ハ左ノ方温泉嶽の麓の村々なり、安徳村、家数百六十軒、左右家あり、御立場あり、右みなと道、左島原城下、道のわかれあり、中木場村、家数三百三十軒、海辺にも人家かなたこなたに見ゆ、ひくし、中木場村の内、下名シメダカと云る所御立場あり、此辺くつれ山のふもと、左ノ方高く聳へ、崩れ跡白く見ゆ、十丁余もあらんか、あふき見るやう也、右に小島数多く見ゆ、山くつれの時出来たりと語れり、この山くつれのハ寛政四年四月朔日の事也、庄屋などに尋ねき、たる事おほけれど、あまりに事しけくいさ、か書付をかりたるをぬきいて、跡に記ス、十丁よ行、少し人家あり、此辺より山次第に遠さかる、下りて橋を渡り島原城下町に入、樹間より天守矢倉など見ゆ

島原城下町

一、私在所肥前島原、先達て御届申上候、去朔日山水押出し、城下海より洪浪打上ケ大変ニ及候所、其後只今迄兎角相静不申候、近比城地近辺、山中并平地迄も一体地面不穩、所々別紙

普賢山

之通異変之儀相増申候、右ニ付ては此以後如何体之大変可有之哉難計奉存候、扱又普賢山穴廻山焼、弥城郭ニ差向焼寄申候、只今焼候所最中田地ニ押移り、山中と申候ニも無御座、城内構、堀より凡三十丁程ニ相成申候、右之通次第焼寄候得は、城内ニ掛り申候歟、又は城中より北城郭ニ付候沖田と申所を焼通り、城郭東之海に焼抜可申程、甚無覺束模様ニ相成、城中より南ハ去朔日山水押出候末ニて、輒、人馬通路相成不申、在ノ方押廻シ海ニ御座候所、是又湊打潰、船揚場所無御座、舟寄候義相成兼申候、然所西ノ山焼寄候火、先北通焼抜可申様子ニ相成候歟、又は此節模様、山焼計之義も無御座候、都て如何様之急変可有之哉之程難計奉存候、変之模様ニより北通りニ掛候へは、四方通路給人共命障候程之儀難計奉存候、右体模様至候節は城内別条無之候共、家来之者为引退差置候儀可有御座、此段御届申置候、以上

子四月

民屋破損之覚

子四月朔日、洪波前山中木場拔崩、山海一時民屋破損之覚

- 一、御高札 六ヶ所
- 一、郷蔵 廿七軒
- 一、御番所 十軒
- 一、船 五百三拾艘
- 一、本家 貳千九百三拾貳軒

- 一、馬屋・灰屋 千七百四拾壹軒
- 一、堂社・拝殿共 廿八ヶ所
- 一、土蔵 三百貳拾棟
- 一、畑方 百拾五町貳反四畝分
- 一、田方 三百拾三町八畝分
- 一、並木土手 千百拾八間
- 一、塩浜 參拾四丁壹畝分
- 一、往來道橋 四拾四ヶ所
- 一、波戸石垣 五千貳百間
- 一、鳥居 十三基
- 一、田畑川除石垣 貳千七百間
- 一、死人 一万百八拾四人
- 一、水車 六輜
- 一、旅人出違人数 生死未不分
- 一、怪我人 六百四拾一疋<sup>(三)</sup>
- 一、怪我馬 九疋
- 一、斃牛馬 四百六拾貳疋

内牛十三疋 馬四百十九疋

一、潰家消失 本家十七軒

一、塩浜石垣 五百廿間

一、潰馬屋 廿七軒

一、船掛入口 式ヶ所

一、島 四ヶ所崩

一、米 千三百六拾六石四斗流失

一、関船 六十丁立四艘、四十六丁立式艘、廿式丁立五艘、十八丁立式艘、小早式拾

六艘、但、十三丁立より六拾一丁立迄

一、翌丑二月十日、流屋之者へ（おこ）晨具為手当金千両被下置候

一、同六月廿二日、御領分百姓中へ庄屋元にて御酒被下置候、但十六以上男千六百人之御積也、  
老人三合也、酒肴代十八文宛被下置候

六月十三日

十三日

暁よりくもり、雨いさゝかふりてやミ、巳中刻より晴しか、時々くもれり、朝より北風強く、  
午よりわきて烈しかりしか、申上刻やミたり、城下御本陣を出て町を通り橋を渡り、左二城あ  
り大手口あり、二丁計行右へ曲り町をはなれ海辺迄ゆき、板倉八幡、五社とてあり、此所へ

家老、中老

湯江村

神代村

島原領、佐賀領

家老、中老出ル、海辺を十丁計行、左へ二三丁行左へ一曲り、いさ、か下り橋をわたりなどし  
二丁計行、此辺左に島原村、杉谷村見ゆ、三會村、左二人家多し、海辺を行、三ノ沢村、人家  
左右ニあり海辺也、御立場あり石橋あり、東空閑村、左右人家、大野村、橋を渡り少し上下あ  
り、湯江村、左右人家、橋を渡り左へ下り橋を渡り、又上りて下り田間様あり、又上り畑など  
あり、いさ、か上り又下り橋を渡り、多比良村、左右人家多し、三丁計行右に川あり、橋を渡  
り左二宮あり、又橋あり、田場をゆく事十丁計、神代村、左右に人家あり、坂を下り又上り、  
右へきれ海辺へ出、御休所あり、並木の内也、是より並木十丁余、西郷村、海辺に村あり橋あ  
り、伊古村、島原領と佐賀領と二村にわかれたり、伊福村、古部村、人家左右にあり田地中也、  
三宝村海辺也、人家左右にあり、橋いくつもあり、守山村海辺也、人家多く有、右長崎道とあ  
る所より左へ六丁計上り山田村也、島原海道より左ノ山付の村也、山田村、肥前国高来郡、  
高、家

六月十四日

十四日

夜あけ、雨いさ、かふりてやミしか、卯中刻より大雨、辰下刻頃やみしか、巳中刻頃又ふり出  
たり、つよからす、早朝山田村を出立、六丁計行湯江川、橋あり、右海中に石田島とて小き島  
四ツあり、坂を上り人家あり、二丁計行又下り青の坂、青崎村、山田村之内、橋あり、野井村、  
左右人家あり、町長くよき家多し、左二宮あり、同村ふなつ名、海辺を行、八屋権現ノ宮、橋

島原侯

をわたり川にそひ、愛津<sup>アイツ</sup>村、右ノ川にそひ上る、つき当り番所あり、右へ曲り木戸あり、此所へ島原侯の役人出て居、右谷間ニいり十丁斗行、同村の内山王山、御休あり、島原領、佐賀領堺杭あり、からこ村、こはる坂下れば右ニ鍋島家の番所あり、こう坂二三丁上り御休あり、少し上りいむた、左ニ天草の海見ゆ、横山、右ニ人家見ゆ、長野村、左ノ方一里塚あり、右紀州山、左宇久島海辺なり、人家見ゆ、又坂を上る、左右並木、廿丁計上り右ニ川床村、ごみため坂、御休有、右一里塚松あり、ごみため左小川村下りじんの辻、左ノ方遠く長の村人家見ゆ、少し上り又下り左右人家少々あり、下りて海津村土橋あり、左ニ長崎道有、これ矢上へゆく道也、此所より諫早城下町内也、右ニ靈社、上町、下町、田代町、諫早村

諫早城下

六月十五日

十五日

朝間雨、一しきりふりしか、辰中刻よりやミ、巳より晴れたり、辰上刻諫早城下を出立、御本陣より右へ曲り二丁計行、又右へ曲り一丁計にて川はたへ出、左へ川にそひ一丁計行、川を渡る、廿間計、町を一丁よ行、左右田地、三四丁行橋あり、八丁計行小豆崎、少しの坂なり、左右人家あり、すぐに下る、十丁計田場を行、西中田村、橋あり、東長田村、左右人家あり、いさ、か上り左ニ御休所あり、一丁よ下り橋あり、又上り一丁よ下り橋あり、一丁よ行、上りて下り橋あり、二丁計行、又上りて下り、深のみ村、右入海也、入江の辺人家多くあり、いさ、か上り左右人家あり、天神社有、石鳥居あり、石坂上り本社あり、天神の傍より坂をあがり畑



湯江村

中を通りて下り橋二ツあり、入江近し、又上りて下り橋あり、をへ村、左右人家あり、いぬき村、坂を上り又下る、左右人家あり、下りて湯江村也、橋あり、いさ、か上り湯江村也、人家左右ニあり、御本陣光宗寺、道ノ左高き寺也、洪鐘あり、肥前州高来郡湯江村法城山光宗寺、享保十九甲寅歳十月廿七日とあり、高来郡、湯江村

六月十六日

十六日

多良山

夜あけしはしありて雨ふり出しか、一しきり甚しくてやミ、辰巳の間誠に強く、午中刻よりハ時々日かけ見へなから、村雨いくたひとなくふり来たり、朝より南風吹しか、辰巳午わきてはけしく、辰巳の間風雨甚しき事、道ゆきあへぬ迄也、風も終日やます、夜半なきたり、卯中刻御出立、人家をはなれ四丁計行川あり、三丁計行又小川あり、左へ曲り坂を上り並木松あり、大かた山の背を上り行也、是名にしおふ多良越也、九州に名に聞ゆる峠也、多良山ハ左に高し、温泉嶽にをさく、劣らぬやうに見ゆ、鹿のとう御休所あり、湯江村より一里、道ノ左右鳥居あり、石ノ額あり、太良嶽大権現とあり、花表に銘曰、肥陽靈区 太良神嶽 □物無邊 振威卓栄 尋本二佛 如爺以嬢 大悲救世 心當中央 華表神建 明德倍馨 檀主膺福 壽倅丁伶 元禄十四歳次辛巳仲春吉日、坂を下り小橋を渡り險しき坂をいくたひとなく曲り上る、七曲り坂といふ、此辺にての烈風甚雨、対州の七曲り峠を経し時にも増れるやう也、坂道をおち来る水恰も小川を上る心地したり、苦痛言語に堪たり、後に思へは対州とこ、と名も同しく、

対州の七曲り峠

難義

太良村

風雨の難義せしも同じきハ怪しき事と思はる、又下り坂を上り又下りて上り、山茶花、家二三軒あり、宇良村之内御休あり、二丁計行、左高き所に高来郡、藤津郡の郡界の石あり、是より並木いさ、か上り五丁計行下り、又上りて下り左松二本あり、ほうの木、糸岐村之内御立場あり、是より段々下り也、左山のかたそはいさ、か上る所もあり、三十丁よ行下る、糸岐村也、右海辺人家あり、糸き川甘間計、川をこして人家多し、太良村昼食、村中を通りいさ、か左へ曲り田場を通り坂を上る、大かた南へ向ひ上る也、太良村之内大たふ御休、右高き所也、五六丁行、少シ下り又上る、是より次第に下るのミ也、並木の下大たふより壱里、肥後の入海、其外山々など見え景よし、浜町の村へいり、橋をわたり三四たひ曲り御本陣に着、仙龍寺、藤津郡八本大村

六月十七日

十七日

鹿島村  
鍋島殿

朝よりくもりしか、辰より時々日かけ見へ、未より時々村雨ふり来たれと強からず、申上刻よりいとつよくふり、ゆふくれやミたり、早朝浜町村を立、三丁計行川あり、鹿島村、一丁計はなれ町長くつ、けり、されとよからず、左方鍋島殿陣屋あり、十丁よ行、右五宮明神の宮あり、石鳥居あり、ふくろ村左右人家あり、塩田村之内、左に吉浦大明神、左鳥居石ノ額、石手水鉢などあり、馬場長く桜を植たり、川はた也、塩田川、石の上に板を並へ橋とせり、甘間余、川をわたり、塩田村、少し家あり、一丁よはなれ、塩田町、ゆきあたり、右へ曲り町長くよき

塩田町

小田村  
馬頭観音

家あり、浜町より二里三丁、村はつれ橋あり、二丁計行、下熊村左右人家、した原村、るすと  
の森御休あり、下熊村より当村迄へなひ道いとあしく、三丁計行、南藤津、北杵島の郡界石あ  
り、桶崎、小野原村の内、左右人家、成瀬村、右高き所に成瀬大明神ノ宮あり、鳥居あり、伊  
王寺村、人家あり、土橋あり三十間計、橋を渡り二丁計行、右へ曲り行也、左へ行道あり、是  
長崎道也、やき米村、左山也、やき米村の出はなれ左二大きなるるせきあり、ふくも村、左右  
人家あり、村の出はなれ左二八幡ノ社あり、道はた石ノ鳥居あり、明和四年に立たる也、銘あ  
れど字体分明ならぬ、字多ければ書す、鳥居の傍に石を立たり、御国廿四社之一社とあり、馬  
場一丁計桜を植、左二池あり、石坂四十五段上り二ノ石ノ鳥居あり、銘文あり、終二、仰希雲  
行雨施五穀成生更諸郷豊邑富百姓安寧とあり、又五十三段上り本社あり、普請よからず、大町  
村、人家あり、村中左八幡宮あり、石橋あり、小田村、左右人家あり、左高き所八幡ノ社あり、  
此石坂ノ左二四丈計の楠あり、馬頭観音の像を掘たり、行基善の作也といひ伝へたり、信しか  
たし、領主より家を作りて雨露を覆へり、楠ハいと盛大也、古ハ小田木仏とて西遊記に記され  
たり、古の故よしを記したる石あり、御供なれば読ず過行ぬ、村をはなれ小田巖道ひきく雨後  
などハ道いとあし、と云り、山口村、左右人家、さるし村、左右人家あり、此村に左二宮あり、  
その宮の前道ノ辺に石多く有り、中にいと大きなる石にてさるしのかんく石とてあり、石も  
て打見れば、かんくとなり、ひゞきてかねの器を打か音したり、一丁計行、西杵島郡、東小  
城郡と郡界の石あり、八幡、左右人家あり多からず、左二八幡ノ宮あり、戸川村、左右人家あ

牛津村

り、新町、入口土橋あり、いと高くかけたたり、村の出はなれ土橋あり、いと高し、此ふたつの橋共川いと深く橋も高く掛たり、牛津村、小城郡定原ヶ里村

六月十八日

十八日

朝よりはれ、終日くもらす、いと暑し、南風ふきたれと強からす、辰上刻御出立、牛津村出口小橋あり、左右田地、久保田村左右人家あり、左小城郡、佐賀郡の郡界あり、村中左祇園社、右田中権現社あり、治郎ノ宮あり、香椎宮石鳥居、石ノ玉垣有大社也、左若宮あり、町長サ五丁計、かせ橋、板橋四十九間、橋を渡れば加瀬村、左右人家あり、堤を行、又同村の人家あり、二所にて百廿軒計、五六丁行左四面社あり、石鳥居あり、二ノ鳥居迄二丁程、御立場有、石ノ鳥居、寛文二寅年肥前佐賀国主松平丹波守藤原直茂、右中原村、左元町村、左右人家、扇町中原の内也、町中左天神若宮あり、出口板橋、是よりやえ宿、右番所あり、此所より城下町続也、やえ宿十丁行、永瀬町二丁、六座町二丁、左二かな仏あり、てんや町、右二ふくめん天満宮あり、伊勢屋本町、左ノ隅ニ太神宮あり、いせ屋町、田ふせ町、石橋を渡り中町、米屋町、白山町、右ニ制札場あり、左ニ八幡宮あり、呉服町、石橋あり、蓮池町

佐賀城下町

佐賀郡佐賀城下町、佐賀城下町名

紺屋町、下今宿町、材木町、高木町、上芦町、牛島町、上今宿町、柳町、蓮池町、呉服町、元町、東魚町、八百屋町、中島町、夕日町、白山町、勢地町、米屋町、寺町、唐人町、同新町、

中町、多布施町、伊勢屋町、岸川町、伊勢屋本町、点合町、西魚町、六座町、駄賃町、長瀬町、道祖本町、本庄町、ノ三十三丁

六月十九日

十九日

朝より晴れたり、辰巳ノ間くもりかち也しかはれたり、南風いさ、かふきいとあつし、六ツ半時出立、城下町を通り過て見付を出四丁計行、高尾村、左右人家多し、十四五丁行、左松一本あり、二三丁行、左ニ松一本、杉一本、是一里塚也と、西のかい村、東神崎郡、西佐賀郡の郡界あり、境原村、入口左ニ吉備津ノ社あり御休所あり、石橋を渡り境原村也、つき当り制札場あり、左ハ小倉道、右蓮池道也、町屋也、佐賀城下より此所迄一里半、左右田地、所々人家あり、蓮池村人家あり、見付をいり蓮池町也、城下町家六百軒余ありと、町中右祇園社あり、廿丁よ行、土橋有、犬尾橋、橋をわたれば犬尾村也、犬尾村左右人家あり、左八幡社あり、石鳥居あり、寛保元年十月建し也、増田村、左右人家あり、光法ミツノリ左右人家あり、水町左右人家有、寺井村、東ハ筑後川にそひ、南北に村長くつ、けり、佐賀城下より寺井迄四里八丁、是ハ蓮池に回りし故也、城下より寺井へすくに行ば二里八丁也と云り、此日より今日の道ハ小坂一ツもなし、誠ニ平田也、佐賀郡寺井村

蓮池町

筑後川

六月廿日

廿日

九州第一

朝より快晴、終日いさ、かくもらす、風もふかす、いとあつし、已上刻御本陣出立、波戸場迄三丁、波戸場ニ鍋島家の役人出て居、横川を十丁計行、川は、三十件計、筑後川、九州第一の大川也、源ハ豊後より発し筑前、筑後の小川落合て大川と成、川は、四丁程也、川上筑後ノ方、若津村の人家見ゆ、遊女などありてにきはし、この川肥前、筑後の国境也、小川に乘入り行也、右新地とて柳原領、人家多くあり、左ハ藤津ノ内、久留米領也、川は、一五間計、六丁計行、御上陸場也、一丁計行、立花家番所あり、小保町、町屋也、木下甚右衛門御昼食、村ノ中右ニ八幡宮あり、石鳥居あり、左へ曲り柳川領、久留米領の石立たり、榎津町、左右に人家あり、久留米領也、幡保町、左右ニ人家あり、柳原領也、城下へ壱りと石立たり、此辺にて四方を見渡せば、南ハ一里余にて海、子丑の方ハ筑前の山下迄十里余、目にたつ山なく、東西も大かた四五里山なく、わきて西ノ方佐賀領の方長く広く平地、田畑の多き事、武蔵を出しよりいつれの国にてもかはかり山遠く田畑なる土地を見ず、是筑前、筑後、肥前とおしなへたる田野也、南ハ温泉嶽、太良嶽、西ハせふり、北ハ筑前の宝満山、東ハ筑後、肥後境の山々見え景よし、大坂井村、小坂井村久留米領也、家いさ、かあり、小坂井ハ此通り筋ハ枝村のよし也、人家を一丁計行、東柳川領、西久留米領と大きなる木に記しあり、此辺より柳川の天守よく見ゆ、金納村、かまち村共いふよし、枝光村、いづれも人家道の左右ニあり、柳川村、土橋ニツつたり番所あり、城下へいり、新舟町、本船町、見付を入橋あり、上町、中町、左へ曲り、瀬高町一

田畑なる土地

天守

柳川城

丁目、大浜屋半兵衛方御本陣也

山門郡柳川城下郡、柳川城下町名

辻町、中町、上町、外町、西船津町、新船津町、蟹町、材木町、西町、八百屋町、糒屋町、鍛冶屋町、片原町、别当町、寺町、脇通町、宗元町、横町、裏町、瀬高町、一丁目、二丁目、三丁目、細工町、一丁目、二丁目、三丁目、新町、出来町、東町、切葦屋町、稲荷町、片原町、田代町、石場町、南町、北町、メ町名三十一、町数三十五、柳川城下ハ、町数ハ多からねと町屋普請よく大国守の城下にも増れるやうに見ゆ、城ハ町より右ノ方にて、城下に入てハ見えす

六月廿一日

廿一日

朝より晴たり、終日くもらす、いと暑し、風もふかす、辰上刻御出立、瀬高町、細工町、新町、見付を出て橋を渡り、左へ堀二付三丁計行、左ニ新宮、銅鳥居あり、橋あり、藤吉村、高畑村、下百町村、蒲舟津村、正行村、乗見村、下久米村、上久米村、五丁町村、瀬高上庄町、高千二百九十四石三斗九升一合、人家、宿駅也、来迎寺にて御昼食、山門額、扶桑□山、山門二鐘あり、筑之後州柳川山門郡瀬高上庄正覺山来迎寺鐘銘并序、おほりニ、維昔享保元龍集夏七月念九日、左ニ祇園社、石鳥居あり、瀬高川、舟橋をかけたたり、川を渡り、瀬高下庄町、人家三百六十五、北高柳村、南高柳村、真木村、井手上村、下小川村、梅津村、長島村、吉里村、古賀村、岩津村、今福村、西濃施村、わたのせ村、倉永村、三池郡三池町

瀬高川

六月廿二日

廿二日

玉名郡

朝より快晴、いさ、かくもらす、風もふかす、いとあつし、六ツ半時本町出立、新町、橋あり、左二祇園宮あり、十丁計行、今山村、いさ、か下り谷川あり、五六丁行、小橋を渡り東の山きはを二丁計行櫟野村、三丁計上り峠也、左右人家あり、山のせを十丁計ゆき亀の甲、御立場あり、三丁計下り柳川領と細川領の境也、岩本口といふよし、井手村、肥前国玉名郡、右高き所番所あり、石橋あり、いさ、か坂を上り左右畑、府本村迄廿三丁、平山村、大坂原御休、いさ、か下り石橋あり、府本村、かは村迄六丁、府本ハ左右に人家あり、よし、樺村、金山村迄三十丁、いさ、か上り又下りて石橋あり、一丁計行又大きな石橋あり、熊本より八里と杭あり、金山村、西照寺村迄六丁、石橋有、西照寺村、築地村迄廿七町、一丁計行石橋あり、上村、京塚御休あり、いさ、か下り石橋あり、築地村、お原村迄五丁、一丁計行、熊本より七里ノ杭あり、中村石橋あり、亀ノ甲村、はねき村迄十九丁、繁根木村、高瀬町迄二里、左右人家つ、けり、左二八幡宮あり、石鳥居、八幡宮と額あり、楼門あり、八幡宮とあり、至て大社也、外廻り石垣高く築たり、高瀬町、向つる迄七丁、人家長く続きよき家多し、御本陣を出立、二丁計行高せ川、百間余、舟渡也、川を上り左へ川にそひ上る、向津留村、人家百八十五軒あり、四丁計行、右熊本より六り杭あり、津留まで十七丁、井手の碑道ノ右にあり、津留村、安楽寺村迄十丁、安楽寺村、いなさ村迄八丁、石橋あり、左右人家あり、熊本より五里、稻佐村、左右人家あり、石橋有、山口村迄八丁、木ノ葉町、宿めきたる家なり、田原村迄八丁、境木村、



田原坂

石にて太鼓橋ともいふへきよき橋あり、五間計、田原村、三丁計行、田原坂、二丁計あり、舞尾村迄廿四丁、四五丁行、右高き所御休所あり、小吉松、舞尾村十四丁、滴水村、二丁計行熊本より三里とあり、道ノ左右高き所榎左右二有、四丁計行味取新町入口也、宮脇町より三里十丁余、山本郡味取新町、高、人家

六月廿三日

廿三日

朝より雨甚しうふり已上刻頃やミ、下刻より日出て終日くもらす、今朝大雨ニ付御出立延引也

六月廿四日

廿四日

阿蘇山

朝よりはれ、終日くもらす、南風いさ、かふく、あつさつよし、六ツ半時出立、味取新町出はなれ大木の松あり、いさ、か下り田場を通り又登る、此辺より卯ノ方に阿蘇山見ゆ、前山よりいさ、か高きやうに見わたさる、燃る煙見ゆ、早天にハいとあかし、日出てハ外の雲とおなしさまに見ゆ、味取新町より鹿子木村迄廿九丁、糸山村、鑑田村、鹿子木村、カノコキ高八百八十四石二斗九升九合、人家、左右二人家あり、梶尾村迄九丁、梶尾村、御馬下村、ミマゲ上野村、ウエノ馬出村迄二丁、馬出村、大くほ村迄十二丁、大窪村、岩立村迄廿六丁、此村の辺より熊本の天守よく見ゆ、岩立村、左右二人家あり、札辻より廿二丁余、熊本城下へいり、左へ見付を入り、左右

熊本の天守

高札場

細川様

熊本城下

清正公

家中町也、堀あり、見付を入、左二又見付あり、二丁計右へ行く、左へ坂を上り見付をいり、家中町也、二丁計行、門より右へゆき、家中町、小路あり、此所より天守櫓などよく見ゆ、坂を下り見付を出れば札ノ辻也、高札場十間有、石垣十二間有、他国にも見ぬ大きな高札場也、新町三丁目福岡屋嘉次郎方御小休、細川家より末藤新右衛門、高木作右衛門様手代林田勇八郎、細川様御病氣、側用人松井典礼、同使者福田源兵衛、柏原治郎四郎、家老有吉織部、同松野匡奉行役下津久馬、用人松木内匠、小姓番頭木村次郎左衛門、休泊所見繕小林藤吾、町別当中田武八郎、平田彦三、本田又次郎、当所郡代高藤三郎、大黒角左衛門、三野四郎左衛門、速水丈右衛門、島庄右衛門、熊本城下ハ、城ハ平城也、いさゝか高し、加藤主計正清正築之由、城郭東西三百八十一間二尺、南北三百七十五間三尺、大手西向、天守あり、櫓数六十六ヶ所、内式十ヶ所二階以上櫓、三拾ヶ所平櫓、十六ヶ所門櫓、城ハ九州城郭の第一のよしなれと、町ハ四方広げれと家造りハ柳川にも劣れるやう也、兼てきゝしハ土地も至て開けしやうに思ひしか、山遠からす見ゆ、されと山ハ多く、左り二里も遠くつらなり、田野の肥饒なる事は他国無類也、町数百十一町、表家三千九百軒余、人数二万百人余と本陣の亭主など語れと、町家総数ハ二万五六千軒ありと案内のもの語れと、いかゝあらん、城下辺より右二十丁余はなれ、みつのたけ、きんほう山、あらを山とて高き山共あり、御昼休の内清正公の宮へ御代参あり、肥後国飽田郡芝崎村清正公の御社ハ熊本城下より西ノ方凡十四五丁もあらん、熊本城下京町より左りの方をさして一丁半計行、夫より二丁計西北ノ方え行、半町計なゝめに下り一面の田也、夫より田

金峰山

中の細道を八丁計行、柴崎村、田ノ中を通り山ノ根、畑中に人家所々ニあり、夫より二丁計西南へさして行、細川家の一族家老長岡内膳知行八千石、柴崎村の内田道よりつき当り也、屋敷構至て立派也、夫より三丁計にて黒門ニ至ル、発星山本妙寺、凡三十丁計の松山金峰山に続く山の根通りニ上り、十二三丁計の松山也、山の八分程ニ清正公の廟あり、黒門、二重門にて大ならず、普請美ならず、至て古し、黒門より本社迄八丁、発星山と金字の額あり、黒門より釈迦堂迄五丁、釈迦堂より本社迄三丁也、黒門より釈迦堂迄ハつまさき上りにて、さのミ陰クハなし、大門の道は、凡三十間計也、方丈十間四面、大門より右ノ方ニあり、正面ニ清正公安置、御前ニ甲冑一領あり、南蛮鉄胸当ニ蛇ノ目桔梗の紋あり、美ならず、左ノ方ニ清正公誕生より朝鮮凱陣迄武徳絵図都て十一軸掛たり、絵伝の前ニ甲冑二具あり、如前、右之品々ハ不断ハ無之由、今日ハ御神祭ニ付飾有之候由、庫裏十一間二八間、方丈と並びたり、本堂十八間四面といへと十二三間四方もあるへし、大門より右ノ方にて方丈と並べり、本尊多宝如来、釈迦堂五間四面也、大門より左ノ方黒門より五丁也、黒門より釈迦堂迄ハ爪さき上りにて平ら也、釈迦堂より本社迄三丁ハ險し、是より大門石段にて幅五間計、左右ニ石燈籠並びたり、大ならず、石段の外左右共赤土路四間計つ、也、夫より外ハ木竹しけり、木にて手すり有、釈迦堂より上り口ニ石ノ台の上ニ銅の大きなる狛犬並ひ立たり、七面堂八間四面、番神堂五間二六間、いづれも左ノ方大木の中ニあり、大門よりハ見へす、中門三間四方計也、至て麓末也、中門ノ前左ノ方ニ大きなる石の水鉢あり、水鉢のうしろにせつたい茶所めきたる所あり、拝殿八間二五間

淨池院

黒門の方へ向ひ額あり

花山院の御筆也と

拝殿、本社の方に向ひ左之通之もの掛たり

頃年数多真法之成力御感尤深三国無比類妙宗後代難有高僧何者比之於日本國中宗弘不可有妨者也仍執達如件

文永十一年五月二日 ⑨ 城左平衛奉

日蓮大上人

清正公御影

此額今奥州仙台光照寺の什物之由、故有て写か、けしとぞ、常題目堂、長六間幅三間計、拝殿の左ニあり、法華信心の輩集り不断題目の声たえさる也、御供所、間口九尺三尺、奥行不知、拝殿の右ノ方ニあり、清正公御影御守御符出ス、僧俗群集、中門より上平地、七八坪あり、拝殿より左右常題目堂御供所の間十間計、拝殿より本社ハ五間計高し、本社ノ玉垣迄わつか五間計なり、本社、五間四面一間半の落縁あり、本社ハ熊本の城の方へ向ひたり、本社ハ清正公の御廟所也、石櫃ニ尊骸を納め葬りて、淨池院殿の石碑を立、其上ニ本社を立たり、近年迄石碑見へたりと、正面に清正公の御像安置、坐像也、御胸のあたりより上計拝まれ給ふ、御顔赤く、御髭長く生るか如くにて、誠に尊し、御機嫌あしき時ハ拝しかたしと、寺僧語れり、古ハ法師の愚俗を狂惑する常の談にて、聞にもたらぬ事と思はる、此清正公天正年間戦国無道の世に生

宇土城下

れ智勇万人にすくれ、殊ニ寛度無比の性質、唐土・朝鮮迄名を輝かし、日本ハ三歳の童子も其武徳を称せざるハなき、古今絶倫の名將にそ有ける、されは、機嫌の善惡とて有へき道理なし、不正邪欲の輩みつから恐怖して拜シかたき事も有なるべし、額、丈六尺幅三尺位

四字 大清嘉慶十五歲在庚午仲夏之日

清正大神儀

二字 誥授資政大夫癸尹状元及第翰林院掌院學士順天夫大主考吏部左侍郎清世恩敬白□□

こハ一行に書てあり、此額ハ清正公二百年大神事之節、朝鮮へ申つかはし、朝鮮王此額と聯二枚認めておこされたりと、語れり、本堂の左右九尺四面の堂二ツあり、右石の五輪、高さ六尺計、堂の中ニあり、右同断、高さ四尺計、箆題目也、南無妙法蓮華經、いづれも清正公の御家士の墓之由、本堂左ノ方ニ石ノ碑銘あり、高七尺幅四尺計、漢文也、千余字もあらん、長文急きければ立よりも見ず、昼飯過二丁計町を行、見付橋あり、町屋、十丁余行、橋あり、六十間計、札辻より平田村迄壹り式丁、平田村、近見村、高江村迄十九丁、高江村、刈草村、今村迄十丁、椎田村、川尻迄壹丁、左右人家あり、出口石橋あり、河尻町、池田村迄十八丁、入口橋あり、町中石橋あり、土はしあり、八九丁長く町並統けり、高、人家、緑川、舟わたし、百間計の川也、上杉島村、小岩瀬村迄十一丁、小岩瀬村つら清正村迄九丁、清藤廻江村、国町迄六丁、国町村、志々水村、古賀村迄三丁、古閑村、いかり村迄五丁、碓村、卍丁村迄式丁□、卍丁村八丁、松原村、宇土迄七丁、宇土城下、細川豊前守殿在所、町数十一町、家数凡三百五十軒、人家よからず、熊本札辻より三里三十二丁、宇土郡段原村之内宇土町

六月廿五日

廿五日

朝よりくもり、辰より日かけ見へたれとくもりかちなり、午より快晴、いとあつし、風もふかす、未上刻村雨強くふりてヤミしか、夕くれやミたり、辰上刻、宇土城下を出立、左へ曲り五丁計行、石橋あり、石橋村、栗崎村、松山村之内恵西寺村、道ノ左右に人家並へり、杉木村、松山村之内庄屋村、御領村、松橋村、一丁よ行左へ曲り三丁計町続けり、町中石橋あり、右ハ入海也、大野村、上野原村、曲野村、久貝村、左右二人家あり、中間村、右之方ニあり、豊福村、道の左阿蘇神社あり、石段十段計上り石鳥居あり、社内にて御休、竹崎村、河江村之内、北新田村、江頭村、北小川村、左右二人家あり、小川町、人家長く続き町めきたり、宇土より十七丁余、板屋権兵衛方御昼食、小川と吉本の間板橋隔てしのミ也、吉本町、人家並ひつ、けり、大野村、野津村、野つ村之内道ノ左薬師堂あり、大木の楠あり、此所にて御休、河原町、人家並ひ町めきたり、橋をへたて五十軒計あり、河原町と宮原町と川をへたてしのミ也、宮原村之内宮原町、今村、榕村、道ノ左右二家あり、道ノ左木しけり馬のかみと云る所にて御休、岡小路村、岡中ノ村、岡□川村、興善寺村、道ノ左右二家あり、河田村、東川田、西川田とてあり、片野村、日置村之内福正原、道ノ右二人家あり、松ノ馬場と云る所にて御休、此所より八代迄十四五丁の間左右松並木也、当国にハ並木ハめつらしき事也、波川村、横手村、八代城下、町長し、城ハ右ニあり、細川家の家老長岡山城居住、当城も加藤家築候由、細川三斎在城いたし候由、天守も有之候所、寛文十二年二月雷火にて消失いたせしよし、櫓数十八、内五ヶ所二階以上櫓、八ヶ所平櫓、五ヶ所門櫓、八代郡八代町

八代城下

六月廿六日

廿六日

球磨川

日奈久村

朝聞くもりしか、辰中刻村雨つよくふりしか、やかてやみ、終日いくたひとなく甚しく降たり、已上刻東南風一しきり強く吹てやミ、巳中刻雷鳴強かりしかやミて、雨つよかりき、夜二いり甚雨車軸を流か如し、六ツ時八代町を立、まへ川、船渡、徳測川と云、川は、四十間、川端村、左右二家いさ、かあり、球麻川、川は、百間計急流也、いはゆる球麻人吉城下より流れ来る川也、城下より此所迄十六里、源八日向境、米良境などの水おち合て来ると云り、卯より西へ流る、川より十丁余行、八間計の石橋あり、此辺左ハ山に近し、日奈久村之内田ノ河内村、左の山下に家いさ、かあり、川を渡り左ハ山のこし、右ハ海を五六丁行、左ニ松一本あり、石橋あり、熊本より十三里の杭あり、同村之内千代長村、左山下に家あり、日奈久町、町長く家るよし、町中橋あり、辰巳ハ山、戌亥ハ海、町ハ丑寅より未申へ長し、村津屋清三郎方御休、清三郎ハ右かは也、道をへたて左に石段十二三段上り薬師堂有、四方一間計、石坂の下一尺四方計の温泉出るあり、眼疾によしとて世挙て洗ふと、此外に諸人浴する温泉有と、此所に着し頃ハ甚雨いはん方なし、十丁計行、馬越村、家十軒計あり、坂一丁計上り、山の出さきに御休所あり、肥後国ハ此所迄廿二三里、坂といふ程の所なし、わきて味取新町辺より此所迄十六七りハいさ、かの坂なし、右に海を見て四五丁行、坂を下る、二見村之内須口村、家五六軒左二あり、此所より左へ谷をいり、両山高し、谷は、二丁余、田あり、二丁計行、川を渡る、十間計、二丁計行、又川をこゆ、一丁計行きミか測、一丁計上りて一丁計下り坂至て險し、下れば

肥後国

佐敷峠

薩州海道

川の分れめ也、わかれめの所を渡る、左川こしに天満宮の宮あり、石坂高く木立しけれり、此所迄十丁計の間山間せまかりしか、此辺より四面山なれと至て広く田も多し、左二二見村の人家見ゆ、五六丁行小川、五六丁行小川、一丁よ行、熊本より十五里の杭あり、六丁計行川あり、小坂を上り又下り、左二家あり、又上り、左飛松とて老大木一本有、一丁よ下り小川あり、七八丁行小川あり、又坂あり、赤松太郎、肥後三太郎の其一也、六七丁上る、右へさして上る也、山上に御休所あり、六丁計下り熊本より十六里の杭あり、十丁計行右八幡宮の社あり、浜村、浜村出口に小川あり、橋あり、右ハ海也、天草村の内あかく島見ゆ、小田浦村之内宮の浦、左ノ谷間など家少々あり、天子宮とて社地あり、石ノ鳥居あり、坂を上りて上り、小田浦村、左右人家あり、熊本より十六里の杭あり、同村之内野添村、右の山きは二あり、左へ四五丁いり、谷川を渡る、これ佐敷峠の谷より流れ出る谷水の末也、二丁計行左り高き所に滝見ゆ、是より右の山へ上る也、いはゆる佐敷太郎峠の上り口也、佐敷太郎、左右山高く谷川を左に見おろし、右の山をな、めに上る也、三丁計行、左谷川こしに滝ノ上村あり、小田浦村之内、此辺より至て急峻也、上り十七丁ありと、薩州海道第一の險路といへと、さいつころ対州の坂道をありき、前年紀州の熊野路を遊歴せし險難に比ふれば至て心安し、峠に御休所しつらへあり、いさ、か下り佐敷村地境也、七丁計上り熊本より十八里の杭あり、左右ハ谷にて谷水高く聞へ、山のをさきを巳午さして下る也、十丁計ハ險しからず、十丁余よりハ六七丁難所也、左佐敷の入海目ノ下に見ゆ、山間をな、めに入江めくれる也、かゝる入江対州に多し、佐敷川につ、けり、佐



六月廿七日

敷町もめの下に見ゆ、下りはて左二家を見ゆ、一丁計ゆき橋を渡り佐敷川を右二見て、左ハ佐敷町也、橋あり、四十間計、佐敷町にいり一丁よ行、御本陣佐敷村之内佐敷町、肥後国葦北郡、高、人家、佐敷町ハ西南入江に続ける方、両山高ければいと狭く覚ゆ、東ハ人吉へゆく谷間、二里よあれと広からず、南北ハ山也、されと佐敷ハよき家多くあり

廿七日

大雨

朝間くもり、辰上刻村雨強くふりてやミ、時々村雨ふる、巳時東風強く吹しかまなくやミたり、夜二いりても雨時々ふりたり、今朝出立せんとせしか、昨日よりの大雨、川わたり兼候由二付同宿滞留

六月廿八日

廿八日

滞留

朝より雨いさゝかふり、又つよくふりなとする事いくたひとなし、午時風つよく吹しかまなくやミたり、大かたきのふに似たり、今日も雨天二付同所滞留

六月廿九日

廿九日

滞留

朝間くもり、辰上刻より日出しかくもり、辰より晴しか時々くもり、未時風もふきたれとやミ、陰晴いくたひとなし、日頃の大雨ニ山坂崩し所などある由にて、同所滞留

六月晦日

晦日

薩摩道

朝間くもりしか、辰より快晴、終日くもらず、西南風いさ、かふく、六ツ半時出立、五丁計行、右ノ方へ行道あり、薩摩道也、石橋あり、右ノ谷間より出る也、十丁計行、川を渡る、左へ流る大野川と云、川は、十八九間、川より廿間計行、熊本より十九里の杭あり、川を右にそひ行、十二丁計行川を渡る、右二丁計行川、左三丁計行川、右へ二丁計行川、左へ一丁計行川、右へ四丁計行川、左へ二丁計行川、右へ、是より両山の間狭し、三丁行川、右へ小坂を上りて下り五丁計にて川、右へ二丁計行川、右、是迄おなし川をいくたひとなく越し也、右ノ谷へいり小川を渡り坂を上る、牧士峠、まきさむらいとうけ、と云、七八丁上り、右熊本より廿里の杭あり、十四五丁上り、牧士峠のいた、き也、牧士村之内、左ノ方めの下にしやうしたし村見ゆ、谷間田地四方三四丁もあらん、いつれの方よりゆきかひするやしれぬさまなる村也、峠の上にて御休、十丁計下り川を渡り祝坂村、右人家あり、角割峠坂、十丁計上り峠也、御休あり、七八丁下り左右杉にて険し、右二田畑あり、流にそひて左へ下る、二丁計にて川左へ流る、三十間計行川、右へ一丁計行、熊本より廿一里の杭あり、此辺より田少々あり、三丁計行川、左へ一丁計行川、右へ此辺より添河内村、人家あり、一丁計行川、左へ十間計行川、右へ、芦北郡市瀬村之内添河内村、百性惣七御昼休、添河内ハ両山高く木もありて谷間せまく、貧家廿軒計あり、御本陣も至て賤しき民家也、是迄対州にもなき小家にてしかも古し、深山幽谷也、御本陣より廿間計行川、左へ十間余行て坂を上る、右の山に上る也、告坂峠ツゲといふ、上り八丁計、

細川家

相良家

九州第一の急流

峠の上に御休所あり、七八丁下り、告村、人家左右にあり、谷間いとせまき村也、左少シ高き所細川家の番所あり、是より少しゆき細川家の役人、医師共出居たり、川あり、右ノ谷よりなかれ出る也、是細川家、相良家領分境也、此川より西細川越中守領、熊本札辻より廿壹里廿四丁五十間と川前二あり、川を渡りて、橋也、右ニ此川半より東相良壹岐守領分、人吉札辻より四里廿三丁と高き所二建てあり、相良家の役人、医者など出て居、川よりさきも相良領告村也、相良家の番所あり、川を左ニ六七丁球磨川の辺ニ出つ、くま川ハ九州第一の急流なるかうへに、日頃の大雨後なれば、水勢誠に言語にも述べたく、かつ奇観也、此辺よりくま川を左ニ見おろし、川はたを少し上下して行、十丁計、大かた杉、楠など大木の下にて日かけ見えず、右相良家の番所あり、木戸あり、大坂間村、人家いさゝかあり、至てあし、池のしも村、一勝地村、球磨郡、右の谷より出る枝川あり、人家少し也、板橋を渡り一勝地村也、大坂間村よりこなたも大かた木峠也、御本陣御茶屋守、足軽白坂鹿右衛門、一勝地ハ北ノ方、まへハ球磨川にて南ノ方うしろハ山也、山間の川はたいと深谷也、されと御本陣ハ領主の普請のよし、茶屋守其外諸事に遣ひするもの、大かた江戸人也、されは用事いひ付るにも速かに弁し、料理なども味よく、初ハ不審に思ひたり、一勝地、肥後国球磨郡、高四拾壹石七升五合、家数二百七十六軒、二百七十軒余ハ一勝地に属邑廿一村ありと、村々合せての人数也、佐敷町、五十丁余行、右井上村、家七軒、三丁行、左中村、十八軒、一丁よ行、左右新村、一丁よ行、右山下村、廿武軒、四丁余行、右井樋口村、三軒、二丁余行、右見付村、五軒、二丁よ行、左宮浦村、六十軒、左

江戸人  
一勝地

兼丸村、十八軒、左井手向村廿一軒、六丁よ行、右桑原河内村、十五軒、六丁よ行、左萱宇田村、六軒、三十丁よ行、塩浸村、三十軒余、市之瀬村之内、右祝坂村、八軒、一丁余行、左岩下村、六軒、二丁よ行、右古里村、十軒、廿五丁よ行、左右添河内村、廿軒余、十三丁余行、平沢津、十五軒、左右告村、廿軒よ、右は細川領之分

天保九年戊戌年七月 大

七月朔日

朔日庚子

朝より快晴なりしか、未時くもり、やかてはれしか、申時ハくもりかち也、巳より西南風ふきてやまず、六ツ半時一勝地村を出立、左二川を見おろし、右の山根にそひ行也、七八丁行、右へ曲り少し坂を上り三四丁行、下り四丁計行、左へ曲る、此辺左川向ひ高き所に毎床谷村、高廿三石八斗四升貳合、人家四十軒、木陰に家少々見ゆ、十丁余行、右の方より流出る枝川を渡る、板仮橋廿間余、橋より廿間よ行て御休あり、川を見おろし佳景也き、廿丁計行、渡利村の渡場也、左右坂高く観音の小堂あり、左渡利村、高貳百九十五石四斗八升五合、人家三百軒、村ハ村よりさき也、川端に村役人、人足等大勢出て居る、川は流れこし也、川ハ未申より丑寅へ流る、川は、六七十間もあらん、いと急流也、二丁計行、左より流れ出る枝川あり、川は、廿間計、水流、八九間かり橋かけたり、二丁計行、左へ上り山にそひ行、又下る、板橋あり高し、左原田村、高六百四石九斗五升四合、人家二百四軒、此村辺より谷間広く田も多し、左右

人吉城下

中神村、高式百八十五石五斗六升、人家百三十軒、いさ、か坂あり、人家左右二多し、坂を下りまへ川、左より流出る、横川川は、五十間計、水流八十間計也、仮橋あり、一丁計行、又七八間の川あり、左右林村、高四百廿一石八斗九升五合、人家百三十五軒、道ノ左右其外遠く家居あり、左一丁計ニ温泉出る所あり、此辺左右山遠く田畑多し、右薩摩瀬村、高三百八十一石二斗六升八合、人家百廿五軒、橋あり、人家左右にあり、左大村、高千二百十五石六斗五升五合、人家三百六十式軒、城下町の四五丁まへより並木有、左ニ蓮池あり、長二丁計、幅廿間計也、池をへたて家中の居宅あり、青井神社あり、木ノ鳥居、楼門、宮殿など普請美麗也、下馬札あり、神領跡ニ記す、此辺右ニ大橋并城など見ゆ、町にいり左へ曲り出町、御本陣孫八、

富饒の土地

人吉城下、町数九筋、五日町、九日町、紺屋町、二日町、七日町、新町、田町、大工町、鍛冶町、総町屋数六百廿四軒ありと、球麻ハ城下にてハ日本無類の深山中にて、佐敷よりこなた陰路を通し頃ハ、行先に人家有へくも思はれぬやう也しに、かく田野広く開け、城下人家も普請至てよく、富饒の土地と見たさる、実ニ一世界也き、其うへ食物など領主の江戸人を召つれ給ひしもの共取計するよし、されはにや、味も他所にすくれ、用弁のよき事、国持諸侯の城下も及はぬ計也、青井大明神、大同元年建立、二百十六石、社務青井信濃守、市房権現、大同二年建立、四百六十石、別当普門寺、右青社ハ同国阿蘇勸請、市房社は日州霧島勸請、宮三百一社、領主より米出し高、米百式拾四石六斗六升一合二勺、祈願所式百三十九石、願城寺、菩提所、百石、瑞祥寺、家中共、同、同、百石、永石寺、同、同、五拾石、大信寺、寺百拾ヶ寺、

願城寺

山田川橋

内、真言宗三十九ヶ寺、禪宗濟家派式拾四ヶ寺、禪宗洞家派式拾六ヶ寺、浄土宗七ヶ寺、黄檗派拾四ヶ寺、大俣橋、大岩瀬共いふ、長五十七間、幅二間半、小俣橋、長四拾四間、幅二間半、合百老間、山田川橋、長十六間一尺、幅二間半、此橋共、普請丈夫なる事東都の浅草川の大橋共に減す、大坂の天満橋、天神橋よりハ手堅き普請也、巳中刻、城下に着て領主病氣のよしにて家老、用人など来、未上刻御出立、申中刻一勝地迄御帰り、再泊

七月二日

二日

朝間くもりしか、辰中刻より日出てくもりかち也しか、巳中刻より快晴、いとあつし、六ツ半時、一勝地出立、午中刻佐敷町迄帰り、一昨日の道と同しければ略す

佐敷町

七月三日

三日

朝より晴たり、終日くもらず、巳より南風ふく、つよからず、辰下刻佐敷町出立、五丁余行、右谷間へ曲り三四丁行、熊本より十九里の杭あり、二丁計行、右の山へ上ル、ゆふじ峠、左松林也、五六丁上り、湯の浦本浦と案内代ル、四五丁行、御休所あり、此辺松林、左谷深し、坂を上り五六丁、小坂をこへ運上橋、廿一間、袖二間、一丁計行、湯浦本村、同村の内、道園<sup>ドウエン</sup>村、同村之内、右山川村、五丁計行今村、左右二人家あり、右ノ谷へ入行、五丁計行、右ハ山左ハ杉山、是津奈木太郎坂也、七八丁上り御休所あり、六七丁上り峠也、御休所あり、此所右

津奈木村

天草島の内ひのしまあら江、薩摩国のせまき入海こしに見え佳景也、七八丁下り左右杉山、谷間にて田地あり、上門村之内松木原村、左右二人家あり、同村之内野平村、人家左右二あり、谷間村也、津奈木村之内角村右、同大手村、同上原村、同浜崎村、二丁計行小橋を渡り、二三丁上り又三四丁下り、うた坂又は野坂といふ下り、右に小島あり、名ハ大島といふ、小名木村之内、町原村左右人家あり、右熊本より二十二里杭あり、同村之内小津奈木村、同村之内荒田村、左二人家あり、山太田村、左二人家あり、陣内村之内田子須村、左二家あり、此所左右砂、三丈計きりとふしの坂を下る、左二小川あり、右二阿蘇宮あり、鳥居あり、水俣新町、左右二人家あり、陣内村之内水俣陣内町

水俣新町

【表紙】

自肥後国水俣陣町 至日向国酒谷				
〔西海道日記 六〕				

七月四日

四日

水俣陣町

夜あけ雨いさ、かふりてやみ、辰上刻又いさ、かふりてまなくはれ、いとあつし、未時いさ、かふりてよりくもりかち也、巳より南風ふく、つよからず、申時やみたり、辰上刻水俣陣町を出立、四十間計行、板橋あり、長甘間、左三川を見て行、二丁計ハ右も川也、此川ハ右の方の谷よりなかれ出る也、五六丁行て坂のこなたにて再ひわたる也、陣内村之内、南福寺村、左山辺に人家あり、此村の奥谷長く見ゆ、右へ曲り行、川を渡る、甘間計、右二人家あり、じんの



熊本侯領

国界

出水郡

御巡見道

坂、上り四丁計險し、左右大木の松あり、侍村、左ノ木ノ中にあり、肥前陣といへる所、右高き所に御休所しつらひあり、其所の西五六十間、高き山のいたゝきにひぜんちんの大石とてあり、丸くいさゝか長く、回り二三丈もあらんと見ゆる大石二ツかさなりあり、此所眺望よし、申西薩摩の長島、瀬崎、獅子島、酉戌天草島見ゆ、一丁計下り熊本より式拾四里の杭あり、又いさゝか上りて程なく下り小橋あり、右ハ入江、左ハ山也、袋村の入口左ニ番所あり、是熊本侯領内、他領江出候口々番所十六ヶ所之内、袋村之内袋口と云るハ此所也、右海辺の出さき山ニ袋浦遠見番ありと、道より見えす、袋村、高五百五拾式石五斗四升六合、人家、道より左の山下に大かた人家あり、家作いづれも至て見くるし、酉戌のミ入江にて、其他ハ山めぐり田畑すくなし、巳下刻出立、小川の橋をわたり左右畑あり、少下り小橋をわたり左ノ山にそひ松林を過て下り坂あり、松林六七丁あり、熊本より式拾五里の杭あり、坂の下平らなる所に御休所あり、花立といふ所也、二丁計行、肥後と薩摩の国界也、花立よりいさゝか下りゆく、左右松山也、国境、三間計の細谷川也、左ノ山間より流れ右の方五六丁ありて海にいる、山陰樹木なとにかくれ海ハ見えす、此所をさかひ川とよべり、右ノ方尺角余の木に、此川半より北細川越中守領、熊本札辻より式拾五里式町九間とあり、筑後境玉名郡井手村之内岩本口より此所迄三拾、肥後国芦北郡、薩摩国出水郡出水郷郡界也、境杭のこなたに細川家の役人末藤新右衛門、此川半より南松平豊後守領、鹿児島下町札辻より式拾六里式拾六里式拾壹町と、尺余の杭を立、傍ニ少し低く御巡見道三拾六里式拾壹丁と、八九寸角の木立たり、何れも道ノ左ニあり、巡見

薩州家の役人

鹿児島札辻

箱根

郷土

道十里、遠きハ山ヶ野金山へ廻りて行し故也、此辺松の並木也、川のさきに薩州家の役人本田六左衛門、田代宗右衛門、永田正兵衛等路次に出て平伏し居たり、杭なくハ国境と思ふまじき所のさま也、三十間計行、左松林中に御休所あり、屋根を葺たる古き三軒、新たに造りたる壹軒あり、御休あり、東南一里余ニ矢筈嶽見ゆ、高し、出水郷の内也と、切通村、鯖渕村之内、通路より右の海手ニあり、人家見えず、いさゝか下り又上り五六丁行、右ニ天草島、当国のうち長島、瀬崎、獅子島など見ゆ、一丁計の下り坂あり、けはしからず、左畑あり、谷川小橋あり、水なし、三四丁行谷川小橋あり、四五丁行又谷川小橋あり、此辺左ハ高山にて右ハ三十三間有て海也、左山々のさくあひより所々水なかれ出る谷川也、少シ上り御休所あり、道ノ右、鹿児島札辻より式拾六里、御巡見道三十六里と、杭二本並ひ立たり、一丁計坂を下り小橋を渡り三丁計ゆき、野間の原番所有、木の矢来四方廿間余、入口出口戸あり、番所ハ左ノ方にある、矢来の内也、大かた箱根の小きさま也、他領より入来るもの此所にて改る也、大木の松しけりたり、木戸を出れば左右の人家大かた木戸あり、是郷土也、三四丁行坂を下り海辺ニ出つ、道ノ右ハ入江也、一丁計行領主の御茶屋あり、普請至てよし、其茶屋に並び天神宮の社あり、森の中に本社拝殿見ゆ、玉垣めぐり道はたに木ノ鳥居あり、額、米津天満宮とあり、米津<sup>ヨネツ</sup>村、鯖渕村の内也、人家左右にあり、七八丁行、鯖渕村、高三千五百四拾九石余、枝村多し、道ノ左ニ石仁王あり、ぬれ仏也、是幸善寺門前也、延喜式に出たり、薩摩国出水郡加紫久利神社、道より五丁十間ありと山下也、社地の森見ゆ、右知識村、人家見ゆ、高三千五百七十四石余、枝

出水町

巡見使の墓

小笠原主膳

土屋忠次郎

神保帯刀

村あり、三丁計行高柳川、橋ノ長十間余、五丁計行、鹿兒島より武拾五里の杭あり、十四五丁

行、広瀬川、板橋五十六間、左右袖一間宛、二丁計行、武元町なり、此町を出水町ともいへど

出水ハ郷名也、町にいり一丁計にて左へ曲り、小坂を上り左右郷土町也、郷土町を三丁計行御

本陣也、武本村、出水郡出水郷、高式千三百七拾石余、家数五百軒余、武本村ハ、南ノ方高き

所郷土町にて山続也、西北の山下に町屋あり、西より東へ長し、南の外三方ハ田地也、此郷に

前々の巡見使の墓三ツあり、不思議といふへし、喜多録御代参あり

義勝院殿禪心良雄大居士 寛政元巳酉年七月二十日

故西国巡見御使番小笠原主膳源長知

右石碑、府本村禪宗龍光寺

利性院殿全心置勇大居士 寛政元巳酉年七月廿四日

西国巡見土屋忠次郎平利置

寶乘院殿叡照日到大居士 宝曆十一年辛巳八月廿九日

故巡撫西国使神保帯刀 灰塚

右御兩人石碑、知識村真言宗成願寺

七月五日

五日

霧島宮

朝より晴しか辰時くもり、巳より快晴いとあつし、辰上刻武本村出立、坂を下り町を横きりて廿間計行、平良川、板橋廿間、一丁余行、石橋二間余、武元村、左右に人家あり、左右松並木数町、右ニ鹿児島より式拾四里の杭あり、御休、少シゆき、鹿児島より式拾三里半四拾五間とあり、六七丁ゆき右従是北米ノ津道とあり、此辺大野原といふ、矢房川、土橋廿間計、左右田地、四五丁行、少シ坂を上り右御休、大木の木陰也、道をへたて左ニ霧島宮あり、宮二間三間計、鳥居あり、神体一尺二三寸角の二尺余、高き石に鉄にて□□の形、長サ二尺余を其石のかしらにさしたる也、是日向国霧島山の頂の矛を摸せるなるべし、されど霧島山の矛とハ其さま違へるやうに思はる、霧島山の矛の事ハ古事記伝、橘氏の西遊記などにも見へたり、一丁計行、鹿児島より式拾式里の杭あり、二丁計行、高尾野町、出水郷、高三千式百十三石余、左右に人家あり、十丁よ行小橋あり、坂を下る、此所右ニ東高尾野村、西野田村とあり、田場二丁計行、野田川土橋あり、七八間の橋をわたり十間計へたて十五六間の橋あり、野田町、出水郡、高三千四百拾石余、時めきて左右に人家あり、一丁余小坂を上り左右家中町、一丁よ行、付当り十三仏堂あり、左へ曲り四丁計行、庚申供養の石あり、石の仁王のぬれ仏有、右へ曲り一丁計行、鹿児島より式拾式里の杭あり、四丁計行、並木坂を上り、昼食、武本村より二里半、五六丁行、少シ下り土橋あり、又上りまなく下り土橋有、七八丁行少シ下り又上る、桑原城村の地のよし、野田町より阿久根迄二里ハ大かた野道にて並木しけく左右所々田畑あり、坂を下り、だんの坂

阿久根村

と云、小橋をわたり海辺近く松原を四丁計ゆき阿久根村也、此所右十丁余沖に上の島、南北に少し長く木あり、大かた丸き島、其南に近く大島とてあり、木しけりたり、其南ハ阿久根村の南よりさし出たる出さきあり、町入口左海辺に金毘羅権現の拝殿あり、左二領主の御茶屋あり、広し、一丁余行左へ曲る、此曲り道の右に戸柱宮の社あり、木ノ鳥居あり、戸柱宮と額あり、左へきれ、町二丁よ長し、阿久根村、出水郡、高四千貳百七拾八石余、人家百五拾軒、御手洗吉右衛門、あくね村ハ東ハ山近く南北田地、西ハ入江なり、南のミ地面長くあれと大かた谷間にて田畑多からず

七月六日

六日

朝より晴たり、巳時よりいさ、かくもりし時あり、巳より西風吹たれとつよからず、夜あけ阿久根村出立、町を右へきれ出口、高松橋十間よ、四丁計行小坂を上る、此辺左右山、三四丁計也、下りて一丁計行、小坂有、下りて一丁よゆき、道の左右に田地の中に塩の出る所あり、左右一反歩くらひづ、塩やく小屋、道の左二三軒、右二一軒あり、此所北ノ方海也、十丁よあり、東西ハ二丁くらひ、南ハ山きは也、山の左右谷田也、此所にて塩よほと出来るよし語れり、是阿久根郷の内今村の地のよし、坂を上り一丁計行、右二、鹿兒島より十九里の杭あり、六七丁行下り鷹ノ口村、右入江、島めきたる岩などありて景よし、小橋二ツ渡り右に山を見て谷間え行、飛松村、左右人家あり、右海にて近し、小坂を上りて下り小橋あり、牛浜村、小坂を上

り山上六七丁行直に下り、的場村、うご村ともいふ、谷間橋有、板仮橋十間よ、左大川村、坂を上り遊行坂、御休あり、右の海辺高き所に、雪溪和尚、弘治三丁巳年十二月とあり、坂を下り谷川、小橋あり、左右家あり廿間計、又上る、一丁計行三丁斗下り小溝川あり、左ノ山にそひ右ハ海を見おろし三丁計行、谷川橋をわたり小坂を上り一丁計行、左ニ郡境の杭あり、南高城、北阿久根とあり、阿久根ハ郷名にて出水郡也、杭の右に大石あり、五六丁行、下り坂一丁、橋あり十間計、麦浦村之内西方村也、阿久根村より三里半あり、飛松村より西方村迄の間所々甌嶋など遠く見ゆ、この村ハ西北海にて東北ハ山也、入口右に領主の御茶屋あり、此村家数多くあれと大かた見くるしき家のミ也、村の出はなれ、鹿兒島より十六里の杭あり、三丁計行左右人家あり、左り谷へいり坂を上る、湯田村、新道坂上り三丁下り二丁よ、湯田村谷間也、左右人家あり橋あり、三丁計行小川を渡り上る、麦ノ浦村高六百廿四石よ、湯田峠上り五六丁あり、険しからず、峠ニ休所あり、鹿兒島より十五里の杭あり、三丁計行、道ノ右一条妙見の社あり、宮居よからず、小川をわたり左右広き谷間、田地あり、鹿兒島より十四里の杭あり、ミライ曲石坂、二丁計、田麦村高き所也、御休所有、坂一丁計下り小橋わたり、いさゝか上り坂を超三四丁行て下り、右に妙見の社あり、花表ハ道近くあれと、社地ハ一丁よ遠く森の中にて高し、妹せ川、板橋廿間計、村左右人家、町めきたり、左ハ山右ハ田地、廿丁よゆき、鹿兒島より十三里の杭あり、二丁計行、南水引、北高城の境杭あり、五六丁行御休あり、此所より一丁計ゆき橋あり、瓊々杵尊の靈廟拜まんとて和田篤祐と、もに、右の小道にいり五六丁行、八幡新田

靈廟

宮の山の西北うしろの方ニ当ル洞窟に参詣す、南ノ方より上る、石坂五十段余上り、一段といへと三四尺くらゐにて定めなし、山ハ一丁四方くらひ、椎ノ木しけり高サ七八丈もあらん、丸き小山也、右小き石の手水鉢あり、文化十三年建たり、石灯籠一對、高五尺位、同年建たり、木のいかき五間二三間くらひ、垣の内に石灯籠あり、高七八尺、左ニより三尺四方くらひの宮あり、いかきの中右の隅に六尺四方計に又いかきをめぐらせる内に石を重ねたるあり、是瓊々杵尊の靈廟也と案内のもの語れり、此山と並び八幡新田山の腰につゝ、き少シ高く四五間上り左小き石の手水鉢、石常夜灯、高五尺計、三間四方計いかきあり、内に石灯籠一對、高七八尺、三尺四方位の宮あり、宮の側大松二本あり、此所も廟也と語れり、いつれの方尊の靈廟ならん、二つなからよの常ならぬ山のたゝすまひ也、されと、西北の方神廟ならんかとおしはかるゝ也、此地ハ宮ノ内村の地也と、八幡新田宮ハ南に向へり、仁王門より右坂下迄八丁ありと、道は十二間、仁王門の前往還也、道をへだて川はた石常夜灯二対あり、仁王門いと古し、仁王門より一丁計入、右別当觀樹院あり、門の額に神龜山と有、一丁計はなれ同しく、右神主執印吉太の宅あり、門の両脇みかき石にてたゝみ、居宅ハ広からねとよし、此八丁中ノ道十間計芝を植、道の左右桜をまばらに植たり、其両方七八尺の道あり、八丁の間三筋の道あり道の左右悉く社家などあり、四丁よ行、木の大鳥居あり、額八幡新田宮と、楷書の額也、八丁行、石橋三ツ並び掛たり、中ハ石の反橋にて左右擬宝珠のてすり有ては、九尺計の橋にて長サ三間余也、左右ハよの常の石橋也、右ニ車井戸有、石の手水鉢あり、石坂十三段上り常夜灯式対、左右に四五

尺四方の宮二社あり、七十七段上り左五尺四方の宮三社あり、右少シ低き所に御供所とか萱屋式軒あり、石灯籠三対あり、大ならず、此所平らなる所五十間計あり、石坂二百三段上り御庭也、百七十段上り右二大きな楠あり、左右常夜灯三対、石手水鉢あり、左二鐘樓有、銘文もなし、天明元辛丑年六月吉日改之直、とあり、石坂五段上り回廊の板檀也、回廊左右八間宛、都合十六間、本社<sup>ノ</sup>の左右へも十六間計をり廻シたり、拜殿、三間半二四間、其そとに四方共四五尺の板縁、本社、七間二六軒、両方の回廊の奥に九尺くらひの宮あり、左ハ武内宿祢也といへり、右ノ方回廊に造りそへ、三間二四間計の宮番のをる所二軒あり、此八幡新田宮<sup>ハチマヅニツタヅウ</sup>の御山めぐり一里ありと云り、山ハ大きに高からず、杉ノ木、楠、椎など大木にていと繁り、遠く見れば丸く黒く見へ、いとかうくしく、参詣しても尊く思はる、社のさま也、社領八百、神代紀に見えし可愛ノ陵是なりと、大小路町<sup>オオコジチ</sup>、高城郡水引郷、高四百三十七石余、家数、大小路町ハ、たゞに水引ともいふ也、南ハ川、三方田地也、此辺四方山遠く田畑多し

大小路町

七月七日

七日

朝より晴しが、時々くもり、午下刻村雨つよからず、まなく晴しか、とかく陰りかちなり、夜半より雨強くふり雷も甚し、雨ハよわりし時あれとつよし、辰上刻、大小路町を出立、二丁計行、左泰平寺門前也、道より門迄五丁計、門前に石灯籠三対あり、門ハ三間二軒くらひ、仁王門の様なれど仁王もなし、門より五十間計ゆき本堂也、石坂八段、本堂三間二二間計の仮普



足利尊氏

大閤秀吉

請也、石垣高サ三尺計、十間四方計也、右足利尊氏の石塔あり、高さ一丈くらゐ、台石四角、中ハ丸く上ハぎぼうしゆ石也、石塔の右ニ地藏あり、台石ニ曆応二年二月云々とあれと、文字文明ならず、本堂の前石灯笼二対、右石手水鉢あり、左六間半ニ四間半の庫裏あり、くりの前ニ太閤秀吉公と鳥津家と和睦石とてあり、左ノ庭ノ隅ニ鐘樓あり、堂も古く上りかたし、元禄年中鑄直したる鐘也と語れり、其模様なつかしからず見ゆ、古文書多し、天正十年豊臣家当国攻の時、当寺に陣せられし也、古ハさしも大寺のよしなれと焼亡後仮普請にて、それさへ今大破せり、なけかはしきありさま也、元明帝手自薬師の像を御彫刻、和銅元年当寺建立、叡山の本堂、京都因幡堂と当寺の本尊と三薬師と申伝るよし、曆應三年源直義蒙院宣、一國一基の塔婆を立、仏舍利八粒つ、奉納の地也、泰平寺参詣より帰り、大小路町の河岸より乗船、仙台川、薩摩ノ前口書ニ川内川ト書タリ、川幅百間計、河源ハ日州諸県郡、霧島山の西北より発し、隅州桑原郡、当国伊佐郡を経て、此所に流れ来る、山ヶ野・金山の水も此川に落る也、大小路町より陸を行ば大島町、高城郡・薩摩郡の境あり、安国寺、田海川橋などあるよしなれと、東郷村迄二里余、舟にて上りければ見ず、大小路町にて鹿児島道と山ヶ野金山道と追分あり、川向ハ薩摩郡隈之城郷之内向田といふ領主の仮屋あり、石垣并普請よし、斧渕村之内東郷村、船倉町共云、斧渕村、高式千式百廿七石余、川端にあり、町めきて家並ひよき家多し、東郷町を出はなれ川辺へ出十丁よ行、岩切川、橋あり、こ、より左ハ山高く、右ハ川にて四丁計ゆき左へ上り、左右に家少しあり、下りて上れば御巡見道、鹿児島より式拾里の杭あり、斧渕村の内つ

川内川

山ヶ野金山道

郷士の家

かさの原、此辺より松並木あり、大木にハあらず、下り溝川左右田あり、左ハ山に近く右ハ田畑広し、いさ、か上り、南瀬村、高九百四石余、左右人家あり、二丁計ゆき又下る、川はたに出小橋あり、仮橋十間計少シゆき、鹿兒島より十九里の杭あり、下り小川あり、須杭村、少シ上り左に祠の傍に御休所あり、一丁よ行右ハ川也、目ノ下に見おろさる、也、左ハ山也、三十三丁計ゆき坂を下る、二渡村、高六百五十石余、左人家あり、道の左右田地広し、小川仮橋あり八九間、十丁計ゆき薩摩郡伊佐郡の境あり、山崎川舟渡二丁余、丑寅より未申になる、山崎町、高七百廿七石余、川を上れば町也、川より三四十間行左へ曲る、左右町屋也、町続き例の郷士の家多くあり、左へいさ、か上り又下り鹿兒島より十八里の杭、宮之城迄壺里半の杭有、小川をわたり、左繁りたる森の小山につきて廻り、上り下りして川はたに土橋有五間計、橋よりこなたに、南山崎村、北宮之城村と杭あり、川のさき、従是北島津図書領分と杭あり、二丁余行、松ノ本坂上り二丁、坂の上左に御休所あり、西ノ方山崎川な、めに遠く迄見え、諸山のさま、東ノ方谷川、所々瀧めきて見え佳景也、五六丁並木を行、鹿兒島より十七里の杭あり、此辺より北に高山見ゆ、伊佐郡祁答院の上宮嶽といふ由、廿丁よ行坂を下り谷間也、二丁計ゆき宮ノ城町に入ル、左右町屋あり、つきあたり左へ二丁計ゆき家中町、御本陣なり、宮之城、伊佐郡、高四百五拾三石余、人家、宮ノ城ハ家老島津図書陣屋あり、北ハせんだい川流れ、西ハ南へかけ岡山にて畑など也、東南ハ田畑也、南も山遠からず

島津図書領分

宮ノ城

七月八日

八日

朝より雨しきりにふり、辰上刻雷も鳴しが、辰下刻よりはれ、終日風もふかすのとか也、穴川、満水ニ付滞留

七月九日

九日

朝間雨いさ、かふりてやミ、巳下刻よりやうくはれくもらず、あつし、巳より南風ふきたれとつよからず、六ツ半時宮ノ城出立、屋地馬場、左に舟尾明神あり、左右屋敷町、右真言宗多宝寺并愛宕の社あり、玉の本坂いさ、かの坂也、川はた右少シ高く家あり、四五丁行小橋あり、川向虎井村、穴川かちわたり也、源ハ山ケ野金山より流れ出るよし、川はゞ廿間余也、渡り口にてハ一丁計也、此所川内川へおつる所也、此落合の所岩石至て多く、大川も瀧の如くに見ゆ、穴川ハ水増ぬれは渡り難し、わたりて川より右二分レ行、左右田地を十丁計行、時吉村、高八百五石余、左右に人家あり、右水天宮地藏道、小橋あり、少シ上りまた下り、島津将監の領分杭あり、少シ坂を上り御休所あり、鶴ヶ崎といふ、左へゆく道あり、並木あり、坂を下り田場を通り、左り山きは高さ所に阿字荷明神の社あり、石の鳥居、石の仁王あり、真言宗崇全寺あり、カイヤセ飯屋瀬村、左右に人家所々にあり、左ハ山近く右ハ川にていさ、か上り下りしてゆく、鹿児島より十五里の杭あり、五丁計行小川田橋、飯橋あり、十五六間、此橋より六七丁行、東南より流れ出る川あり、此小川田橋の水ハ則金山川也、十五間計左ノ山にそひ行、いさ、か上り

飯屋瀬村

島津将監

長野金山  
制札

又下りて険しき坂を上る、花立坂といふ、三丁計の上り也、坂ノ上右に、西島津將監領分と杭有、其並ひに西佐志、東大村と杭あり、二丁計ゆき御休所あり、花立坂といふ、此辺左右低く田畑見おろさる、木崎原といふ、中津川村、高二千百七十八石、人家、左右に人家あり、大村郷の内也、三十丁計行、いさゝか上りをつげの原といふ、鹿兒島より十四里、宮之城へ三里、金山へ三里と書たる杭二ツあり、古町村、左二人家あり、坂を上る、二丁計険し、しおり坂といふ、下り又さかし少し上り又下り、谷川をわたりて上る、此辺より右に中のたけとて高くそひえ木しけり黒く、遠くより見ゆる山あり、峰ハ南北にいくつとあり、今上りゆくハその北の山のをさき也、御御休所あり、永野村の内松か追といふよし、一丁計行少し下り又上り、右高き山の腰を上り下りしてゆく、此辺山つたへといふよし、御休所あり、一丁計下り鹿兒島より十二里の杭あり、西大山、東金山と杭立たり、三丁計下り長野金山の入口、番所あり、此所出入のものを改むよし、番所のでまへ右ノ高き所制札あり、二枚と三枚あり

一枚ハ 寛文五年五月

同 元禄十三年六月十六日

同 天和二年

同 明暦二年

同 天保三年

とあり、番所を入れて万治三年の制札あり、此所に小判五十両ならべ、不正の儀いたし候者訴出

山ヶ野金山

候ハ、褒美ニ可遣由之文言也、番所より三丁計下り金山村の人家左右にあり、谷川の橋あり、左右人家有、谷川より三丁計上り、右西薩摩、東大隅と国境の杭あり、これ薩州伊佐郡、隅州桑原郡の界也、此境ハ谷川より二三丁上り坂中に境杭あり、他国に、ず地理分ち難きさま也、廿丁計上り左右家少々あり、此国境より十二三丁上り御休所あり、此所左ハ山、一丁よ高けれど道ハこれ迄にて、下り也、山ヶ野金山、一丁余下り隅州霧島山見ゆ、今下る山の左のをさきにて西ノ峰ハよく見えす、四五丁下り金を掘出す穴并製作の小屋等道より左四五間高き所にある、金を掘出す穴あり、穴の口ハ八九尺四方にて、十間計奥にて左右にわかれ道ありと、穴の口のうへに、本山惣冠開基大切始と書てあり、小屋にて金を製法御見分あり、穴より掘て来るもの式人、打碎くもの二人、つきこなすもの三人、石うすにて挽しもの八人、金と砂を洗ひ分しもの一人、金を吹立しもの一人等也、一時余見分の刻限ありて、それより三丁計下り山ヶ野村也、上ノ村之内、山ヶ野金山、大隅国桑原郡、高、家数、金山村ハ、東西ハ山高く、北ノ方山奥の谷より東南へなかれ出る谷川の辺を、地形に随て家作したり、されは西北ハ高く、東南ハ次第にひくき也

金を吹立

七月十日

十日

朝より晴たり、終日くもらず、いとあつし、風もふかす、夜あけて山ヶ野金山を出立、旅宿より三丁計下れば左ニ谷川流る、其川にそひ下る、高塚川といふ、金山の西北の奥より流れ出る

霧島山

と也、小川なれと岩間をたきり、音終夜かまびすし、番所あり、右に制札あり、大かた永野村入口の如し、番所を出ればけや坂、三丁計険し、左右二三丈高し、きりとふしのやう也、上野<sup>之</sup>村、高千三百壺石余、家百五十軒余、左稲株明神あり、鹿兒島より十一里の杭あり、坂を下り小川あり、柴尾田村、上野村之内、式拾軒、しを田川橋あり、右の谷間よりなかれ来る也、橋六七間、此辺左右所々家あり谷間也、坂を上り五六丁行下る、鹿兒嶋より十里の杭有、坂を上り又下る、梯木坂、左ニ霧島山近く見ゆ、延喜式神名帳二日向国霧島神社と載られしハ此神社也と、此山の事ハ橘何かしの西遊記に詳に記され、瓊々杵尊、高千穂峰ニ降り給ひしと、神代紀ニ載られしハこの山なる事、古事記伝に本居翁委しく考へ記せり、必見べき也、霧島山ハ日州諸縣郡にて、西ノ方ハ隅州瞻噉郡の内よし、皇国無比の尊き山也、梯木村、谷間也、右ニ家あり、谷川あり、橋あり、左へ流る、二丁計にて又坂を上りいさ、か下り又上る、毘沙門坂といふ、五治郎坂、此辺ハ西北に道より高き山近くありて霧島山見へす、南ノ方日州<sup>（マヤ）</sup>桜島見ゆ、此地中泉村の地也、坂を下り久留見川橋あり、桑原郡、始羅郡の境也、有川村、高式百六十六石余、左右人家あり、有川橋、石原村、有川村之内、山中也、山ヶ野より当村迄谷間又ハ山のいた、きをのミゆく也、されと、いたく高からす谷も深からす、当村ハ旧例のよしにて十二三歳の女子共十人余出て先払にたち行也、他所になくめつらしき事也、小橋あり、三四丁行、右へ坂を上る、げんをう坂といふよし、上り二丁計、坂より三丁よ行、鹿兒島より八里の杭あり、十丁よゆき桜島よく見ゆ、廿丁よ行、従是南島津内匠領分と杭あり、五六丁行、鹿兒島より七

尊き山

桜島

女子共十人

加治木

里の杭あり、十丁計ゆき見返り坂、此所並木ハ東南の方とほく続き見ゆるを右へ新道の坂を下る也、二丁計下り御休所あり、此所より桜島手に取はかり近う見ゆ、薩摩の山々又薩隅の間の入海の浦々好景なり、坂を二丁計下れば谷間也、両山高し、三丁計行小橋有、四丁計下り左二小山田村の家あり、少シ下り鹿兒島より六里の杭あり、二三丁ゆき左ハ深き谷間を見おろし、二丁計下り岩地にて道あしく険し、四丁余下りて三四丁行、左四五丁遠く龍門の瀧見ゆ、滝より南ノ方加治木の古城跡あり、高さ一丁計つき立たるやうに見ゆ、右ニも高き山のふもとに小き滝見ゆ、岩か瀧といふ、檜木川橋あり十四五間、二丁よゆき右に川をへたて春日明神の社あり、社ハ二三丁奥なり、鳥居ハ川に近し、此辺にて左十丁よはなれ、かの加治木古城より南へ三四丁はなれ、岩山の樹木もなく□と立て、上りかたく見ゆる山あり、蔵王か嶽といふよし、なら木川より五六丁ゆき加治木町の家中町あり、二丁計ありて加治木の町也、段土村之内、加治木、大隅国始羅郡、高、人家

七月十一日

十一日

朝より快晴いとあつし、午上刻雷甚しく鳴しかやみ、未上刻また鳴しかつよからず、風もふかす、町の正南の通り真向に桜島見ゆ、つき当り右へきれ一丁計ゆき、網掛橋あり、石橋廿五間、川よりさき二丁計ゆき橋あり、三丁計左右田地也、岩ノ原村、左右人家あり、家中めきたる家也、此辺より北五六丁はなれ、岩の山とて南より北へ並び峰三ツあるひとつ、きの山あり、三

脇元町

丁計行小橋あり、鹿兒島より五里の杭あり、川は百間計、加治木より廿二丁、木田村の地にて、別府川と云、五里の杭より左右並木七八丁あり、川よりてまへに、西限佐、東加治木境在、川中と石にて記シ、従是東島津内匠領分とあり、川より一丁計行、拾日町、家三十軒、左右人家あり、町めきたり、松並木左右にあり、餅田村、高千九百六十石余、人家百廿軒、所々に人家あり、十丁余行、西重富、東帖左と杭あり、其傍に従是西島津山城領分と杭あり、五丁計行脇元川、川は、五六十間の内水流れ三十間計、船廿四艘並べ舟橋としたり、二丁計行、鹿兒島より四里の杭あり、三丁計行、脇元町、千二百十八石、人家百四十軒、左右人家、町屋也、されと家あしく、右へ曲り一丁余行、左松森の中に小宮あり、白銀坂シロガキ、北へ差出たる尾さきを上る事六七丁、至て險し、山を右にして上る也、それより右へ転し、山を左にして谷間を上る也、並木松ある所もあり、谷川わたる所もあり、右の谷に滝あり、流れほそし、虚空蔵の下と云る所にて御休、此所にて霧島山丑ノ方に見ゆ、加治木辺より別府川、脇元川の流れなと目下に見へ眺望至てよし、此辺左右の山に野駒多し牧也と、山ハ道より高く所々大木松あり、二三丁行、国境の杭あり、東大隅西薩摩、隅州始羅、薩州鹿兒島の両郡也、三丁計行、鹿兒島より三里の杭あり、四五丁行見返り坂少しの坂也、通山、繁木の中左の高き所に御休所しつらひあり、高く低くよついつ、小屋を立、滝はしらせなとしたるさまよそになく、心とまるさま也、通山より十丁計下り宮之浦之内、関屋、家七軒、左右に人家あり、谷間一丁計にて又上る、多くハ切通也、六七丁上り家あり、又四五丁上り十丁計行、鹿兒島より二里の杭あり、十丁余行、吉田



めかね橋

知恵光院

城下

村の内みつかさこと云る所にて御休あり、此所にて桜島辰巳、海門嶽申の方山越に遠く見ゆ、帯<sup>オビ</sup>追<sup>サコ</sup>村、人家七十軒余、左右人家あり、坂三丁計下り、実方村、人家貳拾軒余、左右に人家あり、実方川、石橋五間、めかね橋造り也、実方村ハ坂に随ひ川迄家あり、川より向ふにも家あり、右高山にてきりとふしを四五丁上り、鹿兒島より一里の杭あり、坂本村、高貳千五百三十四石余、坂の左右に人家あり、桴鼓□か坂下り也、左右山高く谷間をいくたひか曲り下る也、十丁計下り石橋あり、一丁計下り番所あり、この下り坂より鹿兒島海辺、築地祇園社、神明の社、弁財天の社など見ゆる、番所をいり、左高き所ハ真言宗知恵光院あり、門に知恵光院と額あり、左二祈願所真言宗大乘院あり、此寺ハ元祖豊後守家久、建保六年右大将頼朝并丹後局の肖像を薩州郡山へ安置、花尾権現と相崇候別当寺、平等王院兼帯之寺の由、右菩提所曹洞宗福昌寺裏門あり、左二下町札辻より十八丁の杭あり、一丁計行、福昌寺の大門へゆく道あり、山門本堂其外僧坊多く見ゆ、大寺也、境内ハ平地也、西より北かけ山高く大木の松あり、此寺ハ応永元年島津家にて建立、中国、九州の古本寺、其後奈良帝の勅願所たり浄岸院様の御尊骸も相納候由、御廟所、御位牌殿等も有之由、城下、上町入口、柳町、地藏町、車町、立馬場、右琉球人飯屋、御通之節門内え一同出て罷在、新橋、番所有、江戸橋、石橋あり六七間、下町入口、築町

鹿兒島郡鹿兒島城下

七月十二日

十二日

暁雷鳴つよし、夜あけて雨ふり出、雷雨つよかりしか、辰上刻よわり、下刻より時々村雨ふりたり、午より南風烈しく夕くれやミたり、辰下刻御出立、下築地町札辻、右二制札あり、此所至て広し、六日町、下中町、呉服町、町奉行其外出る、山ノ口通り、家中町長し、新屋敷同じく長し、江月川橋あり、武橋、橋長サ五十間計、下町札ノ辻より十八丁の杭あり、武村、高千六百五十七石余、人家八十軒余、荒田村、人家百軒余左右にあり、中村、千六十七石余、人家二百軒左右にあり、左海辺、領主の茶屋あり、右日吉山王宮あり、左二塩浜あり、札辻より一里の杭あり、郡本村、高五百七十六石余、人家四百軒、一条ノ宮あり、道より見えす、右牢屋敷あり、郡本橋長七八間、右牛かけといひて岩山のそひえたるあり、鹿兒島郡谿山郡の境也、脇田村、人家百廿八軒左右ニあり、福本村の内波ノ平村、福本村ハ高八千五百四拾三石余、人家千百軒余、波平村ハ古昔波平行安住居せし所之由、道ノ側に刀作候清水とて有、長田川、橋あり五六間、左右に人家あり、一丁計行わかれ道あり、左海辺、並木道有、右山下にも道あり、是御通路也、わかれ道より十丁よ行、二里ノ杭あり、谷山町入口、真言宗常楽寺あり、福元村之内谷山町、人家式百軒余、町の出口いさ、か下り和田川、土橋六十間余、右二塩浜あり多からず、左ハ海へ二丁計、和田村、高五百九十一石余、人家五十軒、左右人家あり、一丁計行右へされ三四丁行、右三正一位伊佐智佐大権現の社あり、社地ハ山王也、道近く木ノ鳥居并額あり、一丁余ゆき又切通シあり、坂あり二丁計、坂ノ上村、人家六十軒左右ニあり、三丁計ゆき、

谷山町

喜入村

鹿兒島より三里の杭あり、十丁計行御休所、平野村、人家三十四軒左右二あり、坂を下り、障子川七八間の仮橋あり、唐人坂、左右岩をきりさけ道いと狭くかつ險し、五六丁計也、古屋敷村、人家十五軒左右にあり、こひの、村、人家十六軒左右にあり、古やしき村、こひの、村畑中にて高し、深湊川、仮橋四間計、小坂を上り一丁計ゆき、鹿兒島より四里の杭あり、四五丁行、平川峠、上り四丁余、御休所あり、入海眼下に見へ桜島丑、高くま山卯、眺望至てよし、豆打村、人家五十軒、上り三丁計下り谷川小橋あり、右人家、左海辺五丁、拾石坂、上り三丁計、並木を行五六丁にて北谷山、南喜入と杭あり、側に従是南肝属主殿殿領分と有、三丁計下り瀬ノ串村、上ノ村之内、人家三十軒左右二あり、村中に小橋あり、橋よりさきにも人家あり、海辺へ出右宮、例明神の社あり、社前にて御休、浪打きわ廿丁よ行、並木有、今村、人家四十軒、黒地藏坂上り四丁計、急峻なり、いた、き右二石ノ地藏有、一丁計ゆき御休所あり、坂の下り口、鹿兒島より五里の杭あり、ぬるき坂下り四丁計也、險し、海辺浪打きは並木などある所を行、山間より出る谷川、小橋二あり、上之村之内玉泉村、左右二人家あり、橋あり七八間、右愛宕権現の宮あり、山高く木しけりたり、此辺左塩浜あり、是より左右家中町也、七八丁行、入江の川はたに出一丁計右へ行、橋あれと渡らす、右の山きはへ行、二丁計也、左右人家、上之村之内喜入村、給黎郡、高、人家

七月十三日

十三日

朝間雨、いさゝかふりしかやミ、午よりやう／＼晴たれと快晴ならず、風もふかす、辰下刻喜入村出立、二丁計昨日の道を帰り貝底川、土橋有、四十間、橋を渡り左右人家、一丁計行右へ曲り一丁余あり、人家よからず、山を左にし、右八田にて広き谷間六七丁行、切通の坂あり、上り二丁計左右畑にて十丁余行下り坂あり、三丁計谷間也、前浜村、左右人家あり、鈴川仮橋六七間、海辺へ出て右ハ山高く左ハ海辺並木有、十丁余行八里の杭あり、久津輪川、仮橋五六間、田貫川、仮橋五六間、給黎郡、揖宿郡の境杭あり、熊ヶ坂上り三丁計、左右數十丈高き切通し也、小牧村、高三百八十四石余、人家右ニ多くあり、此辺島津安芸領分也、三丁計坂を下り谷川、小橋あり、右八幡宮あり、鳥居あり額なし、石の仁王あり、八幡坂上り四丁計、帯坂下り二丁、渡瀬村、左右に人家あり、此村の辺より海門嶽申ノ方二見ゆ、近山のうへより見ゆる、切通の坂を上り又上り、北今泉、南指宿と杭あり、二丁計行松出川、仮橋六間、松出坂二丁計上り垂門村、十九丁村之内、左右人家あり、六七丁行黄色坂、二丁計下り右の谷よりなかれ落る小谷川の辺り、道ノ下より湧出る也、此温泉の下、谷川滝の如く流るゝ也、低き所也、又上り六七丁左右畑也、十九丁村之内西方村、左右人家また田畑などの所を七八丁行、道より十間計、左田ノ中に温泉の出る所あり、七八丁行道ノ右、新宮大明神とて森の中にあり、鳥居八道に近し、本社拝殿、鐘楼其外小社見ゆ、五六丁行小川、小橋有、四五丁行小川あり、小橋有、小名種々あるよしなれと十町村也、十二町村、高式千八百五十一石余、左右人家あり、谷

山川村

開聞

硫黄島

屋久島

川かち渡り、右二山王権現の宮あり、道をへたて左二御休所あり、此所より海辺へ下り山川村へ舟にて行ば、一里ハなしと云り、いさ、か帰り坂を上る、首尾坂といふ、十五六丁計上り鹿兒島より十二里の杭あり、此辺左目下二山川の湊、人家も見ゆれど陸路にてハ二余里也、山のせ左右大かた畑十丁余行下り也、下り口、左指宿、南山川と杭あり、此杭よりてまへ眺望至てよし、海門嶽未申に近く見ゆ、三里計ありと、山の形チ富士によく似たり、山の腰の方二三分ハ近山にかくれ見えす、延喜式に穎娃郡枚聞神社と載置れしハ是也と、今海門とハ書で開聞と書て、土人ハひらき、といへるよし、社領、硫黄島、午に見ゆ、硫黄路ハ山川より十八里ありといへど近く見ゆ、硫黄島ハ高き山ありと見へ、海上に高く見ゆ、俊寛僧都の配流せられし島にて今も古跡あり、いをう島に続き西に島見ゆ、別島なりや分りかたし、竹島、巳ノ方に見ゆ、山川より十三里、硫黄より東也低し、竹島をこして向ふに島見ゆ、屋久島、卯辰に見ゆ、島至て広く見ゆ、三十六里ありと、馭謨郡也、延喜式ニ益救神社と載置り、下り坂七八丁計險しき所あり、坂半程より島々など見ゆ、下りて成川村、高二千六百拾三石余、人家、左右人家あり、東北ハ山にて東西に長き谷間村也、谷川あり、橋あり、をとし坂、上り四五丁坂を上り、いさ、か下りさまに左右畑の所を行、山川より南の出崎見ゆ、海辺にそばたち高き峰二ツある山みゆ、たけの山といふよし、坂の上より十丁計行、鹿兒島より十三里の杭あり、次第に下り左へ曲り松林の中より山川村へ下る、横江坂といふ、五丁計もあらん、坂中右に清水あり、山川の入江人家など目ノ下に見ゆ、下りて町中を通らず南のはつれ、町を通り海辺へ出て左ハ海、

山川浦

右八人家三丁計ゆき、旅宿也、山川、揖宿郡、高千五百六拾式石余、人家、山川浦ハ琉球、屋久島、種子島、硫黄島其外諸方への渡口にて、人家よくかつ賑し、薩州隅州の間の入海、巳午より酉戌の方へ、佐多の岬より廿五六里、城下、加治木などかけ入たる海の薩摩の方、二里計いりて未ノ方へ廿丁余、広サ七丁計の孫入江也、誠に類ひすくなき湊也

七月十四日

十四日

朝より晴たりしか、辰中刻よりくもり日かけ見えす、午上刻雷いさ、か鳴しか、午中刻雨しきりにつよくふりて、やみたり

七月十五日

十五日

朝より快晴、誠にあつかりしか、午下刻雷いさ、か鳴てくもりしか、未中刻よりはれ、大かたくもらず、辰より南風ふきたれとつよからず、辰上刻出立、右ハ片側町にて左ハ海也、一丁計行、右熊野権現の宮あり、鳥居あり額あり、二丁計行、左へゆき四丁計にて番所あり、番所より三十間計、洲さきに鹿兒島札辻より十三里三十丁三間の杭あり、此所に波戸場あらたにつき立たり、此山川の湊ハ、前にも記せし如く薩隅の間の入江、南より北へ廿五六里入海の内、海口より近く、大隅の方ハ佐田の岬迄凡七里、薩摩の方ハ山川の出崎を廻るのミにて大海也、東より北へ入たる孫入江也、北の出崎を大山崎といふ、此崎より奥へ凡二十丁余もあらん、南ノ

山川の湊

めてたき所

佐多岬

種ヶ島

大根占村

薩隅の暑氣

方、番所の州崎波戸場より八十丁余もあらん、番所の辺ハいとせまく二三丁もあらん、夫より  
奥ハ七八丁も広さありて大かた丸し、いかなる大風にもいさ、か憂ひなく、山海の有さまめて  
たき所也、渡中にて見れば薩摩の方ハ大海へちかけれと、大隅の方、佐多岬七里遠く、海へも  
さし出て見ゆ、鹿児島迄十三里有と、をかけの出崎、大山崎より北へ一里計奥也、黒地藏坂辺  
にてハ島のやうに見へし也、そハ岡の方平地にて、をかけの辺六七丁山高くたなどあり、され  
は遠くよりハ島のやうに見ゆる也、其山の下南へたにたら村、岡の方に杉の浜村あり、をかけ  
の出崎より十丁計はなれ、四方二三丁計にて平らなる島にて松生たり、人家なし、海門たけ申  
酉、高熊山丑、桜島亥子、高たけ卯、屋久島午、竹島午、硫黄島未、種ヶ島ハ辰巳に見ゆへき  
を、佐多岬の陰にて見へず、大隅地ハ、鳥浜よりさたの岬迄海辺近く山高し、しよしのはなと  
て岩山高く松生たるあり、其南鳥浜也、午下刻、隅州大隅郡大根占村之内鳥浜ニ着船、山川よ  
り三里半の渡りといへと至て遠し、土人も五里計ハあらんなどいへど、六七里もあらんやうに  
寛ゆ、鳥浜ハ海辺、人家なく白砂の浜也、浜に土俵を以て波戸場拵へたり、今日砂場のあつき  
事堪かたき迄也、薩隅の暑氣の甚しき事今日始めてしりたり、一丁計上り松原あり、それより  
大根占村の人家あり、大根占村、小根占村いづれも海辺の村也、家二百軒余ありと、貧しき家  
のミ也、大根占を出て海辺四五丁行、右の谷へ二丁計ゆき、神の川、土橋三十七間、橋を渡り  
右、測上三社大権現の宮あり、社地ハ高く木しけれり、鳥居あり、がくあり、石の仁王あり、  
神野村、高六百貳拾石、左右人家あり、瀬田尾坂、上り六丁廿間あり険し、反鋤堀クシクワボリ、大根占郷

九州第一の美景

神の村の内、東南の海山遠近の眺望誠に魂ひ飛揚する計也、九州第一の美景、鹿児島より一七里の杭あり、此所にて、竹島未、いをう未下り、海門申酉の間、山川の出崎未申、佐田崎午、次第に七八丁上り此辺より並木にて大始良村迄続けり、五六丁下り山のせを七八丁行てより八九丁上り峠也、従是北大始良南大根占と杭あり、此所より大あひら村迄廿五丁也といへと遠し、一里計ハあらん、皆下り也、二丁計下り十八里の杭あり、三丁計下り御休所あり、右せとの上塩井神といふ所のよし、此所にて東北の方、大隅国より日向国諸縣郡かけ遠く十里余平地に田畑見ゆ、九州の内にも肥前佐賀近辺より筑後国、筑前国迄ひと続きに見しより外に比すへきなし、されど所々森の如きあり、是小山、野原などありとなん、高きより見おろすま、おしなへて平地に見ゆ、二丁計下り道はた左、真石とて大きな石あり、廿丁計下りてより大かた平ら也、右岩戸明神の社あり、大始良村、隅州肝属郡、高六百七十四石余、人家、大始良村ハ、東の方水下にて開けしのミにて西北ハ山也、南も山遠からず、いはゞ谷間也

大始良村

七月十六日

十六日

朝より晴、いとあつかりしか未上刻より陰り、申上刻村雨一しきりふりてやみ、うすくもり也、巳より南風ふきてやまず、六ツ半時大始良村を出立、半丁計行小橋あり、三丁計行切通し、一丁計の間也、四丁計行切通あり、三十間計並木道を行、鹿児島より十九里の杭あり、左右畑、十丁余行、従是北鹿屋南大始良と杭あり、西原と云る所御休、二丁余行二十里杭有、五六丁計



鹿屋町

朝鮮人

朝鮮服

下り家あり、いさ、か坂を上りて下り小橋、鹿<sup>カクモ</sup>面川、板橋十六間、鹿<sup>カクヤ</sup>屋町、左右人家あり、つき当り右へ曲り家つゝけり、成仏坂左右高く二丁計の上り坂きり通シ也、並木道也、笠野原、鹿屋村之内也、此一郷朝鮮人の子孫のミ住居、道ノ左右家にて垣根などあり、村居の並ひ又飛々長三四丁あり、古ハ豊臣家朝鮮征伐の時、薩州家彼の国の男女捕来て当村ニ住せ置しよし、当時家数百四拾軒余、男女八百人余ありと、今に日本人と縁組禁制也、巡見之節先例之由にて、道ノ左右ニ老若男女蹲踞して居る也、その中に入口ノ方、鉄ちん・しゅんじ・なんちんとて三人の女、十五六七歳くらゐ、容貌西国にはおさく見えぬよき婦人也、此三婦はかり御納戸緋のかさねにて朝鮮服を着し、髪ハ鬢を耳の下迄かきさげ、中なるハ結びて、うしろの左右にさげたり、平伏す、其側に老父一人かの国風の衣服を着て、額に馬のすにてあミたるまんきんと云ものを冠り下座す、村中道の側に出居たるもの、内、官服冠したるを尋ね、其名と年を自筆に書せたり、鄭通荊五十九才、金正沢七十二兩人也、当村の役人之由にて、年始礼鹿兒島二出て領主へ拜礼致すよし、何良運、何仲舟、何仲山、何平祐、右4人之由、何仲山、何平祐兩人ハ紫縮緬の官服して、村はつれに出居たり、仲山六十五、平祐四十六、古の朝鮮人の子孫ともを見るに、容貌顔色、男ハいたく日本とかはりて、女ハさはかり異ならず、いかなる事にや、笠野坂、左右切通高し、下り二丁計、笠野村より一丁計行、自是東申良西鹿屋と杭あり、小橋をわたり、小原村、高式千三百九十石余、左右人家あり、谷合村也、いさ、か上り並木松あり、鹿兒島より廿式里杭あり、甫ノ木村、左右に家あり、思出坂二丁計上り又下り、申良郷岡崎村、

本山派山伏

高式千三十一石余、五丁計行、串良川、仮橋十間、橋をわたり岡崎村之串良町、町並に人家有、付当り小橋をわたり山あり、左へ曲り六七丁行、鹿兒島より廿三里の杭あり、此辺池ノ原村、杭より七八丁行国境、松並木にて左右共畑にて、露はかり国境と心付へき所にあらず、隅州肝属郡、日州諸縣郡の境也、左に杭あり、東日向西大隅、此杭ハ高し、東大崎西串良、此杭低し、二本並びあり、長吉村、高千三百四十六石余、左右人家あり、並木を通る、鹿兒島より廿四里の杭あり、四五丁左右田地、左ニ古城山あり、妻方大明神、坂を上り二三丁行、左右高き所也、木の鳥居あり、大崎町、町並人家多し、下り田場を過少シ坂を上り、道ノ左ニ飯隈山大権現の社あり、道ノ左三四丁奥なり、三十間計行、石段十階計上り木ノ鳥居あり、左ノ方社家あり、右ノ方小祠二三ヶ所有、又草屋の鐘樓あり、拜殿三間ニ六間、正面に一天護持、中山梁、元恕謹書とあり、拜殿の左右より本社迄回廊凡三間、長九間計、草屋にて大破也、本社五間四方位、社前に狛あり、正面等の格子にて社内見えず、別当ハ本山派山伏、古跡之院家にて山伏倍照院、寄付知四百七十石、毎年禁裏ニ御札守献上之勅願所也、並木を通り鹿兒島より廿五里の杭あり、益丸村之内菱田村、左右人家あり、左ニ宮あり、少シゆき御休所あり、此所より日向の入海よく見ゆ、休所の下に西大崎、東志布志と杭あり、三丁計行菱田川、川は、三十間計、船渡綱越也、此渡場より十丁計にて海也、押切村、左右二人家有、安樂川、板橋十間計、四五丁ゆき右ハ海近く松山、左ハ高山也、札ノ辻より廿六里の杭あり、志布志、左右人家、二丁計行左高き所に濟家大慈寺あり、妙心寺末九州触頭、下馬石あり、石仁王あり、境内うしろハ山、前ハ町

志布志

七月十七日

にて大寺也、此村に真言宗宝満寺とて勅願所の寺あり、此村より一里沖に椋榔島見ゆ、周り一里半、此海辺にて見わたす所南大隅国内ノ浦村日崎、日さきより南の方へ高き山まへたけ、北日向国長田崎、志布志、日向国諸縣郡、高式千拾三石余、家数、志布志ハ東北ハ山也、山の間少シ谷間のきれとあり、明日ゆく道也、西ハ串良の方よりゆく道、山と浜と広からず、南ハ海也、人家よからず、御本陣なども狭し

十七日

朝よりはれ巳時くもり、いさゝか雨ふりしか、午より晴て終日天気よし、辰より東風吹しが午時やみたり、いとあつし、夜あけて、志布志立、町中を通り過て家中町あり、左右山高く狭し、左へ曲り西谷清水とて岩まより出る大美泉、路傍の右ニあり、糸花坂上り二丁計、右ハ谷也、左ハ古城、左右畑五六丁行、鹿児島より二十五里の杭あり、三丁計左右畑、一丈よ高き所を行、柳の坂下り三丁計、安楽村の内也、険しからず、御休所あり、志布志より一里十七丁ありと、二丁計下り柳の渡、橋あり十五六間、橋のてまえ、北松山、南志布志と杭あり、三丁計上り、鹿児島より廿八里の杭あり、上り坂五丁計険し、左右並木十丁計行、下り坂、松山口田の崎川、仮橋四間谷間也、程なく上ル、二丁計並木あり、左ハ谷深く田あり、田より向ふにきりカ嶽、木しけり黒き高山、右飯盛山見ゆ、鹿児島より三十里の杭あり、境のをの坂、長サ二丁計、谷に下り小川あり、塩売の坂上り三丁余いと険し、御休所あり、下り五丁計険し、坂本

憶大明神

住吉の縁記

村、北末吉、南松山と杭あり、狩川村、左右に家あり、池の坊坂、小川橋をわたりてより上り、三丁計さかし切通シの坂也、十四五丁行三十一里の杭あり、左右並木の広き野を十丁計行、左伊集院助朝の墓とて石塔あり、憶大明神、道より右三丁四十間あり、日向国諸縣郡末吉郷之内、中裏村、道より経路二丁計行、小杉森也、左へ下り小家四五軒あり、右ハ社地の山也、一丁余にて木の花表あり、南に向へり、額なし、鳥居より四十間計ゆき宮あり、山下二神水池あり、五六間四方、小橋あり、左右二末社一社つゝ、石燈籠一对小也、寛保三年四月とあり、石坂五段上り拝殿、三間半二二間半、額憶大明神とあり、拝殿に続き三間二三間半の宮あり、是より□段七段上り本社、四間四方計の内に九尺四方くらひの内宮あり、拝殿に続き三間四方計の家あり、何も見えず、宮ハ東向にて西ノ方ハ社地の森にて高し、高しといへと十丈計ならん、其ふもとに鎮座也、宮より一丁計はなれ東南より西北さして小川流る、此川もみたらしもいと清冷としておのつから尊く思はるゝ水也、此社より東一二里に橘の嶽、上ツ瀬、中ツ瀬下瀬など名つけし山などあり、此辺の事実ハ信しかたし、此日記にハ論をもらしぬ、此社地の辺をすへて憶原といふよし、神主佐野式部、憶原より十丁余行、左住吉山あり、日州諸縣郡、隅州噲啾郡の境のよし、住吉明神出現の靈蹤にて、此地より神功皇后撰州住吉ニ御遷宮為有之候よし、卜部朝臣兼連が書記されし住吉の縁記ありと、領主の役人もいへと、こもいかならん、道より近けれと参る事を得ず、憶原より十丁計行、従是東日向西大隅と杭あり、国境杭より七八丁行、鹿児島より三十二里の杭あり、隅州噲啾郡稲井原村之内末吉、昼食、末吉ハ通路の町屋ハ真向

都之城

に行右へ曲り家たち続けり、さるを町にいきり、間なく右へ入は家中町にて小路いくつもあり、其家中宅にて御小休、末吉、噲嗽郡稲井原村之内、町より坂を下り、田場二丁計下り川あり、飯橋五間計、二丁よゆき坂を上る、左右並木、大かた畑なり、末吉より廿丁計行、鹿兒島より三十二里の杭あり、御休所あり、霧島山亥ノ方に見ゆ、七八里あるよしなれと、大高山なれば麓近くおほゆる也、九州高山とて名たゝる山の中に当山殊ニ高く大き也、左右並木を通、今町、左右家中の居宅多し、並木を通り坂を下る、この所も左右家中宅あり、大岩田口、橋あり、大岩田橋と云也、長十間、水ハ右へ流る、左に曹洞宗龍峰寺あり、左ノ方通路より二丁計田地をはなれ、高き所に兼喜明神の宮見ゆ、道より近く鳥居、常夜灯などあり、宮居美麗に見ゆ、鹿兒島より三十四里の杭あり、竹ノ下橋、板橋三十間余、新町、橋をわたれば町也、人家よし、一丁余あり、つきあたり左へきれ一丁計にて都ノ城也、左右家中町、三丁計行町屋、二丁計にて左へ曲る、右ノ方島津播磨の陣屋あり、宮丸村之内、諸縣郡、都之城、高、人家、都之城ハ、町広く、陣屋ハ南ノ方少し高き所にあり、東ハ飢肥領の境、牛ノ峠の麓寺柱迄一里なれと、西ハ霧島山の麓迄七八里の間目にたつ山なく、北ハ佐土原道の方、西に増りて山遠く、いさ、かの野山ハあるよしなれと、田野洪大に開けし事、西海道国々にてハ前に云し肥前、筑後より筑前かけ、寺井辺にて一望せし外、かく開けし所はなし、薩州領にても当国諸縣郡の如く平野の広大なる土地ハ有へくも思はず、驚かる、計になん

広大なる土地

七月十八日

十八日

飢肥道

朝間晴しか辰中刻頃よりくもり、巳上刻より時々村雨ふる、午未なとわきて一しきり強し、辰より東風ふき、巳午のころハ烈しかりしか、未の下りやみたり、夜ノ戌の時頃より雨誠に強し、辰上刻都ノ城出立、北ハ佐土原道也、東の横町飢肥道をゆく、六七丁ハ家中町也、左右田畑、六七丁行て小橋をわたり、左右田畑にてまばらの松原を行、鹿兒島より三十五里の杭あり、鷲ノ巢村、高六百四拾七石余、左右人家あり、左二年大明神の社あり、川あり、川広さ廿間計、飯橋二ツ掛たり、寺柱村、高百八拾九石余、入口右ニ諏訪ノ社あり、左右人家あり、領主の茶屋とて小き家なれと新規に修理したり、此村にも家中宅あり、つき当り番所あり、門をいり右番所にて役人並ひ居、左へ曲り門を出る也、大ならず、日向飢肥領より越来ル他国のものハ、宗門手形、国往来等相改メ、当領え差通候由也、此所よりやがて坂也、左右人家あり、左の山へ上ル、七八丁險し、四五丁行、鹿兒島より三十六里の杭あり、十丁計さかしからず、左右まはら松也、此辺より西北ノ方霧島の麓迄凡十里計、南北広く一目に見わたさる、田野広大にて高山もなし、薩州領第一の地所なるべし、三十六里の杭ありしより、十丁計よりハ大木しけり、左右谷ふかく谷水見へ、谷をへたて左右にも高山あり、木繁茂して見ゆ、されはこの峰を惣て中の峰といふとも語れり、七八丁上り行、險しき所ニあり、御休所あり、二丁計下り又七八丁上りいと險し、中ノ峠といふ、寺柱より中ノ峠迄三十三丁と土人ハいへと五十丁余もあり、此所御休所、右ノ高き所にあり、諸縣郡の沃野、隅州の諸山迄見えたり、そか中に霧島、桜島、

險難の所

伊東領

高熊など遠く天をさへ、眺望あくべくもあらず、此辺すべて谷ふかく、木のまより谷水見え音も幽に聞ゆ、牛ノ峠迄一里計、いさ、か下りの所もあれと大かた上り也、險難の所おほし、牛ノ峠、道より右の高き所に御休所あり、この牛峠と云る所、此山のいたゝきにて通路もこれより次第に下る也、此通路のすへての事ハ末ニ記ス、右高き所に此牛之峠より駒返迄南□半、鹿児島領と杭あり、左小高き所、石にて東飫肥領とあり、牛ノ峠より五六丁下り、道ノ左御休所あり、伊東領にてしつらへたる也、東ノ方両山の間より日向の山々見ゆれと広からず、牛ノ峠より廿丁余下り右ニ御休所あり、是薩州家よりしつらへたるなり、牛峠より此所迄通路ハ峰にて、左右大木しけり、眺望なし、一丁余下り、右ニ此牛之峠より駒返迄、南道半分鹿児島領と杭あり、杭の辺に薩州家の役人本田六左衛門、永田正兵衛、田代宗右衛門、平川平左衛門出て居ル、牛峠より駒返迄廿一丁十五間あり、此所よりハ左右共伊東領也、左ノ谷の方へ下ル、十五六丁下り、左右にて一里とあり、牛峠より一里成べし、七八丁下り小橋あり、一里石より廿丁計下り谷川、仮橋十間、是ハ左の谷より流れ落る水也、右薩摩領境の方より流れ落る水ハ、橋より十間余下にて流れ合て、一ノ瀬村の方へ流る、川を右に見、左ノ山にそひ十丁よ卯辰さして下れは一ノ瀬川也、一のせより四五丁てまえより少しつ、田あり、一ノ瀬村、日向国那珂郡酒谷村之内、高拾一石五斗、人家八軒、この村ハ南北ハ山、至て高く西も牛カ峠の谷也、東水下一方のミ田もあれと、南北の両山の間も至て狭し、極深山幽谷也、一ノ瀬より一丁計下り、仮橋十二三間、右の山にそひ五丁計行小坂あり、小橋もあり、右の谷間より出る小川也、二丁

深山幽谷

深瀬村

計行、一里ノ石あり、一丁計行橋あり十間、一丁計上り一丁半計下り險し、三丁計行、五間計の仮橋、左ノ谷より流れ出る谷川、白木又村、高式拾六石八斗、人家七軒、右高き所滝あり、流れ細し、三四丁行一丁計坂を上り、左二小滝あり、此辺すへて右谷也、田地あれと広からず、高とり御休所あり、一ノせより一里、一丁計下り左より出る枝川、仮橋あり、五六丁行、深瀬村、高十四石、人家五軒、坂をのぼる、五丁計行、小坂下りて又上ル、陣の尾、高三石、人家十軒、左の山きはにあり、権現鶴、高四拾七石五斗、人家六軒、左ノ山きはにあり、左より出る小川板橋あり、三丁計行坂あり、三十間計下り間なく上る、いまへう坂上り六七丁、いさ、か山の南はら二丁計行三四丁下り、片頭、高拾八石五斗、人家六軒、山下所々にあり、谷川仮橋をわたり四丁計上る、至て險し、又五六丁計下り、秋山、高百八石七斗、人家廿軒余、左二郷藏あり、小橋を渡り左ノ山きはいさ、か坂を上り下りする事両三度也、此辺左ハ路傍并頭ついでの上におち掛るやうに大石多し、永野、高四石二斗、人家十三軒、左右人家あり、此所、今朝大岩くつれ落て通路たへ、にわかにな道を拵へたり、上の瀬ハ人越、下のせハかり橋出来たり、二丁計行仮橋有、五十間あり、永野の川向に栗ヶ野、人家六軒、鯛の子、人家十二軒などあり、二丁計行酒谷村桜馬場なり、権現鶴より日くれ、挑灯にて一里半計、さしも險難の坂路を行たり、夜五ツ半時着、酒谷村之内桜馬場、日州那珂郡、高式百八拾五石、人家五十八軒、桜馬場ハ酒谷郷の中の大村、其うへ人家も繁昌なれば、此所をはやく酒谷村とよぶやうになれりとなん、一ノ瀬よりこなたの里々ハ皆酒谷村の小名也、今日の行程、都城より寺柱村迄凡一里ハ平

酒谷村



難所多し

第一の險難

地也、寺柱村より牛峠迄二里余ハ道遠く、峰高く險難いふはかりなし、牛ノ峠より一ノ瀬迄二里計ハ下りなれと、是又難所多し、都ノ城より一ノ瀬迄四里九丁といへは、寺柱より坂路三里余の積りなれと、險しきのミならず、実の道法五里計ハ有べし、一ノ瀬よりさくら馬場迄三里五丁といへど、両山狭く小坂かす多く道遠く、所々酒谷郷の貧家所々にいさゝかあるのミなり、又、寺柱より一ノ瀬迄三四里の間ハ、高山の峰伝への道にて險難のミならず、樹木しけり陰霧深く家一軒もなし、一ノ瀬より桜馬場迄も深谷卑湿の小村也、当所ハ他国人のゆきかひまれなる所なれば、江戸わたりにて物語りせし人もなかりしが、今度九ヶ国巡見中第一の險難、さしもの対州にもなし、かゝるおほやけ事にて百千の人と、もに行たれば、さしもおそろしくも淋しくもおほえねと、一人二人してゆきかひなは、いかはかりならん

【表紙】

自日向国酒谷				
至江戸				
〔西海道日記 七〕				

七月十九日

十九日

酒谷村

朝間雨強く降りしかやミ、巳上刻、申中刻、わきて村雨甚だしく、其の外も時々いさ、か降り、辰より東風ふく強からず、夜五ツ時大雨風也、辰上刻酒谷村出立、四五丁行左の山にそひ坂を上る一丁計、酒谷村の内栗峰、家十軒計あり、一里石あり、二三四計り行小坂を下ル、同村の内札田村、人家十壹軒ありと、谷川左より出る、仮橋五間計、道ノ左り一ノせ川と落合たり、その川を左に見て五六丁行、楠原村、右に人家あり、同村之内、走り込と云る所にて御休、四

餿肥城下

郷ノ原村

五丁行、右の山を廻り三四丁行、小坂を上ル、左右二人家あり、三丁計行、左右人家、右へ曲り板橋六十式間、一のせ川に掛ル、水ハ左より右へ流る、すぐに餿肥城下、本町入口也、本町三丁目迄行左へ曲り家中町也、凡四丁計り、つき当り八幡宮、右へきれ家中町式丁、石橋を渡り今町三丁、夫より二丁計左右田也、橋あり五間計、左二宮あり、右へ坂を上ル、鶯か峰といふ、上り十丁計り下り十丁計、險しき所多し、七八丁上り右に並木のわかれ道あり、この辺りより卯辰の方海見ゆ、一のせ川ときた川とおち合所も目の下也、川のおち口海のてさきを龍穴村といふ、城下より三里りありといへと近く見ゆ、坂を下り大藤村の内内野田村、右にきた川流れ、左の方に多く人家あり、坂を上り五六丁行一里石あり、少し坂を上り上大藤村の内宮間大明神の社内にて御休あり、下郷ノ原村、左右に人家あり、上り下り坂二ツ三ツあれと小坂也、一里ノ石あり、郷ノ原村、左右人家あり、郷原村之内山宮大明神の社内にて御休あり、山宮大明神と鳥居に額あり、川崎良忠書とあり、坂を下り三丁計行、きた川を渡る、橋あり、六十間計也、ここより二丁計下にて、とうすミ村の方より流れ出る水とおち合也、一丁計坂を上り始む也、左右に家有、惣名まへ坂といふ、上り一里半計の坂也、過半險しき所あり、大坂也、廿丁よ上りまへ坂之内、折□□といふ所御休、二丁計上り右一里石有、四五丁行少しひくき所路辺右二家一軒あり、五六丁計り上りいた、き也、此坂上り二右の方山々多くあり、そか中に□□之山最高し、此山のいた、きの所、大木の松まばらにあり、いた、きを越れハ左の方の高山、差合の村も目の下に見ゆ、左二最高き山をすへてきた村と唱ふよし、北河内村の内、花立

那珂郡北河内村

と云る所御休あり、次第に下り又一丁よ上り、四五丁行又五六丁下り一里石あり、十丁計行少し上りて左の谷へ下る、山仮屋村也、十丁計てまへより、大村雨、一同誠にぬれけり、那珂郡北河内村之内山仮屋

七月廿日

廿日

大風雨

朝より大雨、時々やみし時ハあれとすへて大雨也き、風も烈しかれと時々強弱あり、夜もおなし、今日ハ大風雨二付、山仮屋村滞留

七月廿一日

廿一日

風雨やます

朝より雨やまさりしが、そか中にきはめて甚しき時あり、風も烈しかりしか、時々よわりたり、夜も風雨やます、今日も行へき方の橋おち、道たへなとしたりとて滞留也

七月廿二日

廿二日

橋崩ければ

朝よりくもりたり、午末の間時々いさゝか晴しか又くもりたり、朝より南風吹く、はけしからず、夜半時々小雨ふりたり、今日も清武川の橋崩ければ滞留

七月廿三日

廿三日

朝間小雨降りてやみしか、辰より時々村雨つよくふり、日かけも見へしか、未より快晴、東風ふく、烈しからず、夜あけて山仮屋村を出立、右ハ山の腹、左ハ谷、十五六丁下り夫より左の山に移り、右ハ谷、左の腹にそひ一丁計上ル、一里石あり、五六丁坂を下り谷川、橋あり六七間、左の方低き所田あり、三丁計上り、鏡洲村の内神子屋敷、高三石二斗、家三軒、至て貧家也、家よりはなれ御休所あり、右の谷間目の下に田あり、山仮屋より壺里、左ノ山にそひ、下り十丁計、同村ノ内柳が太郎、高壺石八斗、人家壺軒、同しく十五六丁下り御休所あり、右に姥が嶽とて岩石の高き山あり、此山を右に見て、左の方へ険しく五丁計下り、同村ノ内九平、高、人家拾五軒、道ノ左右二有、十五六丁下り小橋あり、此辺より左ノ方谷川こしに、鏡洲村の人家多く見ゆ、十丁計下り御休所あり、九平御休所より壺里、田地あり、左より流る、川の板橋十五六間、橋より一丁計下左ノ谷間より流来る川と落合也、是ハ神子やしきの下にて渡し川下也、小坂を上りて小橋を渡り、険坂四丁計り上り、二丁計り下り谷間也、田地ある所ニ出て小橋を渡る、左瀬田村あり、一丁計り左の高き所に真言宗勢田寺あり、木原村の内黒坂、高三十七石五斗、人家廿三軒、左右人家有、よからず、同村ノ内永田原、人家廿七軒、人家立並ひ町めきたり、此辺田地広し、清武川、川は、五十間計り、川を渡り二丁計にて清武町也、清武町、高、人家七十八軒、長サ一丁半計り、よき家あり、町を出はなれ坂を上ル、二丁計左二中野八幡宮有り、加納村之内中野、高、人家七十五軒左右二あり、左ニ福野八幡宮あり、並

瀬田村

清武川

延岡領

木道を行坂を下り一里石あり、小橋あり、加納村左右人家あり、居村を過、小川、土橋、北加納村八幡宮社内にて御休、一丁よ行左、従是北延岡領と高き杭あり、従是北源藤村と低き杭あり、廿間計行、右南飢肥領と石あり、二丁計行小橋あり、七八丁行、左従是南延岡領と杭あり、板橋七八間、橋を渡り左、北飢肥領とあり、曾井村、左右人家あり、村はつれ土橋あり、二丁計行、従是北延岡領、廿間計行、右飢肥領と石あり、此所に伊藤家の家老御付回り等出て居、五六丁行、中村町也、中村町、日向国太田村之内

伊藤家

中村町

七月廿四日

廿四日

朝より快晴、終日いさ、かくもらず、東風いさ、かふく、巳よりあつさちかころになし、六時半時、中村町を立出、町はつれ川也、十五六間の仮橋あり、中島に家二間有て川流也、川幅三丁、此川ハ、霧島山の麓また椎葉山、また都城の方諸縣郡の水ハ、百千となく山谷より流出て川々おち合、思ひの外大河也、此川満水すれば中村町の椽の上に水上り、時により家を捨て逃去と語れり、中村町ハ水面といさ、か高きやう也、左ノ方太田村の内福島町、右ノ方伊東領

椎葉山

別府村

城ヶ崎町也、川を上れば上野町、上別府村の内ニ在り、別府村ハ高參百廿八石式升六合六勺壹才、上野町長サ二丁計り、いさ、か木戸ありて上別府村、左ニ寺あり、十丁計行左ニ涌井あり、七八丁畑計、江平町池内村ノ内町一丁余あれとよき家多し、池ノ内村ハ、高千九百廿壹石九斗六升六合四勺六才之内也、花ノ島村入口右ニ御立場あり、此辺よりほけさまとて高き山、戊亥

広原村

佐土原城下町

七月廿五日

二見ゆ、花ヶ島三ツにきれて三ツ目町也、田地十丁よ行左、従是西北島津式部知行所とあり、右、従是南延岡領とあり、青水村の内蓮池、左右人家あり、村はつれ左二涌井二ツ有、蓮池といふ、新名爪町、広原村迄三四丁五十間、右ハ田地にて左ハ山にそひて家居多し、高千三百七十七石余ノ内、八百九十五石余島津式部知行所也、土橋あり、左右田地也、広原村、下那珂村迄廿五丁、左ノ方山にそひ人家多し、高式千三百四石余、内千六百八十六石六斗余島津式部知行所、広原村の内、島の内草家田御休、一丁計行土橋、二丁計行十間よの土橋あり、下那珂村、上中村迄十五丁、十四五丁行、一里松とて家三四軒あり、下なか村、高千三百四十三石余、城下迄廿四丁、廿丁計行右大木の松一本あり、二丁計行いぬき橋十二間、土橋あり、上那珂村、高式千八百六十六石余、坂を上り一丁計、平地二丁計行也、右高き所稲荷宮あり、下り二丁計、右高き所愛宕権現の宮あり、鳥居あり、石坂いと高し、佐土原城下町、那珂郡

廿五日

朝より快晴、いさ、かくもらす、いと暑し、朝より東風吹たれと未時よりやみたり、夜丑時頃より村雨強く、あかつきかたやミたり、六ツ半時出立、町に続き家中町三丁計あり、いさ、か並木松を通り、右上田島村、高千六百石余、家数、町より七八丁行、一のせ川、川幅百四十間計り、川を上り四五丁行、新田井倉村之内、右村高式千三百七拾石余、末長、左右二家少々あり、二丁計行、同船津、左右人家少々あり、小橋を渡り二町計り行、坂上り二丁あり、是より

米良境

高鍋迄秀倉の小郷あるのミ也、並木にて家居なし、廿丁計行御休、茶屋場といふ、二丁計行小橋あり、二丁計行、従是南西佐土原領、従是北東高鍋領、三丁計行下り坂也、上納代村の内、秀倉ニて左右に家四五軒あるのミ也、家より前に土橋あり、家を過て土橋あり、右に左土原領ひげくら村といふあり、谷間五六丁にて坂を上る也、一丁よ上り、従是南西佐土原領と石あり、わつか二丁計上りの坂也、左右並木十四五丁行、日置村の内、松陰茶屋と云る所にて御休、此辺子ノ方鈴嶽山見ゆ、頂上に鈴嶽大権現とて在ス、土俗をすゞといふ、米良境の山々高く多く見ゆ、酉戌の方に見ゆ、廿丁計行、小坂を下りて上り、左水屋原とて家三拾軒計、右神□崎とて五軒あり、坂を上り二丁計、右に小滝めきたる流れあり、右ノ方海辺に蚊田村とて五百軒とてあり、坂を下り、家いさゝかあり、中鶴村一丁計行、らんかん橋左の山にそひ二丁計行、らんかん川石橋十式間あり、左ノ方四丁計はなれ高鍋の城見ゆ山城也、山下に塀廻れり、其中に家中の宅ありと、本陣福田屋忠兵衛、児湯郡高鍋町ハ、上町、八日町、六日町、十日町、下町、町家二百式拾五軒

高鍋町

七月廿六日

廿六日

朝間くもり、辰下刻よりたひく村雨強く降り、そか中に未下刻より申中刻かたいと強し、辰より東風吹、申時やみたり、未下刻より申中刻迄雷鳴強し、夜二いりても風雨つよき時あり、町はつれ石橋あり、家中町五丁計、右へ曲り小橋を渡り二丁計行、小川あり、五丁計行高鍋川



都野

舟わたし、川は、五十間計、川より四五丁行持田村、高五百八十四石斗八升、北ハ山にて山きはにあり、道ノ左右ニ人家あり、上り坂二丁、並木七八丁行、家四五軒あり、左白髪、右往還とあり、並木の道左右田畑すくなし、此辺平田村、高五百五十石八斗、いさ、か坂の上り下りもあり、大池村、高三百五十六石三斗式升、左右ニ人家有り、同村之内、たれもと川、かわは、七八間人渡也、二丁計行、たれもと川同断、十間計、猪ノ窪村、高式百三石八升、左右ニ人家あり、大かた見へす、同村枝郷名貫村の内なぬき川、川は、五十間計、人渡し、渡場大石多し、急流あり、瓜生村、<sup>ウリウツ</sup>高式百三石八斗式升、同村之内都野<sup>ツノ</sup>(頭注に「荒生村ノ内都農町」とあり)、つの町の宿中石橋あり、出くちニ土橋あり、二丁計行左ノ方二丁計はなれ一宮の森あり、宮よくハ見へず道はたに鳥居あり、額、日向国一宮と額あり、一丁計行上り坂二丁計、岩山村、高五十七石六斗八升、左右ニ人家あり、寺迫村、<sup>テラサカ</sup>高百廿七石八斗七升、左右ニ人家有、こころみ川、川は、十間計、人こし、小坂を上ル、二丁計行心見茶屋御休あり、七丁計行下り小橋あり、落子村、高百十七石壹斗壹升、左右並木、坂を下り石なみ川、川は、五十間、人越也、町にいり二丁計行、左宮あり、竜宮と額あり、一丁計行、左愛宕山権現あり、高し鳥居あり、上別府村、高式百式拾五石三斗、同村之内美々津、人家四百拾壹軒

美々津

七月廿七日

廿七日

朝間雨強くふりしかやミ、くもりしか、辰中刻雨いさ、かふりてやみ、いさ、か日影見へしか、

美々津川

御料平岩村

巳下刻より雨降り、午上刻いと甚し、夜二いり村雨時々ふりしか、夜半より晴たり、町の出はなれ石灯笼一基、川はた二あり、左へ半丁計行、立岩大明神の社あり、石坂あり、鳥居あり、額あり、則美々津川也、川は、百間計、川を上げれば才脇村也、高八十石四升、左右に人家あり、よからず、此渡舟場才脇村の方の出崎、四五丁計松などありて少し高し、美々津の方ハ二丁ハなく、裏町のうしろ波うち際に甘間計、さまで高からず、大浪よせ来る時ハ、かへるなみに曳れゆくべきやうに見ゆる、才脇村を出れば上り坂也、上り二丁計り、□時坂といふ、上りはて、右の山にそひ坂を下り、谷間に小橋あり、三丁計上り御休所あり、此坂もたふときさかといふよし、上り三丁計也、峠の上東北の方入江、出崎など眺望よし、東北のかたさ、の崎、海へ遠くさし出たり、平岩村の地先も海へ出たり、峠より三丁計下り右大松一本あり、此所に左ノ方石にて、従是南高鍋領とあり、右松ノ下に、従是北寺西蔵太支配所と表二記し、脇二細く日向国臼杵郡平岩村とあり、傍に小杭に従是御料平岩村とあり、坂より三十間計下り小谷川あり、此所甘間下海也、小坂を上りて下り、海辺二出小流あり、御休所有、平岩村之内かねか浜、海辺七八丁行、平岩村之内、左右二家少々あり、平岩村貳百廿軒、小橋あり、いさ、か下りて海端へ出、川を渡り、海辺十丁計松林を通り、人家四五軒ある所などを過、土橋を渡る十二間計、此川境にて財光寺村也、五六丁行右に御休所あり、五六丁行居村あり、左右二人家あり、財光寺村人家百七十四軒、左高き所に宮あり太神宮、一丁計行財光寺川、板橋六十間、橋より一丁計うへ、川二ツおち合て流れ来る也、六十間ハ案内にき、たるなれと、百間計有しやうに

白杵郡

思はる、橋をハたれば新町村、左右人家並ひたり、新町ハ富高村之内家数百十杵軒、新町を出て十丁よ行日知屋町也、ひちやハ家並はず、いと田舎ひたり、家数四百三十軒、細島村人家四百三十杵軒、富高村人家式百拾八軒、塩見村人家式百九十四軒、坪屋村人家百拾八軒、下三ヶ人家九十杵軒、日知屋村、日向国白杵郡

七月廿八日

廿八日

延岡道

内藤家

朝より快晴、いさ、かくもらず、辰より東北風ふきたりつよし、夕くれよりやみたり、六ツ半時日知屋村より新町迄帰り十五丁、延岡道へ行、左右田地いさ、か谷間、十丁より少々登りきりとふしめきたる所、道右、従是北東御料日知屋、道右、従是西南富高村とあり、左右山の谷間六七丁行、右家一軒あり、土橋六七間二丁計行、左ノ山際人家五六軒有、此辺右入海也、左谷へ曲る、所々人家あり、是迄日知屋村の内也、梶木村、左右人家あり、道ノ右、従是南寺西茂支配所と大杭有、従是南御料日知屋村と小杭並ひ立たり、道ノ左、石にて従是北延岡領と表に記し、脇ニ延岡札辻より三里三十五町とあり、傍ニ従是北門川村と有、門川村ノ内古川村、左右人家あり、番所あり、内藤家の境番所、小川板橋あり、川、舟橋廿五艘並へかけたり、舟と舟の間三四尺ツ、離したり、此川下二丁計にて海也、左ノ方尾末村、川より二丁計行加草村高五百九十五石三斗五升五合九勺五才、五六丁行、川屋迫村、左右人家あり、並木有、加草村内、土橋三十間、左一丁計入江、此辺東をと島也、南北に長くよほと高し、木しけれり、みさ

## 延岡城

き、北より南へさし出たる出崎にて高し、遠見番所、みさきの続き山にて北の方高き所、中島、みさきより内にて小さく低き島也、左□宮大明神、道より一丁計石鳥居あり、さゝうる橋、土橋五間、左右人家、壹里杭あり、十丁計行小坂のうへ御休、薬師峠又ハうまみ坂といふよし、上り一丁計、下りも同じ、御休より十丁計行、左大松一本あり、此所より土々呂村、谷間田場なと十丁計行小橋あり、ととろ村、人家左右二あり、左高く木繁りたる宮あり、霧島宮、道はた鳥居あり、浜辺へ出口、左番所あり、此辺左ハ入海也、此所子丑より午未へ廿丁よ入海也、はゞ七八丁計海辺、凡十丁計通る也、打出浜といふ、右しまちり崎、左りよふさき、御休所より三丁計行、一里杭あり、二丁計り行、一里杭あり、二丁計行、伊福形村、並木あり左右人家あり、土橋有五間計、五丁計行笹内橋、板橋四十間計也、左ノ方塩浜もあり、右ハ海に近し左ノ方恒富村之内沖田村、人家見ゆ、松並木の右に山を見て十丁計行、恒富村之内平原村、左右二人家あり、松並木を通り同村之内伊達村、左ノ山き道ノ左右にも少々あり、出北村、高八百十四石七斗五升八合式勺六才之内持江、別府村、道ノ右人家あり、恒富村高三千壹石一斗六升六合六勺、道ノ左右并道ノ左二人家多く見ゆ、恒富村より城下町と家つ、けり、恒富村之人家三丁計、新小路とて侍屋敷、道之左右のミならず横町あり、侍町出口左右廿間計りあり、大せ川、板板橋六十間計、常ハ舟渡之由、此橋上より左二延岡城見ゆ山城也、高し、樹木のひまゝ、塀、矢倉など見ゆ、柳沢町、柳橋とて橋あり、左二寺あり、南町、中町、左ノ方大手口也、北町、北町川海也、延岡ハ中町、南町、北町、柳沢町、元町、紺屋町、博旁町、都合七町也、家数四百七十式軒ありと、延岡城下町、白杵郡

七月廿九日

廿九日

五ヶ瀬川

朝より晴たり、終日くもらず、朝より東風ふきて涼し、夜かけやます、早朝出立、川を通り川はたへ出、五ヶ瀬川、凡百間計、舟橋六十三艘並へ渡せり、川向ひハ紺屋町・博勞町・元町也、夫より北小路とて侍屋敷也、一丁計はなれ富岡村之内古川村、左ノ方川向、南方村之内野地村見ゆ、小橋あり、永田村、左右人家あり、此辺右二丁計はなれ高山あり、小坂を上り右日蓮宗本東寺あり、小坂下り松山村、小橋あり、左ハ川の測也、ここより大河の右へ枝川あり、その川につき左右広き谷間へ行、左ノ方南方村之内まひ村、同村之内小峰村、右ノ方所々人家あり、飯橋十二間、此辺右二行騰山とて岩山にてそひへ、此辺諸山に勝れて高き山あり、山上に行騰大権現を祭りありと、小坂上り左ハ山也、五六丁行、小坂下り小橋あり、右へ上ル、左ノ方荒田内村見ゆ、同村之内舞野村、左右人家あり、芝野あり五六丁、小坂あり下り、御休所あり、一里杭あり、三丁計行、下り坂、同村之内畑野村、左右人家あり、二丁計下り土橋十二間、いさ、か上りて下り、岡本村、右の山に付人家あり、左ハ川也、小橋あり、一丁ヨ行坂を上ル、一丁計大川へたて、左ノ方三輪村之内上檜谷村、右北方村之内荒谷村、芝野を十丁よ行、野中に木村境杭あり、境杭より三丁計行、北方村之内曾木村、北方村、高千弍百三十石四斗六升六合九勺四才、境杭より十丁計次第二下り、曾木村也、左川あり枝川也、昼食、二丁計行土橋十武間、同村之内柳瀬村、左右人家あり、右高き所智古大明神あり、鳥居あり、額有、黒原村、左右人家あり、左久保山村、川水流村、蔵田村、小坂を上り山きはを通り下り小橋あり、同村

美景

高千穂山

之内渡守村、左ノ山にそひ行、十丁計行左一里杭あり、五丁計行下り小橋、一丁計上り水桶茶屋あり御休、一丁計下り谷川、坂二丁計上り下り、二丁計右山にそひ、二丁計行小橋あり、坂五丁計下り五ヶ瀬川の川はたに出つ、川はた六十間計、左ノ方川向ひ山高し、川はた七八丁行、御休所あり、御休所あり、渡守村之内也、一丁よ上り又下り二丁計行、一里杭あり、三丁計行、同村之内八峡川村、杭あり、小橋あり、二丁計いさ、か下り八狭川村、左右人家あり、土橋有、上り坂七八丁、至て険し、平地三丁計行、又四五丁上ル、松むれ村、小橋あり、椎畑村、下り坂四丁計、左ノ山にそひ五六丁行、少シ下り御休所あり、四丁計下り小橋あり、人家あり、上り三丁計、いさ、かの上下ハいくたひも有、下り坂六七町つ、ら折にていと険し、此坂より西北の諸山、南西の川のわかれより綱野瀬川の岩石のさま誠に奇観也、川はた右ニ、従是高千穂七折村之杭あり、綱野瀬川、長サ十七間よの仮橋あり、左ノ方荒平村、右ノ方美々地村、菅原村、橋をわたりすくに上り坂七八丁いと険し、此川北より南へ流れたり、上りはて、左へたを行、これ山のをさき也、次第に上り十四五丁、御休所あり、此山のせにて左りの川も見ゆる也、左右の谷川西北の諸山のいたゞき、岩石そはたちたるさま他所に似す美景也、右ハ川こし東の山の数十丈高き所より水流れ下るなど有て詠めあかず、されと惜しむべし、流れ細し、此川よりハ高千穂山の入口也、御休所より六七丁下り一里杭あり、又三丁計下り七折村之内新町、谷間也、家数十八軒、七折村高六百六十五石七斗八升四合壹勺四才、新町の家中に七橋あり、上り坂一丁又下り一丁よ、岩川橋あり四間計、又上り坂三丁計、いさ、か下り右天神の社あり、七折村之内船尾村、人家、左右二人家あり、御本陣禪宗昌龍寺

七月晦日

晦日

天智天皇

朝より晴たり、終日もならず、東北風ふくつよからず、朝夕次第強くいとたへかたき迄也、深山中ゆへなるべし、辰上刻船尾村出立、西ノ方の山根を山を右二川左二見下し行、川ハ数十丈深し、川をへたて南ノ方二分城村見ゆ、廿丁よ行、一里杭あり、左川向ひ小崎村見ゆ、この分城村、小崎村などハ南ノ方高山にて北ハ川也、境谷とて小流の橋あり、十丁計行同村之内下顏<sup>シツラ</sup>村、左右人家あり、舟尾村より下つら村迄一里余、山の腰を川を見下し行也、所々少々の上下あり、左ノ山より流れ出る小谷川の橋も多し、同村之内中村、左右人家あり、右高き所に御休所有、此所より三四丁なたらに下り一里杭あり、七八丁いと険しく下りて川也、日の影川、飯橋甘間計、此川大石いと多く□く清流たり、上り五六丁又険し、いづれも日の影坂といふよし、日影坂上りはて、宮水坂の入口、道より右四十間計入、畑の中に天智天皇雨やとりし給ひし楠とて、廻り十抱ニ余る大樹あり、楠壺本ニて森のことし、木の下ニ小祠あり、天智天皇を祭たるよし、三丁計行宮水村御昼食の御本陣也、本陣ハ畑の中向村より高く、山の根ニ勘定場とて此辺の収納取立る所のよし、門内構幾ツもありていと広し、上使門内三ヶ所ニて御昼食也、同村之内宮水村人家少々あり、此村ハ川より隔りたり、いさ、か下り小橋などあり、同村之内波瀬<sup>ハセ</sup>村、左右人家あり、右名奈大明神あり、鳥居あり、額あり、此地の森中を通る、四五丁行下り坂五丁計、谷川なかれ合所の下にかり橋あり、人家十軒計あり、はせ川村といふ、宮水村之内のよし、一丁計上り右岩戸道、左みたい道とあり、二丁計上り土橋あり、四丁計上り一水

波瀬村

天岩戸

村也、一水村ハ人家道より左ニ多く見ゆ、宮水村より十丁余上る、険しき所あり、はせ川の川はたよりすへて廿丁よの上り也、上りて山の西の方へ廻り山を右ニいさ、か上りゆく、此所にてふかすみ村、左の谷間也、人家十軒よ、谷広し、二上嶽<sup>フタカミ</sup>、二里計遠く申西に見ゆ、南方村之内のよし、西へたを七八丁行峠也、御休所有、右五もとにわかれたる大杉一本有、杉ノ下に南七折村、北岩戸村と杭あり、此所迄延岡札ノ辻より十一里ありと、十町余も下り人家あり、野形野村の内也、野形野村、左右ニ人家あり、申西のかた高千穂の榎触ノ峰とて見ゆ、則くしふり明神とていすよし、神主田尾伊予正とていすよし、北より南へさし出たる山のひさきにて杉森見ゆる所也、三田井村之内、申上刻、西井清と同道、案内ニともなはれて天岩戸參詣ニ行、小坂を下り橋を渡り、右ノ方へ一丁計行、川上也、鳥居あり、石灯籠一対あり、拝殿三間四方計、天磐戸神殿トあり、左ノ方本社とて一間四方の位宮有、一之岩戸ハ川こしの森の中のよし、見へす、川より上り難く、上り下りかたく、其穴見極め難しとなん、天浮橋、橋より一丁計下也、道より川はたへ下るに木の根笹竹などに取付、からうして川辺に下り浮橋を見る、浮橋とて川の兩岸のかたより、岩の巖々とそひえたるあり、又川も板を敷たる如く浅き川せあり、ここをうきはしといふ、岸下にふちめきたる所あり、川水清澄たり、二丈計高き所一丈余四方の穴あり、木しけり見へす、この天岩戸、天浮橋など後人のいひたし、又ハつくりなせる事にていさ、か皇国書籍をも読し人の信すべき事にハあらず、此日向国ハ誰もしれるごとく三代の神迹まします国にしあれば、たとへ後人の偽任にもせよ、なつかしく尊ぶべき国にしあれば、おのれもふかはへ行し也、岩戸村、白杵郡

皇国書籍



八月朔日

天保九戊戌年八月 小  
朔日 庚午

朝より快晴、終日いさ、かくもらず、辰より北風ふきてやまず、いと冷氣也き、辰上刻岩戸村  
出立、本陣より二丁計下り笹野戸橋、板橋拾貳間、橋をわたり右の岩磐の下に、太神宮御塩と  
てことく、しう石にゑりてあり、されと塩水見へす、いささか岩の塩ハ異たるのミ也、いさ、  
か記すへき程の事にあらず、二丁計上り右岩戸道二行、殿様御参詣ニ付御供也、岩戸村之内笹  
野戸村、人家大かた道より左ニあり、二丁計行左ニ八幡ノ社あり、左右畑也、左二三丁にて山  
高し、同村之内寺尾野村、右低き所ニ人家見ゆ、左ハ山也、十丁余上り坂也、岩戸坂といふ、  
五六丁險し、峠左ニ大杉あり、水茶屋あり、右下野村の境杭あり、肥後国の山々よく見ゆ、酉  
戌亥の方高山みへす、そか中に大や山ぬけ出て見ゆる、山のかたちなたら也、申にかうさたけ  
見ゆ、安蘇山阿蘇山ハ亥に当り、前山に隠れ見へす、下り十丁余谷間也、五丁計下り大杉一本あり、  
杉のもと一里杭あり、又五六丁下り御休所あり、下野村の内才母寺と云る所御休所、至て手を  
尽くせり、下野村、高三百貳拾壹石壹斗五升六勺七才、下野村左右所々人家あり、土橋あり、  
下野村ハ岩戸郷より田畑開けたり、畑かち也、上野村、高九百拾三石壹斗七升三合三勺三才、  
左右人家あり、一里杭あり、板橋十間、橋を渡り右の谷間へ川にそひ上る、御小休龍泉寺へ行  
し也、もとの道橋辺迄帰り、二丁計上り祖母嶽大明神あり、鳥居に額あり、七八丁上り坂、に  
んふ坂といふ、險しからず、右の方の山にそひ次第に下る、田原村の人家左右ニあり、二上山、

祖母嶽大明神

阿蘇山

河内村

山こしに申西二見ゆ、田原村、高六百式拾石八斗五升六合三勺三才、当村之内芝ノ辻と云る所御休所あり、上野村に劣らず二三丁行下り、右妙見宮あり、土橋三間、板ふせ坂四五丁上り也、険しからず、下り二丁計、一里杭あり、小坂切通しめきたるをこへ川内村杭あり、十丁計下り土橋あり、七八間行、板橋八間、此二ノ谷川一丁計下にて落合也、橋より左へ二丁計行御本陣也、今日の村々、昨日の七折郷、岩戸郷の地勢に比ふれば、四方高山もあれと、谷間広く田畑も多く土地よし、村高を見てもおし量りしらる、事也、谷川ハ黒く左の方へ流れたり、末ハ延岡の五ヶ瀬川へ流る、也、河内村、高四百四石四斗九升九合三勺三才、右之内川内宿拾三軒

八月二日

二日

両国橋

細川越中守

朝よりはれてくもらず、東南風吹しかつよからず、朝間冷氣也き、夜も猶涼し、夜あけて川内村を出立、三四丁行て坂を上る二丁計、右ハ山、左ハ深谷を南へ行、西に廻りて行、五丁計にて左の谷間へ下る、三丁計り険し、ところの坂といふ、谷川有、左へ流、国界領境也、東ハ日向国臼杵郡にて、内藤能登守殿領分、西ハ肥後国阿蘇郡にて、細川越中守殿領分也、橋あり、五間計、両国橋といふ、橋より手前左坂の下に、從延岡札辻是迄拾五里三拾五丁と杭あり、橋をわたり、右ニ從是西細川越中守領分、熊本札辻より拾五里九間とあり、両山の間狭き谷を二丁余小溝にそひ行く、右の谷ハ田あり、上り坂六丁計急ならず、西川内坂といふ、坂の上り果る所左ニ清水あり、いと勝れたり、矢来をいり番所左にあり、是岩神口と云り、草ヶ部村之内

阿蘇山

也、番所に続き岩神村、左右二人家あり、大中野村、左右二人家あり、畑中の村也、中野原村、人家左二あり、同じく畑中也、佐倉村、<sup>(社)</sup>左右二人家有り、あまかせ坂、下り一丁計、小川土橋有、上り二丁計險しからず、佐倉村の人家左右二あり、熊本迄十四間<sup>(マ)</sup>杭あり、少々上下あり、草ヶ部村の内山はたと云る所にて御休、此所より阿蘇山戌ノ方二見ゆ、ねこ嶽、亥二見ゆ、此所にて遠望してハ、あそ山ハいた、き東西に長く聳へたる所もあれと、険しくハ見へす、山のいた、き東へ見ゆ、鹿兒島にて桜島を見しと同じさま也、山火にやけしなるべし、ねこたけハいた、きいづくも聳へ、さも恐ろしきさま二見ゆ、山ハあそより小し、御立場より七八丁坂を下る、いとさかし、谷底に川有り、川走橋十二間、橋を渡り左ハ山、右の川にそひ三丁計行、又坂を上ル、十丁計上りはて、御休所あり、かな石といふ所、左ハ山、右ハ谷也、二三丁よりさきハ大かた左右山なれと高からず、十丁余行、早橋村之内柳村、左右人家あり、昼食、四五丁行、板橋あり十間、別当橋と云、いさ、か上りて下り、道ノ左右坂あり、熊本より十二里杭あり、柳村御小休より廿丁行、小橋坂のうへ御休、柳村より此所迄人家なく、野道也、こなら坂下り十三四丁險し、下りて四五丁行高森町也、小橋坂のうへより西北を見下せば、阿蘇山ハ成亥に高く、東西三四里、南北二里計、田畑莖を敷たるごとくにて、見事なる事他国に見ず、うるはし、高森村之内高森町、肥後国阿蘇郡、高、家数貳百貳拾貳軒

高森町

八月三日

三日

朝より晴たり、終日くもらず、朝間冷氣也、巳より西北風ふきしか、申上刻やみたり、辰上刻高森町を出立、村山村、左右に人家あり、つきまはり山右二見ゆ、道より七八丁はなれ峰そはたち、ねこたけに似て低し、村山村ノ地少し下り小川あり、水なし、四五丁行、右竹田道の石あり、色見村、道より右にあり、二丁計行、高森より壱里杭あり、右道の杭あり、いさ、か下りて上り、鍋のひら御休あり、色見村之内十丁よ行、高森より二里杭あり、(宮地)肥ノ尾峠、一里計こなたより次第上り也、あそたけとねこたけと続ける低き所を越行也、峠近く六七丁險し、道ハねこたけの麓によりて上る也、阿その方ハ小谷あり、峠より二丁計下り御休所あり、又二丁計上り峠也、是より下りのミ也、峠より坂梨村の地のよし、杭あり、廿丁計下り小谷川あり、水なし、四五丁下り高森より三里の杭あり、杭より五丁計下り谷川木橋あり、此辺より阿蘇山のいた、き焼口見ゆ、六七丁行左(宮地)ミやし道とあり、さいしかはなと云る所左右畑、廿丁よ行、坂梨村也、坂梨ハ東西に長し、町中小橋あり、昼食、町の出口板橋あり四間、三丁計行小川あり水なし、七丁計行、宮地村之内、でこやと云る所家二軒右二有、大榎一本道ノ左ニあり、あその宮道と石あり、此所より右へ北ノ方八丁行、阿蘇宮あり、出口左ニ大宮司の宅あり、高し、

焼口

阿蘇宮

社領の民家左右ニあり、一ノ鳥居、南北の道ニあり、下馬札左ニあり、一丁計いり二ノ鳥居東二向へり、額、阿蘇宮、石坂六段上り左右ニ石灯笼一对、太ならず、石坂より甘間計行拝殿有、三間四方、拝殿に経四尺計の鰐口あり、歌をゑりたり、岩よりそおちて命のあやふさに、神に

祈りをかける鰐口

天保九年戊戌五月吉日、肥後国野尻手永尾下村願主大助、諸神東向三間  
相殿八間、中二間、諸神宮見通し

一宮 健磐龍神 日本記ニあそ宮

二宮 比咩神 同 阿蘇都姫

三宮 玉龍神 草部吉見神、神武天皇第一ノ御子彦八井耳命ノ御子也

四宮 比咩御子神 国龍神ノ御妃なり

五宮 彦御子神 大神御孫速瓶玉命第一御子惟人ノ命、大宮司ノ先祖

六宮 若比咩神 彦御子神御姫神也

七宮 新彦神 国龍神ノ御弟也

八宮 新比咩神 新彦神ノ御姫也、御姉

九宮 若彦神 新彦神御子御弟也

十宮 孫比咩神 新彦神ノ御后也

十一 北向三間 玉造神 一ノ宮御子

十二 南向三間 金凝神 綏靖天皇神八井耳命ノ御弟二て一ノ宮ノ御伯父神也

拜殿ノ左 御祈禱殿 六間ニ奥行三間

右 神楽殿 間口三間 奥行五間

神輿殿 拾間 神輿四ツ

十八 六 四宮 相殿八間

五 三 七 九ノ宮 相殿八間

何れも一社毎に石灯籠一対

一ノ宮 御陵 大杉一本 い(齋垣)かきあり

二ノ宮 御陵 大杉一本 いかきあり

メウト 夫婦杉、木の玉垣あり、もとより分レ大杉也

宮町六十軒、宮より北ノ方ニあり、町ノ入口木ノ鳥居有、天文二十三年焼失、此節再造宮

二月卯日 神事

六月廿六日 大神事

同月十五日 神事

年中神事 七十四度

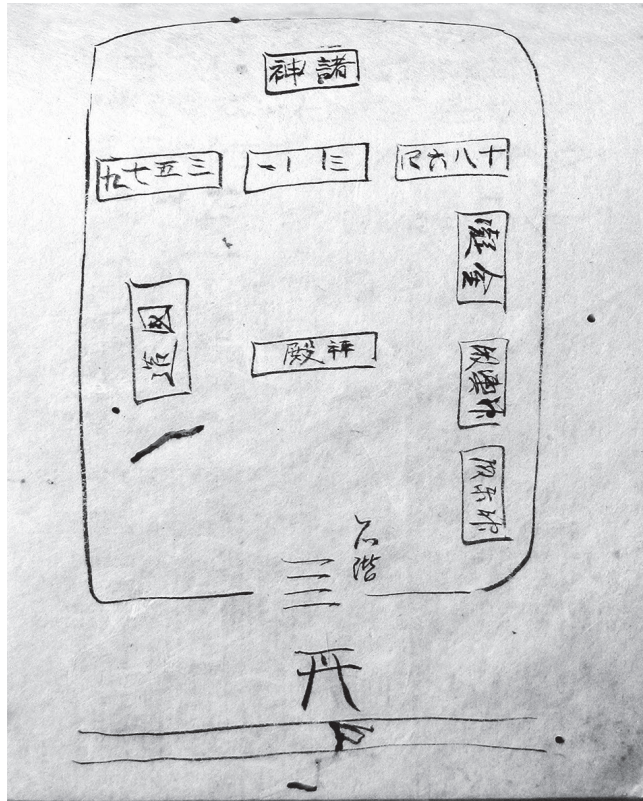
三月 田作神事

六月 田植

八月十五日 新嘗

塩塚村

元の道二帰り追分より七八丁行、けしやう川水少し、六七丁行小橋、熊本より十二里杭あり、塩塚川小橋あり、一丁計行、右あそ道石あり、前と同じ、塩塚村左右人家有り、小溝石橋あり、竹原村、左右人家あり、御休所あり、二丁計行、小橋左右板あり、熊本より十一里杭あり、今



内牧村

町村、左右人家あり、小池村、左右人家あり、小里村、左右人家あり、黒川板橋廿五間、此黒川を左に見て、杉並木の道を十丁よ行、内牧村也、内牧村肥後国阿蘇郡、高、家数貳百八拾軒

八月四日

四日

朝より晴しか未よりくもりたり、朝より西南風吹しかつよからず、午中刻より雨ふり出しか、夜二いりやみたり、辰上刻内牧村出立、宿出はなれ左天満宮の社あり、鳥居二天満宮とあり、左川也、小川橋あり、熊本より十里杭あり、二丁計行、板橋十二間、四五丁行、次第二上り切通しあり、又下る、左ニあれ沼を見下し行く、狩尾村、左右人家あり、大かた左也、同村之内有ノ口と云所御休、内牧より一里五六丁行、狩尾人家あり、熊本より九里杭あり、杭より四丁計行橋あり、左右人家、狩尾村之□道より右三十間計にて高き所に、的石とて二丈四方計の石あり、的石村の名此石によりて名付たりと、その因縁かたり聞せしか、うるさけれハ記せず、的石村、左右人家あり、六十九軒、熊本より八里杭有、車返村之内坂下、左右人家ならひ町めきたれと家多からず、四丁計上り左ニわかれ道あり、ふた元峠、上り十三丁ありと険し、峠より左へいさ、か上りさまに二二三丁行、御休所あり、此所眺望至てよし、肥後の田野数十里眼下に見へ、熊本之城申ノ方ニ当ルよし、鳥原ノ温泉嶽申西に高く見ゆ、誠遠景目さむる心地せられたり、峠の小屋左家一軒、中ノ小屋家四軒、方里か谷、御休所あり、家四軒石橋あり、七八丁下り、十丁計下り平川村、同村之内高をの、家十一軒人家あり、五里杭あり、大津村の入

眺望至てよし



大津町

八月五日

五日

口近く、道ノ左右桜を植つらねたり、村ニいり四丁斗行、右高き所山王宮あり、肥後国合志郡、大津村之内大津町、高、人家三百九拾五軒

菊池郡

朝より晴たり、終日くもらず、されと快晴ならず、朝より西北風ふく、強からず、正六ツ半時大津町出立、一丁計下り石橋を渡り二間計、溝を右ニ二丁計行、又右へ石橋を渡り坂を上る、松古か坂といふ、二丁余、橋を渡らず真直に行ば隈本道也、左右畑也、いさ、か下り又上り行、塔<sup>トウサツ</sup>追村、天満宮ノ社あり、人家道より遠し、平川村、昨日通りし村也、此辺より卯ノ方飽田郡金峰山、肥前温泉嶽子ノ方、菊池郡八方かたけ見ゆ、一里杭あり、杉水村人家見ゆ、小坂を下り田あり、小橋あり、坂を上り行、川辺村之内か□かけ松、当五月廿七日大風にて折たり、人家三軒左右ニあり、峠坂村之内西ノ原御休所あり、左大榎一本あり、二里杭あり、少し下り仮橋十間余、二丁計行、かり橋八間、住吉村、左右人家あり、一丁計行、菊池郡上古閑村、いさ、か坂を上り六七丁行、坂を下る、なたらに四丁計下り小橋あり、左右田十丁計行赤星村、左行又小橋有、村はつれ橋あり、岐路也、右え行菊池川、仮橋三十間、川はた三里杭あり、二三丁行又小橋有、北宮村、右川にて左ニ人家あり、北宮ノ社あり、石大鳥居あり、かく北宮<sup>(題)</sup>とあり、普請よし、神主小縣若狭、左右人家、二丁計行石橋有、□□三里杭有、正観寺村内隈府町、昼食、中島屋仙助方御小休、当村之内、浄土宗正観寺、菊池氏菩提所之由、左正観寺村内林正寺

山鹿町

村、右袈裟村、野間口村、貴船神社有、神来村、右山さき村見渡也、迫間川土橋廿一間、一丁計下り小橋、四里杭あり、中富村之内鍛冶屋村、右道より一丁計はなれ宇佐八幡宮見ゆ、きの川、板橋廿間計、堤を二丁計上り、同村之内上川原と云る所御休所あり、一丁計行、内田川、土橋廿間、山鹿郡高橋村、右八幡宮あり、右山伏宝珠院宅二太神宮あり、右大鳥居見ゆ、同村之内右天満宮、上御宇田村之内新町、左右人家ありよき町也、古閑村之内白石、左右人家四五軒あり、六里杭あり、中村、人家左二あり、稲荷の社あり、山鹿町の鎮守大宮大明神の社あり、山鹿町、山鹿郡湯之町之内、

八月六日

六日

眼鏡橋

朝より晴たりしか、未よりくもりかちなり、午より西北風ふきたれとつよからず、六ツ半時山鹿湯町を出立、町を出て二丁計下り三丁計行、石橋有、五間計眼鏡橋造り、三丁計行ハ石橋有、二丁計行、左ニ杉あり、杉の下より清泉出る、五六丁行板橋、鍋田村鍋田川に掛りたり、廿八間、左右ニ家弐軒あり、小坂上る、はひ坂右五丁計行、榎あり、右ニ大津より七里拾四丁壺間、左熊本より七里と杭あり、坂を下り田場を通り車通坂上り式丁、岩村、右人家あり、高八百三拾九石余、人家百弐拾軒、左一向宗光行寺、御休所あり、一丁行、岩村坂下り式丁黒村、人家ここにもあり、石橋大こ橋造り、六間、岩村川に掛る、四五丁行小坂、水落坂、熊本より七里杭あり、三丁計上り也、平野村、高四百四拾八石余、人家八拾弐軒、人家左右ニあり、平野川

柳川領

石橋、袖ぬき十三間あり、至てよし、二丁計坂上り一丁計行、二丁計下り土橋有、又小坂上ル、大田黒村、高八百五拾壹石余、人家百六十式軒、太田黒坂上り一丁險しからず、左右畑あり、肥猪村めんとんじ原御休、六七丁行下り坂あり、又上り肥猪村之内肥猪町、宿めき人家並ひたれど町並至あしく、左ニ氏神熊野宮あり、左ニ肥猪村、高千三百廿石余、人家三百八十九軒、いさ、か下り小橋二ツわたり又上り、十里杭有、なたら坂下り式丁計、左右田場二丁計行、石橋、大こ橋なり、十二間、田町川といふ、関村、高千九百三石余、人家七百拾五軒、右ニ浄土宗悟真寺、一向宗真光寺、正勝寺、正福寺、昼食、町より四丁計行、右ニ大津山宮見ゆ、阿蘇一ノ宮勸請之由、うしろハ高山也、木しけりたり、道より式丁計、石ノ鳥居額あり、道より廿間計奥にて見へす、二丁計南に、山の中ほとに熊野宮あり、別山也、左右山の田畑の所六丁計行、小橋あり、坂あり、上り二丁計、関村之内関外目村、人家あり、小坂を下ル、右ハ山左ハ田也、道ノ左木にて、南細川越中守領、熊本札辻より拾壹里八丁式拾間とあり、日向境の岩神口より式拾六里八丁拾間ありと語れり、石にて従是北柳川領内柳川、札ノ辻より四里三十丁とあり、是筑前国玉名郡、筑後国山門郡の国界也、小橋あり、しか村之内ゆや名、小橋をわたり、山門郡北関村とあり、北へ向ひ谷間を十丁行、いさ、か上り一丁計下り三丁計行、土橋有、今池郡亀尻村と杭あり、北関村、人家左右にあり、小橋をわたり左右人家あり、左荻村、右三峰村の杭あり、杉並木式丁計行中原村、川あり十間計、左右中原村人家あり、杉並木七八丁行、原町村、左右人家並ひつゝ、き家居よし、御休、町を出二丁計行、立山村左右人家あり、土橋有、

清水寺道

瀬高

左竹井村、野町村、左右人家並ひたり、家わるし、右祇園宮、天満宮あり、村中、柳川より三  
りノ石あり、廿間計行、右清水寺道ノ石あり、中尾村、右在刀村、中尾村之内、清水御休、小  
橋を渡り松延村之内吉井、左右人家あり、橋をわたり上小河村之内吉井、左満福寺あり、一丁  
計行、左天満宮あり、大竹村、土橋あり、四間計四丁計行、土橋十間計、下庄村、左右人家、  
瀬高上庄村、山門郡

八月七日

七日

久留米領

立花家 有馬家

あかつきより雨いさ、かふり、辰上刻よりくもり、巳より時々日かけ見へたれと大かたくもれ  
り、六ツ半時上庄町を出立、町中に右宿町道とあり、石傍示杭也、土橋あり、五丁計行中山村、  
左右人家あり、四五丁行土橋あり、本郷村、十丁計行土橋、左右人家長し、村の出口土橋あり、  
廿間余、二丁計行、左ニ柳川領、久留米領の領境の石並ひ立たり、壹丁ヨ行、久留米領今寺村、  
七十間有よしの杭あり、一丁計行、又領分境の杭あり、此所に立花家附回り、其外有馬家役人  
等出居たり、本郷村より土手のうへ道也、九郎原村、土手ニ御休所あり、尾島村、右ニみゆ、  
土橋有四間、野町村、左右人家並ひいと長し、されと人家あしし、鶴田村、二丁計行土橋、野  
中村、道ノ左、北上妻郡、南下妻郡と郡界石あり、野町人家左右ニ有り、石橋六間、秋松村、  
藤島村、土橋八間、秋松村、藤島を中におきて又家居あり、羽犬塚町に続きたり、羽犬塚町、  
町よし人家多し、土人ハイツカマチと唱ふ、宿中六所宮の社あり、鳥居あり、かくあり、坂東<sup>(額)</sup>

羽犬塚町

高良山

寺村、左右人家あり、本村ハ道より左、土橋あり、三間並木有、四丁計行、藏数村、左右人家少しあり、一条町左右人家よき家あり、喜多屋文蔵方にて御休、岩出村、藤田川仮橋拾貳間計、藤田村、左右人家あり、南上妻、北三井郡界あり、土橋あり十間計、左右松あり、上荒木村、車路といふ所にて御休所あり、松山中也、一丁計行、右領主祈願所東林寺あり、寺ハ見へず、二丁計行土橋あり、此辺より高良山寅二見ゆ、白口町、一里塚あり、一丁よ行土橋有、津福町、申下刻より水天宮參詣ニ行く、堀はた桜馬場といふ、桜百間よ両方ニ植て、中ニ馬場あり、夫より町を二三丁通り田地を左右に見て二丁計行、せのした町と云る、左右家ゐ長く続けるを行ば右ニ石鳥居あり、ここに至りし時、はや日暮たり、すへて挑灯にて見ありく、鳥居の柱ニ右天壤無窮神座祈祷、左冥加正直萬民快樂とあり、一丁計行二ノ鳥居あり、少し額見へ兼たり、鳥居のまへ右、石灯籠七ツ八ツ左右ニ一対あり、鳥居を過右、石とうろう十計、石坂六段上り社前也、石灯籠一対、同あま犬一対左右ニあり、拜殿三間半ニ二間、本社三間ニ二間計、拜殿本社造り続けり、拜殿額水天宮、弟子高大楯書とあり、中にも水天宮と額あり、左りのうしろ隅水神社あり、一間計鳥居あり、石手水鉢あり、鳥居よりうち左ハ筑後川也、川は、百間計、二ノ鳥居うち右社家泉本牧和泉宅あり、立よりて暫く休らひたり、久留米城下町、筑後国御

久留米城下町

井郡

八月八日

御原町

八日

朝より晴たり終日くもらず、西北風ふきたれとつよからず、六ツ半時御原町を立出、城を左に見る、通町十丁、五丁目右山王宮あり、見付あり、通外町一丁、町を出て左二五穀神あり、造営美麗なり、能舞台もあり、石鳥居額あり、社前桜並木あり、道ノ左右蓮池数丁頗大也、東野中村、左右人家あり土橋あり、右水神ノ社あり、本社拜殿、石鳥居あり、二丁計行、右正源寺往還とあり、一丁計行、右わかれ道あり、禪宗福寿寺、二百五十石、六丁行、府中町入口壺り塚あり、町中程真直に行、高良山道也、大石灯籠、高凡二丈計、左右二あり、玉垂宮とあり、右下馬札あり、石鳥居頗大也、銅額あり、玉垂宮とあり、此所より高良山宮迄上り十五丁、別当山伏蓮華院、社額五百五十石、公儀御霊屋有之、山ハ西向にて東より続ける高山の出崎の中ほとより上也、樹間に宮社など多く見ゆ、当国第一の大社、此所より卯辰ニ当ル、此所にて御休あり、左えわかれ行、二丁計行、右吉井田主丸道、左松崎道と石あり、小橋あり、此所より松崎へ三り、宰府え六り之由、阿志岐村、左右人家あり、同村之内追分、右ハ豊後道也、左へ曲り行也、左右田也、東南耳納山見ゆ、高し、筑前法満山丑ニ見ゆ、世振戌ニ見ゆ、左右田、十丁計行、小橋を渡り大郎原村御休、府中より三十三丁、露川石橋二間計、左東山本、西御井分界とあり、露村、木塚村三丁行、壺り塚、三丁計行、大橋、与田村、左右人家、飯田村、左鎮西本山善導寺道とあり、善導寺門前町あり、浄土宗也、道より一丁余左、勿体島村、常持村、左右人家、二丁計行土橋あり、壺里塚、左川はた二あり、城下より三り、一丁計行石橋、石浦

善導寺

松崎道

田主丸村

村、道左右家あり、御休、石浦村ノ大橋、土橋三十間計、指出村、一丁計行、西山本、東竹野分界あり、西牧村、左右田、三四丁行、左右二土橋あり、家あり、四間枝川也、左東牧村、左右人家、今村、地面のミ也、人家右ニ遠し、馬ノ渡り村、江口村、志床村、壹里塚有、城下より四里、左門ノ上村、左二橋あり、片ノ瀬道とあり、口高村、蟻川村、左ノ川にそひ三四丁行、左怒田村、右田主丸村、杭左右ニあり、右玉垂宮ノ杜見ゆ、田主丸町、筑後国竹野郡、高、人家三百七十二軒、左ハ用水川にて、右片側町を式丁計行、左へ石橋渡ル四間計、祇園町二三丁行、左一向宗来光寺、祇園社あり、新町一丁よ行、木戸あり、一丁計はなれ吉田町、左右人家あり、よからず、わつか一丁よ也、出はなれ右祇園社あり、左右田也、明石田村、諏訪村、壹り塚あり、城下より五り也、蔵成村、分地村、蔵八村、樋口村、左右人家あり、入口御休所あり、中徳村、土橋あり、陣内村、菅村、東生葉、西竹野分界あり、岩光村、郡界十丁計行、壹り塚、城下より六り也、左八幡杜見ゆ、二丁計行、左右川あり、左吉井町、田、左川向、清宗村、島村、金本村ノ田あり、石橋あり、木戸入、吉井町内川窪町、金ノ甲町、天神町、吉井町、筑後国生葉郡、高、人家四百拾貳軒、吉井村之内若宮八幡宮あり、吉井町より八丁余、社地東ノ方二月ノ岡とて塚一ヶ所、西ノ方二日ノ岡とて塚一ヶ所あり、古来より此塚の草をかり、又ハ馬繫きなどする時ハ、忽ち病氣起り又ハ怪我を致ス、神主三七日祈禱して祈誓して窺ひしに、堀ベキ由の兆なれハ、則近辺の氏子など打集り堀見しに、太刀、矢ノ根など出たり、古来より為朝の武具ともいひ伝へけれハ為朝の物なるべしとて、八幡宮へ納め靈宝とせりと、其ほり出さしハ廿一ヶ年前、文政元寅年の年也しと

吉井町

為朝の武具

八月九日

九日

朝聞くもり、辰より晴しか午よりくもれり、時々雨いさ、かふりてやミ、申下刻より雨ふり出たり、つよし、夜半やミたり、辰中刻吉井町を出立、田主丸町迄ハ昨日の道なれハ略けり、田主丸町より七八丁行、片瀬道とある、土橋を渡り橋四間計、左西亀山村、左門上村、左右田、七丁計行、同村之内原村御休所有、唐島村、人家道より右二あり、竹松村、原村より此辺迄堤ノ上ヲ通ル、左鹿狩村、右筒井村、塩足村左右人家、筑後川ノ川前川端にて御昼飯、川より御井郡也、川より松崎迄一里三十五丁、森部村、人家左二あり、堤の上を通ル、右ハ本郷川流る、江戸村、下川村、堤より右へ下ル、松崎道とあり、三丁計行、従是御井郡、御原郡境と石あり、土橋あり、本郷村、左右人家あり、二丁計行、又左右二人家、甲条村御休所あり、是より多くハ左右小松山にて、田畑ハ少し、十丁計行土橋あり、五六丁行小川、仮橋あり六間計、五六丁行、左右小松山、岐路あり、右二石にて右秋月道、左山家道と石あり、四方え分レ道也、二丁計行松崎町え入、松崎町、筑後国御原郡、人家百拾六軒、町を上中下と分ち名付く、松崎町ハ諸方への通路也、四方山遠くよき所也、久留米迄三里式拾壹丁、府中迄三里、福岡迄八里、小倉迄式拾里、宰府迄五里、秋月迄三里、田代迄壹り廿八丁

松崎町

八月十日

十日

朝よりくもりしか、辰下刻より雨時々ふりしか、未よりやみたり、辰より西北風吹たれと烈し



黒田家の役人

山家村

二日市村

からず、六ツ半時松崎町を出立、昨日の道を帰り、山田道とある所より同し道へ入也、二丁計行土橋を渡り、薬師村、左ニ薬師堂あり、左右人家あり、右干潟村、杭あり、十三丁行、左右へわかれ道あり、左へゆく五丁計行、一里塚あり、三丁計行干潟の本村左右二あり、入口祇園ノ社、石ノ鳥居、額あり大ならず、三丁計行乙隈村、杭あり、三丁計行土橋、おとくま川、仮板橋八間、乙隈村之内中野田と云る所ニて御休、左ニ家あり、松崎より一里三丁、此所より国境迄三丁、国境、小溝あり橋あり、橋よりこなた有馬家、橋よりさき黒田家の役人出居たり、溝よりてまえ左ノ方ニ、石ニて従是南筑後領と六尺計の石也、従是北筑前国と一丈余高く石也、境溝の橋のさき筑前国にて道より右夜須郡、西小田村、道より左御笠郡東小田村、二丁計行土橋あり、左右人家あり、二丁計行小田川、仮橋、十間、東小田村之内丸町、左右人家あり、出はなれ御休、松延村、左右人家、中牟田村、左右人家、村中巻り里あり、朝日村、左右人家、五六丁行、間片川、かり板橋十間、此辺より山家村地也、壺丁計行、右ニ山家町道あり、山家町の人家見ゆ六丁計、二丁計行又山家町道あり、但し長崎道也、朝日村之内二村町、左右人家、中程左ニ境ノ石あり、天山村、左右人家、阿志岐川、かり橋廿二間、牛島村、左右人家あり、針摺村御休、此御休所すりすり峠といへといさ、か上り也、下りて並木道、二日市村、左右人家、入口左松尾明神ノ宮あり、右八幡宮あり、昼食、二日市町を出れば、石橋あり三間計、川を右に見て五六丁そひ行、左通古賀村、人家は道より左ニ遠し、仮橋十間を左へわたり二丁計行、右片野村、人家ハ遠く見ゆ、此辺より右ハ宰府村の内也、壺丁行つき当り、宮へつき当り

宰府町

右へ曲りて行、十丁計行、此辺東北の田畑広き谷間也、左右七八丁はなれ山也、観音寺ハ道より左六七丁、北ノ方に山門、本堂など見ゆ、観音寺ハ南に向ひ、前ハ田なり、うしろハ山なり、此山ハ木しけらず

宰府町、御笠郡

一ノ鳥居、唐金也、回り一丈位

奉造立神門一基

天明元年辛丑十二月朔旦、肥前国唐津願主常安九右衛門保道

二ノ鳥居、石也、回り一丈位

本邦牧従四位下源朝臣綱政建立、元禄九年歳次丙子三月朔旦

左、常夜灯一、仁王門ノ前也、高一丈二尺位、文政十三年庚寅八月、京都より寄進

左、右同一対、寛政五年仲冬、長門国より寄進

左、浮殿、二間二奥行四間余、車の上の品

左、常夜灯一

薄難此邦 肆見波滄 靈鑑永世 不顧其光、備後菅晋師拝撰 文化十年仲秋

右、百度石、四角にて一尺五寸計、高さ八尺計

常夜燈一对、八尺計、正面ハ延寿院也、門前ニ石を立たり、留主職司務別当大鳥居、延寿王院

三ノ鳥居、石也、本社ノ正面南向也

大常夜燈一对、高一丈五尺計、寛政五年長門萩より

左右常夜燈、石也、高一尺二尺<sup>(マ)</sup>

右同、一、左六あり、高不同

池、周り百八間ありと

橋、反橋七間七八尺間也、橋幅凡二間位、擬宝珠左右九ツ、

中島、南北六間、東西十間計也、左右常夜燈二对、右塔あり、二間四方計、觀世音を安置ス、

額、施無畏

橋、五間七八尺、橋幅二間位、擬宝珠左右八ツツ、

二ノ島、東ノ方ハ続けり、されと島のごとし

常夜燈一对

右、宮あり、志嘉大明神、一間四方、此所左ニ小島あり、つき山ごとし、植木・石などあり、

奇麗也

二ノそり橋、五間八尺間位、擬宝珠<sup>(マ)</sup>左右八ツ、

右、常夜燈四ツ、左同七ツ、橋より楼門迄凡一丁余、此間石燈籠、右十二、左十一

右、島原城下接待所あり、右楓宮二間半四方位、左安養院、七八尺間、三間四方、安養院と

額有

左、絵馬堂、東西四間、南北二間二間半間也、種々の絵馬多く、国々より献しあり、右末社あ

り、上会所、高良大明神、宝満社

右、唐金の牛、大サ五六尺位、文化二年福岡博多連中より寄進

右、経蔵、三間四方

同発句ノ碑あり、太宰府に参拝して

風に飛や神の昔の梅花

宗因

とべは匂ふ梅や自身の取合せ

梅翁

鼻祖連歌の発句に寄て、神詠をかしこみ遥拝し奉るに草木きはめる時なりけれハ

なかるらん とりわけて其松に秋 素外

橋より楼門迄に茶屋多し、右三四軒、左十軒余あり

右、車井戸あり、傍二碑あり、天満宮潔手盤銘と大きく書て、漢文あれと長文細字読ず、過略

楼門、長四間四尺、横二間四尺、慶長年中石田治部小輔三成建

裏ノ方、権額、仰高、同聖徳、勝蘭、結聚水月、同然、咸通、皆横額也

回廊、楼門に続き、左右東西六間、八尺余、東西十一間、八尺余、都合四十九間也と、黒田長

政建立

石あまいぬ、左右、銅燈籠一对、宝曆九年十一月、平戸より寄進

右、常夜燈あり、池あり、石橋五尺計

右、唐金の手水鉢、享和二年二月寄進、八尺計高きより水ふき出し濡る也

同、唐金の燈籠一對、貞享四年八月、博多より寄進

左、二重塔、大ならず、二丈計、塔ノ中ニ唐金の香炉あり、寛政十一年南呂博多より寄進

左、銅燈籠一基、宝永七年五月、博多より寄進

唐金の花瓶一對、享和二年二月

右、飛梅、木のいかきあり、いと若木也、左にもあり

本社、東西七間、間数不問、宝物之内、天国ノ宝剣、菅公河内国誉田八幡宮より授り給ふ名剣  
也と、箱ニ神刀治工天国と有、三条小鍛冶宗近、浪平行安

菅公真蹟

普問品、巻物一軸、紺紙金泥、法華経

詩一首、草書也、五絶ノ詩を二幅ニしたり表具也

離家三四月 落涙百千行 萬事皆如夢 時々仰彼蒼

本社のうしろ末社

貴布祢大明神、若宮、神名額なし、福部社、玉神子、尼神子、柳神子、石ノ牛あり、老松社、

御霊社、新羅明神

右、石坂十七段上り

法性坊、太神宮、金比羅宮、東法華堂、三間四方計、七八尺間

社より西、回廊外

常夜燈十五、土蔵二ツ、宝物庫、神厩馬一匹居たり、鐘樓高し、上り見す

此所に大楠二本あり、十余抱の老木

西法花堂、六間四方計、薬師堂、霊現の薬師安置、天智天皇勅願霊場

安楽寺大講堂、本尊薬師瑠璃<sup>(ルリ)</sup>光如来、天智四乙丑歳三月十二日遷座、仏工春日之作也、

自天智四乙丑歳至于天保九歳戊戌年、一千一百七十有五年

聖徳太子堂、七尺四方計、此所西ノ方より池へはひ覆へる楠の老木有、根数地にひろこりいとめてたし

常夜燈一基、まよひ子救の碑あり、石高サ六尺計、四角

まよひ子、自然御見当被成候ハ、此所へ御つれ可被成候、子供衆へ御はくれ被成候ハ、此所御たつね可被成候、取次小野加賀、文政九丙戌歳十一月

此碑ハいとく深切の碑にて、紀ノ長島ノ碑にもまされり、心あさきさかしら人エハ却て笑はんも計りかたけれと、誠に有かたきしわさ也き

仁王門

太宰府社

太宰府社内略記

天源山安楽寺廟院

一、天満宮 御本社 桧皮葺

聖廟、宝殿、桁行九間、梁行七間

醍醐天皇御宇延喜五年、以勅味酒安行造立之

一、往立末社七拾五ヶ所、只今現数四十一社、左之通

- 一、老松大明神、一、祢都大明神、一、御霊大明神、一、太神宮、一、東法華堂、本尊毘沙門、一、西法華堂、本尊大威徳、一、大講堂、本尊薬師、一、安養院、同阿弥陀仏、一、十一面観音堂、一、志賀大明神、一、楓宮、一、人麿社、同、一、櫛田大明神、一、山王権現社、一、藤太輔侍、太宰小弍廣朝、一、貴船大明神、一、若宮、一、玉宮天満宮御子、一、尼宮天神御子、一、柳宮、一、新羅大明神、一、荒神社、一、法性坊天神御師、一、弁財天、一、今尾吉祥天女、一、小太郎左近社、一、四天皇堂、一、太郎左近、一、榎寺、一、理趣院、一、回廊 四十九間、梁行一丈弍尺五寸、一、浮殿、一、文庫、一、楼門、一、仁王門、一、鐘楼、一、会所、一、御休所、一、神厩

外、一、八満宮、一、宝満宮、一、高良社

此三ヶ所ハ書上以來出来

又外二、一、金比羅社、一、星御国社、一、絵馬堂

天満宮御宝物

天満宮御宝物

- 一、天神御太刀、兵庫鑱、天国作  
一、天神御自筆観音経、一卷  
一、二幅二五絶句

- 一、太刀、六腰、古来より所々寄付、小鍛冶、行平、国房、信国、包平、青江
- 一、天満宮社辺、東西六十三間、南北百七十間
- 一、池の回り、百八間
- 一、社家五十六坊、内廿六坊上官、三十坊下官
- 一、町数九町、下町、横町、連歌屋、大町、小鳥居小路、二条溝尻町、新町、馬場
- 一、真言宗寺数三ヶ寺、光蓮寺、来光寺、西正寺
- 一、家数四百軒余
- 一、人数貳千貳百人余
- 一、高式千九百六十七石余
- 一、御輿休、七尺四寸
- 一、飛梅玉垣、長貳間、同横七尺
- 一、桜馬場、横九間半ニ長サ橋より大鳥居迄百九十五間
- 一、蓮池、大楠之元より楼門通路迄九十間
- 一、楼門より三ノ橋迄三十三間
- 一、東法花堂、脇山手垣より西法華堂玉垣迄六十卷間
- 一、本社後屏より三ノ橋迄七十八間
- 一、上ノ橋、横貳間、長八間半



- 一、中ノ橋、横式間、長七間三尺七寸
- 一、一ノ橋、横式間、長十間半
- 一、竈門山宝満宮迄、神前より五十一丁
- 一、天羽山武蔵寺迄、巻り程
- 一、榎寺迄、廿五丁
- 一、染川、天満宮南ニ有、小川也
- 一、石踏川、同北ニあり、思ひ川の上、同し流也
- 一、思川、大宰府町え西ニ渡る川也
- 一、浄明寺、榎寺、天満宮ノ未申ノ方ニあり
- 一、幸橋、榎寺ハ少々前ニあり
- 一、白川、榎寺ノ東南ニ有、二日市ニ近し
- 一、六条院、仁安三年初て日別神食備る事初ル
- 一、味酒安行誌、宮司三軒ニ成、後白河院御宇、菅公九世孫菅原善昇詔にて西府ニ下り社職を勤、祭礼司られ、後ニ剃髮して信貞と号ス、嫡子を信昇といふ、是より大鳥居、小鳥居家別レ、相続く、御供所執行浦ノ坊と五坊ニ分ル元祖也
- 外ニ都合五十六坊、内式拾六坊上官、三十官<sup>(マ)</sup>下官

一、今之神殿、天正十九年造立成就也、小早川隆景

一、楼門、慶長三年石田三成、当国仮ノ代官之時建立

一、中門、回廊四十九間、長年中長政建立

一、石鳥居、綱政建立

一、輪橋、近き石鳥居 往古よりあり、誰人之建立といふ事を知らず

一、大町、かねの鳥居、天明元年丑、肥前国唐津常安九右衛門保道建立

八月十一日

十一日

朝間くもりしか、辰中刻より晴しか、とかく陰りかち也、巳より西南風吹しかつよからず、早朝立、中牟田村、わかれ道迄帰り、右松崎郷、左あまき道とあり、廿間計行、西中牟田村東松延村とあり、左右人家あり、御休所有、篠隈村、土橋あり二間位、人家あり二丁行土橋、並木二丁計行土橋有八間、曾根田村、左右人家、長者町村、左右町家あり、畑島村、人家あり土橋有二間、栗田村、左右人家、御休有、一丁行一里塚、七八丁行板橋三間、所々人家少々あり、土橋二間、又家あり、栗田分久光村、三丁計行わかれ道あり、右甘木、日田、左秋月と石あり、一丁計行、左五穀社の宮あり、石坂高し、弥永村、左右人家あり、少し田場を通り弥永の町屋あり、こなたの角二、右ハかた、さいふ、左くるめ、まつさきとあり、町長し、町はつれ左大神大明神の社内御休あり、石花表あり、寛文第十二壬子歳仲冬、三十間計行石坂十五段上り御

弥永村

秋月城下

庭也、本社四間、額大神宮、二丁計行一里塚、小橋あり、隈江村、一丁計行土橋、三丁行土橋三間、ナラハラ橋原村、左二人家見ゆ、甘水村、同千手村、左右人家、土橋七間、右川はた水神ノ社あり、小也、二丁計行、川のよとみに、(大橋)みうと石とて大石二ツ水中にあり、石より二丁計行川二ツに分ル、左ノ川にそひ三丁計行、土橋あり十間、川を左にして五丁計行、町入口也、隈江村より城下迄一里計ハ、丑寅さして十丁計の谷間也、田地也、町の西より北ハ木しけり、山至高し、町より東方水上、田地あるさま見ゆ、町二iri、魚町、石橋八間、中町、つき当り左へいる、新富町、秋月城下、筑前国夜須郡秋月山大源寺、秋月城下、魚町、中町、新富町、今小路町、浦泉町、メ五町、町家貳百九拾五軒

八月十二日

十二日

下秋月村

朝間くもりしか、辰下刻よりはれ、午よりわけて快晴、巳より西北風ふきしか、未時やみたり、辰上刻出立、門前より右へ上る、新富岡町也、夫より左右家中町、二丁計坂の地形に随ひ家作したり、下秋月村、家いさ、かあり、両山高き谷間を、谷川を左に右の方の山の根を西北さして上りゆく也、十丁計上り石橋あり、右二滝あり、桜瀧といふ、又ハ不動ノ瀧、ぬのをかの瀧など、名あり美景也、不動尊あり、石の五輪の塔あり、左二家一軒あり、一丁計上り又土橋あり、此辺両山殊ニ高し、わかれ道あり、十丁計上り峠也、石ほとけ坂と云、東下秋月村、西甘水村(水)の杭あり、此所より下り也、峠といへと両山の間のひくき所を道とせり、四方山高く眺

福岡侯領

豊前彦山

望なし、六丁計下り土橋あり、右家一軒あり、甘水村ノ内也、是より谷間八大かた高下なし、二丁行小橋、一丁行小橋、五六丁行白坂、三丁計上り峠二里塚あり、道ノ右二北嘉麻郡泉河内村とあり、左、西夜須郡三ヶ山村、東甘水村とあり、五丁計下り小橋、五丁計下り又土橋あり、是秋月侯、福岡侯領境也、西北穂波郡弥山村と杭あり、谷間ノ左右田地、五六丁行小橋、弥山村之内はた村、人家左右二あり、右多し、小橋をわたり谷間、小坂を上下し十四五丁行、弥山村、左右人家石橋有、谷間を行、左の山のねを上り行、弓坂峠、弥山村之内、峠二御休所あり、眺望よし、豊前彦山卯辰二見ゆ、山こし二中よりうへのミ見ゆ、いたゝき峰三ツ也、同国あかの山丑二見ゆ、高し、筑前黒崎辺の山子ノ方、法満山西戌ノ方、北ノ方田野遠く見ゆ二丁計行、土師村、下り坂五丁計土橋有、平地五六丁行、道ノ左右二道あり、石あり、左ノ石二右秋月、左大くまひこ山道と有、左ノ石二右飯塚道、左太宰府道とあり、二丁計行御休所有、三丁計行土橋、一丁計行土居村、道より三丁計左老松宮ノ社あり、森しけり鳥居見ゆ、土居川かり橋八間、土居村人家左右二あり、寿命村、右八山左八人家也、こなたの左角二石にて右肥前海道、左秋月海道とあり、此肥前海道ハすなハち長崎道也、此辺左二法満山近く見ゆ、高山也、右二彦山も見ゆ、寿命村と土居村の間にて見ゆる也、二丁計行道の左大楠一本あり、御休所あり、二丁計行一里塚あり、天道村、町長しよからず、左□天道宮ノ社あり、石鳥居ありがくあり、十丁計行樂市、左右家いさゝかあり、秋松村、忠隈村、堀池村いづれも人家道をはなれてあり、境めきたる道をゆき右へ下り、一丁計行、此辺より彦山よく見ゆ、徳前村、左右二人家あり、飯塚と続けたれとわつか也、一里塚あり、飯塚村、穂波郡

飯塚村

八月十三日

十三日

筑前国続風土記

朝より快晴、終日くもらず、辰より西風ふきしか、未時やみたり、夜にいり月かけ清明なり、今日出立すべきを、御用向き御取調の儀有之候とて滞留也、辰上刻、殿様御儀御参会の由にて、曾我様へ御出、送り行て帰ル、早朝より筆とりて、筑前国続風土記第八、御笠郡中天満宮ノ部を写し始めたり、申上刻、殿様御迎二行

八月十四日

十四日

朝より快晴、終日くもらず、風もふかずいとく、空氣よし、夜二いり月かけをとれり、朝飯前二、続風土記天満宮ノ部終切、今日、御用向相濟兼候由にて御滞留也

八月十五日

十五日

朝間くもり、辰上刻頃日出しか、まなく又くもりたり、辰下刻より晴て終日いさ、かくもらず、夜二いり月出しより、ちりはかりの雲なく、清光とし(年頃)ころなき月見也き、さるに、亥六刻、月そく、(月夜)かけたりしか、まなくはれてのち、よすからくまなくすめり、月そく、九分半、亥の六刻左と下の間よりかけ始め、子ノ四刻、下左ニ甚しく、丑の二刻下の方に終る、今日、御用向相濟兼候由にて御滞留也、七ツ時曾我様へ御出ニ付、送り行、夜ノ四ツ時御迎二行て帰ル

滞留

八月十六日

十六日

朝間くもり、辰時より晴しか、午中刻よりくもり、未下刻頃より雨ふり出てやまず、巳より東風ふきて未時やミたり、申上刻より雨ふり出て夜すからやまず、されと強からず、辰上刻出立、町はつれ左り高き所に天満宮、八幡宮、祇園社あり、一ツ社地也、石坂あり、石鳥居あり、額あり、一丁よ行片島村、人家左右六十式軒、五丁行石橋あり四間、川津村、人家四十軒左人家有、右法満宮あり、袋村、人家五十軒町長し、町ノ入口許斐宮コノミの社あり、丸く小高く木繁りたる森也、中村、道より左二見ゆ五十軒、柳橋村、家数十九軒一里塚あり、石橋有り三間、目尾シヤカイ村、家数三十五軒、同村之内こさこ原御休、此辺右ハ川也、左ニ南穂波郡、北鞍手郡の郡界石あり、勝野村、人家左右ニ長く続き宿駅ノやう也、左貴布祢ノ社あり、川除堤を十丁余行一里塚あり、五丁計行、南良津村、左右人家廿四五丁行、鶴田村、左ニ人家あり、御休所あり、ならつ村より堤を行し也、此辺水損場也、新山崎村、小坂あり、山部村、左下多賀宮あり、下境村、直方村新町、宿駅に、たり、家数百三拾壹軒、石橋あり、直方村新町をはなれ石橋有、左多賀宮有、社地高く石ノ鳥居あり、額あり、直方村本町、町並よし人家百廿軒、本町より廿間計りはなれ、村、直方川、川は、五十間計、川はた稻荷ノ社あり、宮作りよし、頓野村、左ノ方ニあり、石橋あり四間、三丁計下り右宮有、巷里塚有り、感田村、人家道より左ニあり、木屋ノ瀬宿入口、左こなたの角ニ、右赤間、左飯塚道とあり、木屋ノ瀬宿、鞍手郡、人家式百八拾軒、南ノ方近く川流れ、四方山遠く田畑の中也、五丁計行、石橋あり四間、西鞍手郡、東

直方村

木屋ノ瀬宿

遠賀郡

遠賀郡の郡界の石あり、楠浜<sup>楠</sup>村、人家百拾六軒、松並木道也、ばゞ山村、左右人家、五六丁行、石坂村、左右人家、石坂川大橋あり十間余、石佐峠、上り三四十間にて家あり、上石坂と云、御休所あり、下り小橋あり、又小坂上ル、上香月村、小嶺村、下りて二丁計行、壱り塚あり、二丁計行土橋有、田場也、上々<sup>カミカシヤク</sup>津役村左右人家あり、土橋有、下上津役村、小坂上り三丁計行、右天満宮あり、鳥居あり、下りて左右人家あり、下上津役村也、並木二丁計行下り田地あり、土橋あり四間、道右ニ西市瀬村、東熊手村と杭あり、道ノ左、東熊手村、西引野村と杭あり、谷間也、熊手村の内ノ人家五六軒、道の右ニあり、熊手村之内京良城と云る所御休所あり、一丁行土橋あり、二丁ヨ行、一里塚あり、十丁計なたらに下り、左高き所に天満宮あり、石橋あり三間計、一丁計行黒崎町也、一丁計行、右黒田宮有、高き所也、宮居よく見ゆ、石鳥居あり、かく岡田宮、一丁よ行石橋あり、黒崎宿、遠賀郡藤田村之内

黒崎町

八月十七日

十七日

朝間小雨ふりしか、辰上刻よりやふく晴て終日くもらず、朝より西北風ふきしか、午よりやみたり、今日御用向御取調ニ付滞留

八月十八日

十八日

朝間くもり、辰中刻よりはれたれとくもりかち也、巳より東風吹たれとつよからず、夜ニいり、

雨たひくふり来てやみたり、御用向御取調二付滞留、未中刻、殿様、近藤様え御出二付送り行、申下刻御帰二付迎二行

八月十九日

十九日

朝雨たひくふりて辰中刻より晴たり、未より大かたくもれり、朝より西北風吹たれとつよからず、今日も御用向御取調二付滞留

八月廿日

廿日

朝よりくもり、辰時雨いさゝかふりしか、巳より晴たり、未よりくもりかち也、朝より東風吹つよからず、申刻やみたり、今日も御用向取調二付滞留

滞留

八月廿一日

廿一日

朝間くもりしか、辰時やうくたりしかくもらず、西北風巳りふきたれと、はけしからず

八月廿二日

廿二日

朝より晴たり、辰よりくもりしか、又はれなとてとかく定まらず、巳より西北風いさゝかふく、ゆふ暮やみたり



八月廿三日

廿三日

朝間くもり、辰下刻より雨ふり出てやまず、未よりつよし、辰より東風ふきてやまず、はけしからず、夜半より強くなり、終夜風雨やまず、今日も御滞留

八月廿四日

廿四日

朝より小雨、巳よりやミ、未時後時々いさ、か日かけ見へたれと、くもれり、あかつきより東風ふきやまず、未頃よりやミしか夜半北風つよくやまず、未上刻黒崎町を御出立、町を出て十間計ゆき左へわかる、右ハ小倉道、左の古城山の根にそひ七丁余行、右へ橋を渡り一丁計また小橋、二丁計行御乗船場あり、妙見崎といふ、妙見の社右の山下の少し高き所にあり、妙見のうしろの山丸く小高き山也、波戸場、土俵を積て廿間計築出しあり、御三方様御待合、御乗船、申上刻若松浦ニ着船

若松浦

八月廿五日

廿五日

朝間雨いさ、かふり、辰時よりやミ終日くもり、時々いさ、か雨ふり来たり、東北風あかつきよりはけしく、終日やまず、今日逆風ニ付、若松浦ニ船泊

八月廿六日

廿六日

朝より晴て終日くもらず、朝より東北風烈しく、午よりよはり、南にかはれり、申時やミ夜半より南風ふき出てやまず

八月廿七日

廿七日

朝より快晴、終日いさ、かくもらず、あかつきより南風つよかりしか、巳よりよはりたり、曉七ツ時より船支度し、日出て若松出船、若松入江、人家を左二見て三四丁計にて海也、若松の村のうしろ北向に山王宮の社あり、海辺に石鳥居あり、右ハ出さき也、大木まはらにありて其内ハ田畑也、左二、右小倉侯の遠見番所あり、海辺山つゝきの内わきて高く海へなり出たる所也、此番所の西南筑前国遠賀郡、豊前国企救郡の境にて、小笠原大膳大夫殿、松平美濃守殿領境也、小倉城下、西南若松口より東北、内裏口迄凡一里計ありと、海辺ハ悉く石垣を築たり、城ハ町の中程樹間に小高く矢倉塀など見ゆ、川口より大橋も見ゆ、この橋ハ鉄のきほうしゆなりと語れり、若松口の見付ハわきて高く大きく海辺になり出てよく見ゆ、此城下ハ九州の咽喉にて、城下町ハ福岡、熊本などより広からねと、繁花ハ西海道第一なりと、当地の形容、東ハ鳥こへ山近く、南ハ田地二里計あらんか、西の帆柱山につゝき小山あり、かつ筑前に誠にせまれり、北ハ海あり、小倉より丑寅にとりこえ山、南北に長くと高し、このうへ山につゝけり、との上村、とりこへ山につゝき、北ノ方にて高し、いづれも峰ハ樹木多し、左二引島あり、西

九州の咽喉

下ノ関

より東に二里よも長からん、南ノ方にふくらの湊あり、かゝり舟多くあり、東ノ方に田ノ首湊あり、いつれも人家見ゆ、左ノ方此島、右ハ内裏浦の海中に与次兵衛灘あり、海中に塚めきていさゝか高く岩有て、其うへに石塔一ツあり、よく尋ねバ氣も付ましき程の石塔なり、ひき島に二三丁はなれ、岸柳嶋あり、(巖流島)此島の事ハ四月廿八日の条ニ云り、皆左ノ方ニ見てのり行く也、左り小倉城下の浦近き船中にて、若松申ニ当ル、引島子丑、長州子丑、はいとまり亥、小倉より内裏迄、陸路ハ東ハとりこへ、とのうえなどの山にて、西ハ海也、海と山の間田畑十丁余有て、海辺ハ並木めきて松あり、しらき崎、小倉と内裏の間浜辺あり、人家見ゆ、多からず、内裏、海辺近く人家並ひよき所也、とのうへ山の西北のふもと也、浜辺ハ松原也、門司、内裏とおなしさまの所也、うしろの山内裏より低し、前ハ海也、西に向ひたり、巳下刻、下ノ関ニ着船、船泊、下関浦より方角、筑前・帆柱山未申、豊前とりこへ午、とのうへ巳、内裏巳午、門司卯、はやとも寅、引島午より申、岸柳島午未、下ノ関町屋酉より子

九月朔日

天保九戊戌年九月 大

朔日 巳亥

朝より小雨ふり、巳時やミしか、まなくふり出て終日小雨やまず、朝より東北風ふきしか、つよからず、午より大かたやミたり、今日風雨あしき二付、田ノ浦船出さず

九月二日

二日

田浦

朝間くもり辰上刻より晴、終日くもらず、朝より西風ふきてやみ、未上刻より西風吹出てつよく、夜半北風にかはりたり、辰中刻田浦を出船、左ノ方長門の山高く続き、海辺に長府の城見ゆ、干珠島、満珠島皆左也、右ハへさき番番所(マ)より北ノ方ハ人家なく、廿丁はかり有て又海辺に家十軒余見ゆ、西北向也、田ノ浦ノ内のみよし、前の所と違ひ皆しつかふせ屋のミ也、それより十丁余ありて、へさき村あり、北に向へり、家多からず、是豊前の北へなり出たる所也、船ハ豊前の方へよりてのりゆく、左ノ方長門の地方遠く見ゆ、朝より風吹とも南風なれハ帆をさけこき舟にて行、本山崎、長門の内也、戌亥より辰巳へ出たる崎也、出さきハはげ山のかげの所あり、五六丁、地方芝山の高き所数丁あり、南の海へたハ畑になしたり、此辺にて見れハ豊前とのうへ山西、筑前法満山午未ノ間、彦山午未ノ間、豊後富士巳午、豊後北ノ崎辰巳ノ間、姫島辰、周防柴ノみさき卯、へさき戌、長府干珠島、万珠島亥ノ方、長府より本山迄の間はな人家あり、和田出さき也、かりや人家あり、木戸人家あり、いづれも船中より幽二見ゆ、末のみさき、海へさし出て松原也、新泊、みさきより東北の奥也、右に高き山の出さきあり、家幽に見ゆ、とこなみ、新泊とでさきをへたて東北の方ニあり、人家見ゆ、丸をさき、とこなみ、東出はりたる所也、岩屋、丸くしけりたる山ノ下、人家見ゆ、をこふり、おなしならひ人家多く見ゆ、さ、島、右の海中にあり、さは島おなしく右ニ有、あいを、左出崎也、松あり、たしま、左人家あり、むかふ、左舟中より近し、大きな島也、むかふと西ノ浦のあはひより中ノ

長府

室積

関見ゆ、地方也、此中ノ関ノ奥、み田尻、太神江などありと、馬島、すくも、此二島右にあり、うつき崎、笠田、大崎、宮のす、鼠島など夜中ニ過ぬ、夜あけて室積ニ着、田ノ浦よりへさきへ一り、へさきより本山へ五里、本山よりみさきへ三り、み崎より丸を崎へ三り、丸を崎より岩屋へ弐里、岩屋より花香へ二里、花香より向へ三り、向よりすくもへ三り、すくもよりうつきへ二り、うつきより笠戸へ弐り、笠戸より室積へ三り、メ三十里

九月三日

三日

室津

朝より晴たり、くもらず、未よりくもりかち也、朝より西北風吹しか午時よわり、未より西北風しはしふき北風と変したり、強からず、辰上刻より出船、室積の事ハ四日の記に委しけれハ書ず、半道計行、左山の中段に人家あり、海辺にも高く石坂を上り宮あり、村名を問と舟人もしらず、一里半行、平尾村、入江の奥に人家多くいとにきハしく見ゆ、右に牛島、流芦島など見ゆ、さうしせを右に見て長島を右に左に周防の地方を見てゆく、左ハ室津、人家数百軒、多くハ土蔵作り、高き所宮又ハ寺なども見ゆ、うしろ北ノ方ハ山高く、南のまへハ海にて、上ノ関と向ひ、一丁余海をへたて東西に家長く続きたり、右ハ上ノ関、北のまへハ海にて、三方ハ山めぐり谷あひめき広し、家数多く見ゆ、海の方に宮あり、高き所に舟人めあての常夜燈あり、下ノ関などのごとく海辺に一軒並ひにてハなし、縦横に小路ありて、家むらかりあり、海岸、岩石、老松のさまいと奇景也、しろ村、室津のてさきの三四丁東也、室津のうしろさま也、東

向也、家甘軒計もあらん、せんばがたけ、しろ村の東北の高き山より海へなり出たる岩石の所、  
かけ、おしなべて名づく、池ノ浦、右あまた島、八島、横しま、へぐり(平郡)、へくりハ島大き也、  
沖ノかむろしま、沖のかむろの東、ゆか島、小き島也、にない嶋ににたり、鹿居ると語れり、  
右になひ島、になひ島二ツあり、此所より左へいり行は、きんたい橋、宮島へ舟道也、四月ハ  
にない島と大島の内だいは島の間を乗たり、今日ハ右に見てゆきしかば左ニあり、になひより  
二里計行て日暮はて、こき舟ニてかむろを過て、地のかむろの出さきを廻りて舟掛し、夜をあ  
かしぬ、此所を牛か首といふよし

九月四日

四日

朝より快晴、未よりくもりかち也、あかつきより西北風吹しか、未より北風はけしく夜すから  
たゆまず、卯上刻頃出船、左よしづ泊、(浦字)由府なと人家見ゆ、左さやノ島、島丸くいさ、か長く、  
樹木とほし、左つわ島、(津和地)右ぬわ島の間をこき行、からこと島に巳上刻着て、汐待しぬ、からこ  
とハ、くすな島の内南よりいりたる湊也、人家三百軒余ありと、ほん湊よりハ辰巳の天満宮の  
社地の下に舟かゝりしたり、山のたゝすまひいとをかし、未上刻から琴を舟出す、次第に北風  
はけしくなり、こき舟にて亀が首に至りて舟泊り、さや島の辺より所々島のあはひより、安芸  
の地方、宮島、うしろの山など見ゆ、右ハ伊予地の山々、見へさる所島陰のミ也、殊に遠から  
ず見ゆ、今日からこと島にて交代し、本船に行たり、亀が首ハ北より東へなり出たる崎也、せ  
まき所甘間計にて、二丁計行て東ノ方山高く大きく松生たり

安芸

九月五日

五日

朝より快晴、あきつき(マ)より東北風つよく吹てやまず、ゆふくれやミしか、戌の時ころより北風又吹出たり、はけしからず、今朝より逆風強く舟のゆる、事いはん方なし、舟出さず、夜二いりてこぎ舟にて出船、夜ノ九ツ上刻頃、横島に到着舟泊、亀か首より横島迄の事ハ四月の日記二見へ、殊ニ闇夜なれハ左右見わからず、筆をと、めぬ、横島北の方、地方につ、きたるやうに見ゆる、松生しけりたり

九月六日

六日

朝より快晴、終日くもらず、朝より北風ふきしが未時やミ、夜二いり西南風いさ、かふきしが、戌時より北風やまず、日出て横島出船、今朝も北風なればこぎ船にてゆく、右にとい島、御手洗島、島大也、人家ハ島の北二有、すくれてにきハしき湊也と、左ハ安芸の地方、おほくハ樹木もなし、海辺に高(土居)とひ、人家よほと見ゆ、少しば、大しば、人家少しあり、いづれも海辺の

いりこみたる所なり、下いかり、海中に岩大ならずそはたちある所也、樹木生るほとにハなし、日向泊、左ノ方人家あり、出さきあり、まつから、同じ方東に向へり、人家多く見ゆ、みつきたに、同じ方辰巳に向へり、人家殊ニ多く見ゆ、村の西南しほ浜を高くつき立たるなど見ゆ、とうせん、四月委しくしるす、高原(マ)、入江の奥也、人家多く見ゆ、か、り舟多し、南に南北高く島のごとくに見ゆる、高からぬ山まはら松ありて、人家の南はしをかくせり、とうせんより

## 三原ノ城

一丁よ、高さきより出さきを廻り人家あり、高さきの内なるべし、忠ノ海、うしろの方北ハ山也、前ハ南に海也、人家南北二入江をめぐりて数百軒見ゆ、村より高き所に寺二軒山の小高き所に宮も見ゆ、のうじ、たゝの海より出さきをへだて、おなしく南に向ひ、うしろハ山也、その山の上に宮あり、是ハ山の出さき也、そのうしろ山高し、人家より東の方、谷ふかくいり、人家も見ゆ、忠ノ海より人家少し、右ハ大島、いと大きな島也、北より南西へ長し、大島の東にミしまとてあり、小島也、大島の内めはるさきの東也、すなみ村、卯辰に向へり、うしろの山至て高し、人家ハ南により多し、うしろの山いたゝき迄畑ニなしたり、このすなミ村の丑寅の出さきを廻れハ、三原ノ城并町一里計奥に見ゆ、城ハ海へつき出したるやうに見わたさる、矢倉十あまり見ゆ、町屋ハ城より東西に見ゆ、北ノ方うしろハ松、おひたる松東西長くありて、其うしろに一きわ高き山、是も東西長くあり、樹木なし、町屋も多きやう也、されと情いかな、田畑あたりにむけに少し、糸さき、北をうしろに山也、南を前にして家多からず、東村はつれに八幡あり、宮居よし、石鳥居あり、夜ノ五ツ時糸さき、本船也、右山伏島、めかり島、いんの島、左野島、田島、あふとなど、夜中なれハたゞ山のかたちのミ見て過ぬ、夜ノ八ツ下り輓に着て船泊、夜ノ九ツ時安藝守殿より領分境引取の断、裁判参り、安部伊勢守殿より大舟頭松本郡右衛門、漕舟、水船召つれ候旨断り二来ル、七ツ上刻、輓着船之節、右郡右衛門、伊勢守殿使者佐原熊之助など来ル



九月七日

七日

朝間うすくもり、辰よりはれ、申上刻よりくもりかち也、朝より北風吹てやまず、されと強からず、午上刻鞆を出船、左ハ番所のうしろ、岩山高くつき立たるごとくにて、寺あり、海の上  
に堂あり、其山の北ノ方低き所、海辺に遊女屋並び立り、北ノ方、南の方より一丁はなれ、かの遊女屋をへたつ、寺あり、此寺、頗普請よく、つき立たる如き境内にて、眺望いかばかりよ  
からんと覚ゆ、鞆ハ戌亥ハ高山、辰巳ハ海にて丑寅より午未の方へ長し、町中に古城跡とて、  
上たいらなる大松まばらに生たる小山あり、その山をめくりて家あり、大山より番所の山の方  
へハ、三丁計も出さきならん、下関などのごとく海辺にのミ並たるにハあらず、縦横に立つら  
ねたり、二千軒ありと云るも偽ともいひ難し、殊ニ寺院多く眺望も寺々すくたり、其名をとへ  
と、舟人なればむけに知らず書残しぬ、四月見しとハ大ニかはり、こたひを証とすべし、一り  
よ出て、左ニ遠くせみぞとて山をうしろに人家見ゆ、申上刻白石に着て舟泊、四月、舟かゝり  
せし所也、備中国小田郡にて当時脇坂中務大輔殿御預所也、鞆より白石迄三里

備中国小田郡

九月八日

八日

朝間くもり、辰より時々日かけ見へしか、巳下刻より小雨ふり出てやミ、又ふりなとせしか、  
夕方より雨やまずふり、夜半やミたり、朝より北風ふき午時やミたり、夜あけて白石を出船、  
逆風なれば艫にて三郎島迄行しか、北風いよく強く、こきゆき兼、巳下刻再び白石島に帰  
りぬ

九月九日

九日

朝間くもり、辰より晴たれとくもりかちなり、朝より西風ふく、時々よわりたり、夜戌時より西北風となれり、強からず、辰上刻白石島を出船、左三郎島、水島、右塩飽島の島々、此辺水島などといふ、左下津井、日比、右大づ、此辺より高松の城、天守白く見ゆ、やしまの南也、六七里計もありと、京上藤の辺より日くれ、夜ノ九ツ時牛窓に着て船泊

九月十日

十日

朝間日出しかまなく陰り、巳中刻小雨ふり出たりしか、まなくやミ午上刻よりはれたり、朝より西風ふき午よりわきてはけし、夜ノ戌時はけしさいはん方なし、夜あけて牛窓を出帆、なよふ津泊、たて、大田府、あふこさき左二見ゆ、赤穂、左二里計に見ゆ、城ハ松木並しけり、矢倉四ツ五ツ、へい白く見ゆるのミ也、町ハ城より北に見ゆ、城を中にして南北塩浜多く見ゆ、東一方海にてあと三方ハ山めくれる土地也、左□□□□<sup>(虫標)</sup>□□□□也、人家多く見ゆ、北より出崎ありて、森しけりたり、赤波山陰にて見へず、右ハ小豆島長く、からと島など見ゆ、巳中刻雨ふり来けれハ室津明神を左に見て過行、室ノ北浦に舟着たり、此所ハ室といさ、かの山をへたて、背中合の所也、人家ハなし、此所より戌亥<sup>つご</sup>丁はかりなれば、辰巳向入江の奥に西泊の人家見ゆ、此北浦ハ領主の船蔵二ツあるのミ也、夜五ツ時頃より西風ますく烈しく、四ツ時頃船なかれ出なとして、大きにさはかしく、夜すから船ゆられよくとねられず

室津明神

九月十一日

十一日

朝より晴しか午上刻頃空かきくもり、村雨ふり来て心もとなき空合なりしか、兵庫辺はいさ、かふりしのミ也、未より再び日出てくもらず、朝より西風吹しか、巳時頃わきて烈しく、午中刻より風よはりたり、夜あけ、しほし有て室を出帆、右播磨の地方所々人里見ゆ、しかまの津、広き田場にて姫路の天守、矢くらなとも見ゆ、書写山の山も遠く見ゆ、めか、福泊、そね、大さき、高砂、べふ、小宮、うしき、□岡、江島、こハ、さかと□、明石、高砂辺より明石辺まで山なく地面多く明石の城ハ大木の中に矢倉数多く見へ、長く見わたさる、也、大くら谷、かふす崎、塩屋、一ノ谷内裏あと、てつかいかミね、駒ヶ休などミゆ、右ハたんげ、くらかけ、亀島、此辺はりま灘の半也と云り、はりまなたとハ室より明石まで十二里をいふ、此所地方遠浅、掛場なく、阿波・淡路の方より浪よせ来て、南風杯にてハ一切舟行しかたしと、舟人の甚恐る、所也、されハ九州・四国の大名衆、室よりのミ御乗船也と云り、淡路、あかしとのわたり至てせまし、赤石沖辺、今日浪高き事いハんかたなし、九州渡海の沖にも覚へなき迄也、午時空くもり、はやてめきたりとして舟人さハき、兵庫の湊へ舟着たり

九月十二日

十二日

朝より日出たれと快晴ならず、未上刻雨いさ、かふりてやミしよりくもりかち也、夜二いり月出清明也、午中刻兵庫浦を出船し、申中刻大阪川口ニ着て舟泊、兵庫浦にてまや山子、生田鳥

大坂御城

居子丑ノ方、一谷申酉ノ方、てつかいか峰戌ノ下り、伊駒山卯、大坂川口卯、金剛山辰巳、二上山卯、加田ノ崎午未ノ間、淡路島申より酉迄、湊川戌、舟のり出るに随ひ四方眺望いはん方なし、北ノ方六甲山の下通り、浦々里々多く、浜辺に人家多く見ゆ、大坂阿治川口(マ)の海中にて住吉卯辰ノ間、大坂御城寅、有馬亥子ノ間ニ当ル、六甲山、かふと山亥、金剛山辰巳ノ間、兵庫西、加田未申ノ間、一ノ宮酉上、淡路国申酉ノ間、くらかり峠卯

九月十三日

十三日

朝よりはれしか、巳よりくもちかちなり、未中刻しくれ一しきりふりてやミ、日出たれと大かたくもりたり、夜二いり月出たれどおほるにて、良夜とも思われさりしか、夜半よりくまなくはれたりと人ハ語れと、己レハ見ず、辰中刻、御召替船ニ乗替、御三方御一同二順々乗出し、御三方共御召舟・御供舟共、船は勿論、幕は外共新規ニ拵候也、大川筋、阿治川橋、中橋、湊橋、玉屋橋、たミの橋、筑前橋、肥後橋、越中橋、梅檀木橋、難波橋、よしや橋、高麗橋、平野橋、思案橋の下を通り、西町奉行所の右側備後町湊へ御上陸也、未下刻、曾我様御本陣へ御立寄り、近藤様御一同にて本町筋を行、御城代中やしき番場を通り、東町奉行所へ行、谷町筋を五六丁行大手筋を通り、西町奉行所へゆき、日くれ御本陣迄御帰り

東町奉行所

九月十四日

十四日

高槻城

伏見町

朝よりくもり、辰上刻より小雨休々ふりてやミ、終日くもりかち也、風ふかず、夜あけを待て、御本陣を出立、高麗橋を通り八軒屋へぬけ、左天満橋、天神橋見ゆ、京町一丁目より五丁目迄通り、京橋渡り、右御城、左川向ひ片町、橋を渡り野田村、今福村、鴨田村、関目村、家いさ、かあり、道にて御立場、守口、宿駅なれと家つくりあしく、新山庄兵衛方休、佐太村、右天神宮あり、右道はた石鳥居（額）かあり、大和や善右衛門、枚方村（ヒラカケ）、とろ町、新町、三池新町、御小休河内屋弥左衛門、町長し、左ハ川也、右ハ山にて川にそひ町あり、此辺より左一里余遠く高槻城見ゆ、楠葉村、橋本村、はしもとより前、胄山へゆく小道二所あり、橋本入口、石清水領の杭あり、左ハ川向ひ山さき、右ハ石清水の社山にて山下に橋本の町あり、煙草屋徳兵衛休、淀大橋、木津川ニ掛ル百廿五間、孫橋、橋流舟渡、城下町を通ル、左城あり、小橋、橋普請中にて舟渡、凡百間計、小倉堤を通り伏見町ニ入ル、新し橋和田三左衛門泊、（頭注にあり）守口町 新出武兵衛、佐太 大和屋善右衛門、枚方 河内屋与左衛門（マヤ）、橋本 煙草屋徳兵衛、淀 八はん元蔵

九月十五日

十五日

朝よりくもり、巳時より日かけいさ、か見へしか、終日くもりかち也、朝間北風いささかふきてやむ、早朝伏見を出立、町長けれと略す、藤森文殊四郎休、是より一丁計手前右、深草古禪

林と額あり、小寺也、一丁計行左藤森社有、道はた二鳥居あり、三丁計奥宮あり、大社也、二丁計行左大津、三り十六丁、宇治へ一里とあり、二丁計行、光明山即成院有、石橋あり、大亀谷、左右田谷間也、小坂を上り左右茶屋二軒有、右八幡あり、勧修寺御門跡道ノ左ニあり、石橋あり、田場二町よ也、水ハ右へ流る、右醍醐道の杭あり、左右山高し、従是東西北小堀主税支配所と右ニあり、藪下茶屋あり御立場也、勧修寺より廿四丁、左蓮如上人御塚道と杭あり、十丁計行、京と追分あり、追分町長し、荒物屋喜右衛門休、逢坂左右山高く松木しけりたり、草津宿泊、(頭注にあり)藤森 文珠四郎、観修寺村 大黒屋伊兵衛、追分 荒物屋喜右衛門、鳥ゐ川 官兵衛、姥餅 金沢治郎右衛門、草津宿 田中七左衛門

九月十六日

十六日

朝より小雨ふり終日やまねとつよからず、風もふからず、(マ)暁七ツ半時出立、梅木にて挑灯をけしたり、御休、坂下泊、(頭注にあり)梅木 せさい、石部 小島全右衛門、田川 植木屋庄左衛門、水口 薄井又左衛門、大野村 金屋磯兵衛、土山 堤忠左衛門、猪鼻村 加島屋伝右衛門、坂下 若林加兵衛

九月十七日

十七日

朝より日出たり、時々くもり、午よりくもりかち也、午より北風ふき出たれと強からず、ゆふ

桑名

暮いと冷氣なり、暁七ツ時、坂ノ下宿を出立、関宿にて人馬を継替、のち夜明になりたり、桑名泊、(頭注にあり) 関 鈴鹿屋七右衛門、龜山 樋口太郎兵衛、西菊田村 新右衛門、庄野 楠与兵衛、石薬師 黒川彦兵衛、東富田 酒屋五郎兵衛、□村 新屋浅右衛門、桑名 丹羽善左衛門

九月十八日

十八日

池鯉鮒

朝よりはれたれと、時々くもりかち也、朝より西かせふき、辰時やミ終日静なり、夜あけて桑名を船出したたり、池鯉鮒泊、(頭注にあり) 熱田口 湊屋与兵衛、鳴海 西尾伊右衛門、阿野坂 縁屋善左衛門、池鯉鮒 木綿屋嘉十郎

九月十九日

十九日

朝より晴て終日くもらず、風もふかす、朝間いとく冷氣也き、暁七半時頃地露つよからず、暁七ツ時地鯉鮒宿出立、大浜にて夜あけたり、吉田泊、(頭注にあり) 大浜 丸屋清蔵、黒崎 服部専左衛門、藤川 藤屋半次郎、法花寺門前 鈴木新助、赤坂 平松弥一右衛門、小坂 井村 治郎兵衛、吉田 山田新右衛門

九月廿日

廿日

朝より晴たり、未よりくもりかちなり、辰より西風ふきしか未よりやみたり、暁七ツ時、吉田城下を出立、二川にて人馬継替、暫し休みて出しか、やうくしらみゆきたり、見附泊、(頭注にあり) 二川 松坂権右衛門、白須賀 桐屋惣次郎、新庄 疋田八郎兵衛、舞坂 宮崎伝左衛門、浜松 杉村助右衛門、篠原村 鈴木喜兵衛、池田 島屋政吉、見附 鈴木孫兵衛

九月廿一日

廿一日

朝間、雨いさゝかふりてやみ、やかてくもれり、未時いさゝか日影見へしか、おほかた曇りたり、暁七ツ時見附宿を出立、袋井にて人馬継替、其うへ休み、ふせ川の辺にてやうく夜あけたり、藤枝泊、(頭注にあり) 袋井 大田八兵衛、原町 池野平兵衛、掛川 河野弥三左衛門、日坂 黒田屋富三郎、中山 市郎左衛門、金屋 佐塚佐次右衛門、島田 置塩藤四郎、三軒屋 岩崎屋太郎右衛門、藤枝 村松伊右衛門

藤枝

九月廿二日

廿二日

朝より快晴、終日くもらず風もふかず、いとくあたゝか也、暁七ツ上刻出立、岡部宿にて夜中人馬継替、うつのやの上り坂にて夜明たり、沖津泊、(頭注にあり) 岡部 江戸屋治郎助、うつのや村 江戸屋団右衛門、まり子 横田三左衛門、安部川 破風屋六兵衛、府中 平尾清三郎、小吉田 杉山久左衛門、江尻 日高平七、奥津 手塚十右衛門



九月廿三日

廿三日

沼津

朝日出しかまなくくもり、巳上刻雨ふり出しか午よりやミ、終日はれず、朝より南風吹、つよからず、八ツ時頃より支度して出たり、由井宿にて人馬継替、御休有之、蒲原宿にて御昼食也、行灯にて食事したり、沼津泊、(頭注にあり) 由井 岩辺四右衛門、蒲原 江戸屋久右衛門、岩ふち 常磐弥兵衛、吉原 神尾六左衛門、柏原 浮島理右衛門、原 香具や市郎右衛門、沼津 高田弥三左衛門

九月廿四日

廿四日

小田原

朝よりくもり、辰下刻より晴たれと時々くもりかち也、朝より東風吹烈しからず、夜戌時より大雨、八ツ下刻、沼津城下を出立、みつやにて夜明、小田原泊、(頭注にあり) 三島宿 大和屋善兵衛、三つ谷 伏見屋伊左衛門、山中 宗閑寺、箱根 川田覚右衛門、畑宿 油尾伝七、湯本 伊豆屋定右衛門、小田原 清水彦十郎

九月廿五日

廿五日

戸塚

朝間小雨、辰よりくもり、巳より日出たれとくもりかちなり、夜ノ酉時より時雨ふりしが、夜半やミたり、暁八ツ下刻出立、佐川を渡り□津にて夜明たり、戸塚泊、(頭注にあり) 梅沢 松屋作右衛門、大磯 小島才三郎、平塚 安兵衛、南郷 江戸屋八郎左衛門、四谷 藤ヤ平左衛門、藤沢 和田七郎右衛門、戸塚 内田七郎兵衛

九月廿六日

川崎

廿六日

朝より晴、終日くもらず風もふかす、寒からず、夜明て戸塚出立、神奈川にて休ミ、川崎泊、八ツ時御着、用人兎玉泰輔殿御知行村役人、其外御親類方役人衆など御迎に來居たり、泰輔殿より、給地名主壱人御屋敷迄参り居、尤明日取込二付、御帰府之節世話を頼置候旨物語有之、川崎泊、(頭注にあり) 境木 若林長四郎、保土ヶ谷 苅部清兵衛、神奈川 鈴木源右衛門、なま麦 藤屋伝七、川崎 佐藤惣左衛門

九月廿七日

廿七日

朝より誠に快晴、終日少しもくもらず、風もふかす、誠に天気よし、曉たかく川崎を出立し、品川釜谷二至りしに、いまた夜あけず、此所迄御迎來し事幾人となし、巳中刻、品川出立し、う月出立之道筋を通り、赤羽根にて御休、午中刻御屋敷ニ御着、今日の事筆記に暇あらず、別書にゆつりて略きぬ、おのれハ、御玄閑間にて御馳走をいたゝき、日くれ本郷六丁目三河屋

五郎右衛門二行てやとる、其は当年雨天かち二付、田作よろしからず、地頭所え願立せんとて村々総代二十五沢村名主、郡次出府して、牛込御屋敷迄來て待居たれば、本郷迄同道したりき、わか同役其外、御向屋敷松平勘太郎様御長屋を御拝借有之、尤郡次御用役中より御頼にて諸事引請、世話取持等致ス

西国巡見使

船中にて書

此日記ハ、西国巡見使大久保勘三郎君に御供して、ことし天保九年四月朔日、大江戸を出立て、九月廿七日帰りつきし迄の日記なり、そハ日ことに見めぐりし村里山川のた、すまひをもらと記して、やん事なき事をも筆のついて、まれまれ書のせしもあり、おのれはやくより、皇御國のふみよむ事を好みて、はしめ清水浜臣大人に名つきおくり、平田篤胤、前田夏蔭など、むつひかはし、また立原任ぬし、青山拙齋ぬし、亀田鵬齋などのすくれたるはかせを、としころ訪ひ行て、からのやまとのちよろつの事をとひあきらめしことおほかりき、そかに、わきて地理の書を好みよみて、わか国の日記、紀行などいへるをしたふあまり、おのれもさきつとし、文政三年、東路より熊野を経て、内つ国々ゆきめぐり、木曾路より帰りし日記をはしめ、ちかき国々十日、五日、いさゝか一夜二夜の旅寝をも書記しておくのくせあり、そハわきて道ノ記なと名つけて、詞をかさり書つめしにハあらず、わかきとしより、日ことに筆にまかせて書しるせる日記ノ中の、道ノ記ともいふへき事をかいぬきて、貝原翁の諸州めぐり、吾孀路ノ記、木曾路記など名つけしならひて、伊勢日記、雨降日記、房総日記など名つけし也、此日記ハ、つくし旅路の日ことの事を、思ひ出るにまかせて、其夜ことに書きつめおきしを、黒崎より大坂迄の船中にて、わが大久保君の見そなはし給はんと仰有しを、其したかき、あまりにくたくしく見くるしければ、船中にて書あらためて見せ奉りし也、みちすからふるき宮寺より、名たゝる所々引まほしき古書おほけれど、旅路に一卷のふみをもたねは、有しさまをのみかくそして、六ノ巻まで書し時、はや大坂に船はてければ、筆をと、め、七ノ巻ハ男要蔵、良広か

日記を見て書ぬきせし也、おのれ、もとより物かくわさにつたなきに、よるひるおほやけ事のつとめしけいとまに書たるなれば、其書さまのあしきは、人の見るめもつゝましうなん、かさねていとまのをりから、大かたを尽してかいつけん、うけをまつになん有ける

上総人

天保十年

立野太郎兵衛

三月

良道